

第18回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」

“ 施策ごとの分析 ”

1. まちや暮らしのなかで市民が活躍し、次代を育む“教育文化都市”	1
2. 健康で、互いのつながりを大切に支え合う“健康福祉都市”	13
3. 地域の特性を活かし、暮らしを支える活力を興す“産業創造都市”	34
4. 暮らしやまちのなかに賑わいと交流を生む“多文化交流都市”	42
5. 豊かな自然とともに快適に暮らせる“環境共生都市”	54
6. 持続可能なまちづくりを支える“行財政運営”	70
7. 公共施設の利活用	76

令和7年3月

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	子ども課
目 標 名	教育文化都市
施 策 名	1－1 子育て支援

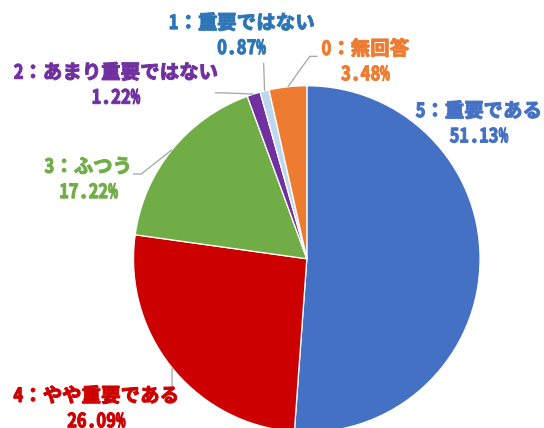
1. 施策の平均及び順位

1－1	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
子育て支援	4.22	2	4.30	2	－	0.08	3.07	12	3.05	13	↓	-0.02
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

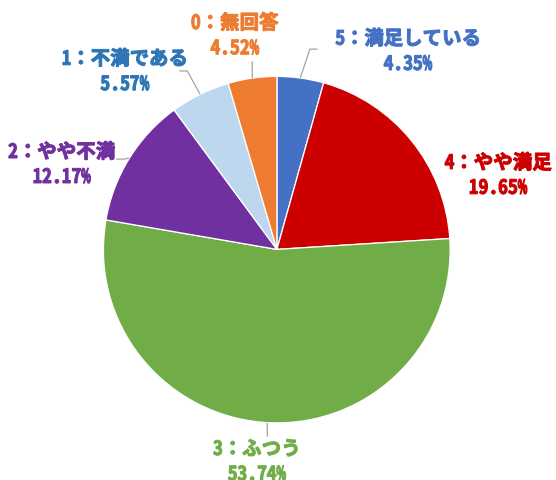
※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

重要度（全年代）



満足度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	23	0	0	0	0	0	3	8	10	2	0	0
20 代	28	6	4	0	0	2	4	6	16	8	4	2
30 代	35	4	5	0	0	0	1	7	20	10	6	0
40 代	42	14	8	0	2	1	5	18	24	9	10	1
50 代	37	27	24	2	1	1	4	16	55	7	6	4
60 代	56	37	22	1	1	4	2	23	77	14	1	4
70 代以上	61	54	32	3	1	12	6	30	92	16	4	15
不詳（無回答）	12	8	4	1	0	0	0	5	15	4	1	0

4. 分析

重要度は前回同様に全体の2位で、引き続き高い関心が示されています。

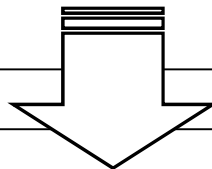
満足度は、前回より順位が1つ下がっています。これは「不満」のポイントが増えたことによります。年代別にみると、ほぼすべての年代で「重要である」と認識されており、特に20代から40代の子育て世代に顕著にあらわれています。一方の満足度については前回と同様に「ふつう」が過半数を占めています。

○課 題

市が行う各種の子育て支援事業に対する更なる充実を求めるもの、子どもの遊び場の確保や環境整備（遊具管理を含む）、子育てと仕事を両立させるための一時的な預かりや病児保育の充実など、多種多様な要望が寄せられています。

このことから、次代を担う子ども達を安心して生み育てることができる環境づくりを進め、地域社会全体で子育て世帯や子どもの成長を支えていくために、子育て家庭の多様なニーズを把握し、計画的に施策に反映させていくことが重要と考えます。

同時に、実施している事業の周知が不足していると感じられることから、広く周知することで、満足度の「やや不満、不満」（事業の利用の仕方が分からない）を減らしていきたいと考えます。



○課題解決への取り組み

- ・令和6年7月に「第3期大館市子ども・子育て支援事業計画」の策定のためのニーズ調査を実施したところ、今回の世論調査と同様の要望が寄せられました。
- ・要望が寄せられた部分が市民のニーズが高い分野であることを認識し、新たな施策を検討してまいります。
- ・制度の周知については、「おおだて子育てハンドブック」「おおだて子育てねっと」による各種事業についての情報発信を行ってまいります。

●総合分析

前回の調査に引き続き、今回の調査でも「子育て支援」が年代を問わず、医療に続き関心が高いことが再認識されたところです。寄せられた多くのご意見では、市が実施する子育て支援事業の成果を評価していただいている一方、まだまだニーズに応えきれていない部分が把握できました。これを踏まえ、一時預かり事業、病児保育事業、ファミリー・サポート・センター事業などについて、引き続き継続し、内容の充実についても検討してまいります。また、パークセンターの「子どもの遊び場」を市内に複数ある遊び場の選択肢のひとつとして、多くの子育て世帯にご利用していただけるよう工夫してまいります。

このほか「子育て支援」を重要度が高い分野として、既存の事業を着実に進めると同時に「不足している、求められているものは何か」を検証しながら、市民のニーズに応えられるよう努めるとともに、核家族化や地域との関わりの希薄化に伴い、子育て家庭への心身のケアや育児のサポートを確実に展開していけるよう、関係団体・関係各課との連携を一層強化してまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	健康課
目 標 名	教育文化都市
施 策 名	1－1 子育て支援

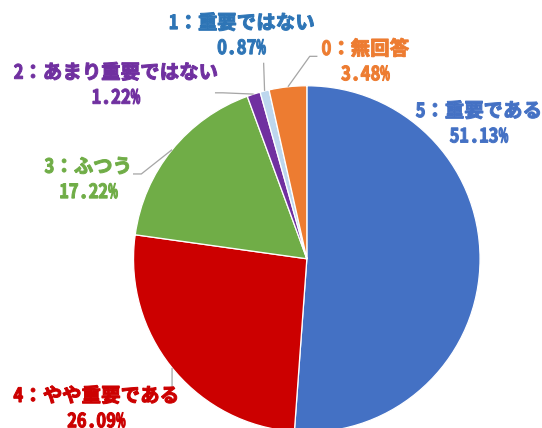
1. 施策の平均及び順位

1－1	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
子育て支援	4.22	2	4.30	2	－	0.08	3.07	12	3.05	13	↓	-0.02
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

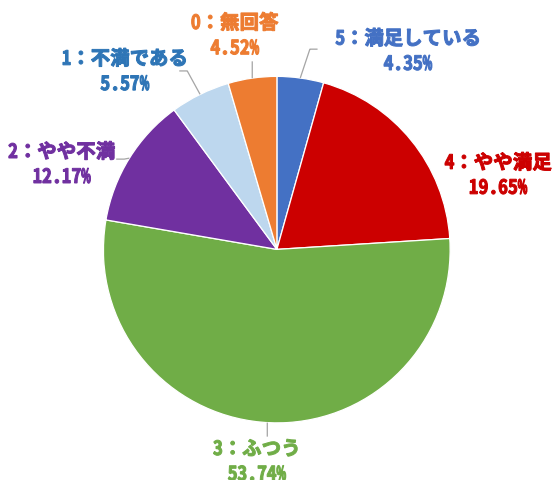
※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

重要度（全年代）



満足度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	23	0	0	0	0	0	3	8	10	2	0	0
20 代	28	6	4	0	0	2	4	6	16	8	4	2
30 代	35	4	5	0	0	0	1	7	20	10	6	0
40 代	42	14	8	0	2	1	5	18	24	9	10	1
50 代	37	27	24	2	1	1	4	16	55	7	6	4
60 代	56	37	22	1	1	4	2	23	77	14	1	4
70 代以上	61	54	32	3	1	12	6	30	92	16	4	15
不詳（無回答）	12	8	4	1	0	0	0	5	15	4	1	0

4. 分析

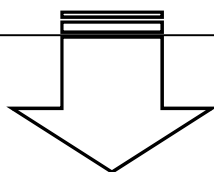
子育て支援は、どの年代でも重要であると認識されており、重要度は4.30と高く、前回と同様に2位となっています。

満足度は前回と同様に、「ふつう」と回答したかたの割合が一番多く、「満足している」「やや満足」の割合が、「不満である」「やや不満である」の割合を上回っています。

アンケートの回答から、子育て中のかたからは相談先のわかりづらさについて、子育て中以外のかたからは子育て支援施策が分からないという回答が寄せられています。

○課 題

子育て世代への公平な経済的支援や遊び場の充実や一時預かり事業等の子育て環境の整備並びに分かりやすい情報発信について要望が寄せられています。



○課題解決への取組み

- ・子育て支援の情報発信の充実
- ・こども家庭センター事業の充実
- ・産後ケア事業等の支援事業の拡充
- ・子育て中以外のかたへの子育て施策の情報発信の充実

●総合分析

加速的な少子化そして激しく変化する社会状況に合わせた多様な子育て支援が求められています。このことから、令和7年4月設置予定のこども家庭センターを主軸に他機関と連携し相談支援体制をさらに充実させるとともに、情報発信の方法を拡充させ、安心して子どもを産み育てることができる環境整備に努めてまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

分析担当課	学校教育課
目 標 名	教育文化都市
施 策 名	1－2 学校教育・青少年健全育成

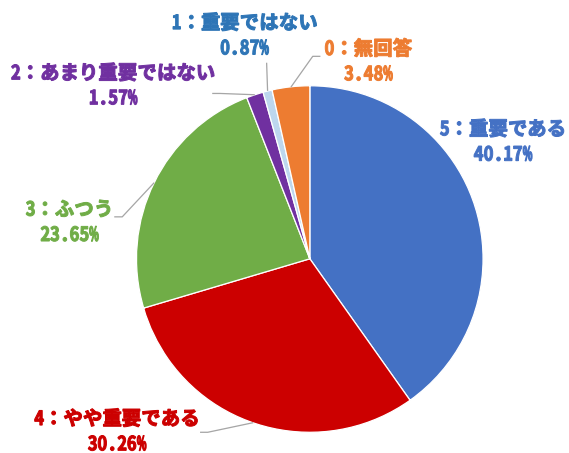
1. 施策の平均及び順位

1－2	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
学校教育・ 青少年健全育成	3.97	12	4.11	7	↑	0.14	3.22	5	3.20	5	－	-0.02
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

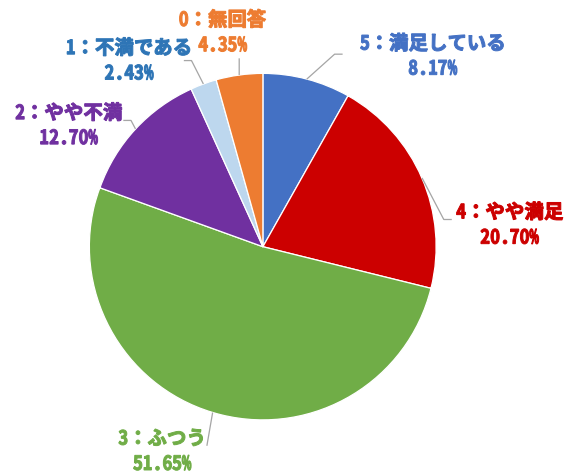
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

重要度（全年代）



満足度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	16	6	1	0	0	0	9	7	5	2	0	0
20 代	18	14	7	0	0	1	4	10	17	7	1	1
30 代	21	15	7	0	1	0	5	11	19	6	3	0
40 代	32	10	23	0	1	1	6	18	32	6	3	2
50 代	29	29	27	5	1	1	4	15	54	12	3	4
60 代	51	39	26	1	0	4	6	24	70	17	0	4
70 代以上	53	55	38	3	1	13	10	30	87	18	4	14
不詳（無回答）	11	6	7	0	1	0	3	4	13	5	0	0

4. 分析

年代別の回答傾向から70代以上を除くすべての世代で重要度が最も高い5となり、回答分布からも「重要である」と「やや重要である」を合わせると70%以上を占める結果となっています。

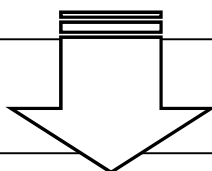
また、重要度の順位も前回の12位から5位へ上昇となっており、ふるさとキャリア教育をしっかりと継続してきたことが大きいと分析しています。

一方、満足度においては前回と横ばいであり、「満足している」という意見は10%未満であり、重要度の認識と対比して課題であると言わざるを得ません。

○課 題

重要度に比べ満足度が低い原因は、各校の取組（学校経営、児童生徒の姿、授業の質、地域連携）や教育委員会の取組の成果が、市民に十分に周知・浸透されていないこと、理解されていないことではないかと分析します。

また、ふるさとキャリア教育やおおだて型授業の推進については、一定の成果を挙げ続けていることから市民の評価も高まっていますが、「活動が見えない」との意見も根強く残っています。



○課題解決への取組み

市独自の教育理念である「ふるさとキャリア教育」をどの年代にも周知するとともに、これまでの取組の成果を実感できるよう、また地域住民との接点をより拡大するため、SNS等を効果的に活用した広報活動の取り組みを進めます。地域住民の理解を得ることにより地域の教育力を生かした人材育成が一層促進され、満足度向上につながるものと考えます。

●総合分析

学校教育への満足度は、子どもの成長の姿や成果、教育活動の質、教育環境（施設・設備）、教育予算と多岐にわたることから、真意が具体的に見えてこない部分があると捉えております。

「ふるさとキャリア教育」は人材育成の施策としてだけではなく、教育による地方創生として全国から注目され高い評価を得ているため、これらをさらに推し進めてまいります。

また、地域連携の向上を求める意見や若者のふるさと定着問題など課題解決に向け、前向きに検討を重ねてまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	生涯学習課
目 標 名	教育文化都市
施 策 名	1－3 生涯学習

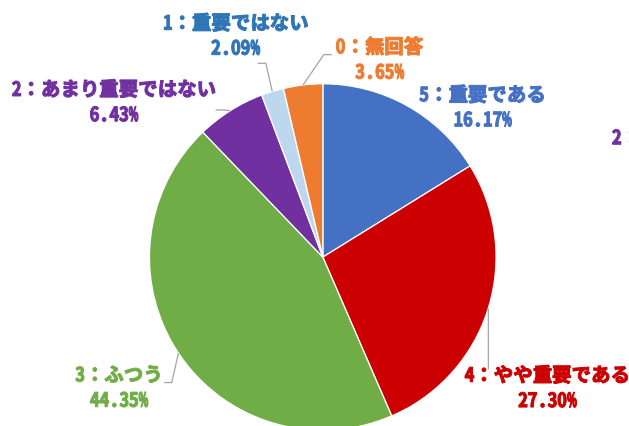
1. 施策の平均及び順位

1－3	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
生涯学習	3.29	26	3.51	22	↑	0.21	2.97	21	3.03	16	↑	0.06
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

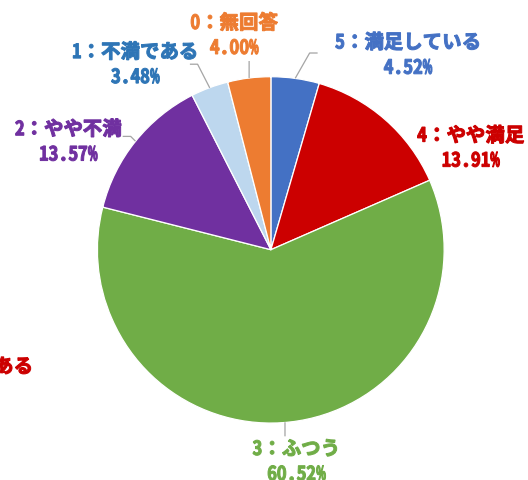
※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

重要度（全年代）



満足度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	12	6	5	0	0	0	5	7	10	1	0	0
20 代	8	13	12	5	1	1	2	6	20	9	2	1
30 代	7	6	24	5	2	0	3	7	25	6	3	0
40 代	9	19	33	3	2	1	3	13	41	8	1	1
50 代	9	28	41	10	3	1	1	13	58	8	7	5
60 代	22	29	57	6	2	5	2	13	83	18	2	3
70 代以上	22	50	71	5	2	13	6	17	98	24	5	13
不詳（無回答）	4	6	12	3	0	0	4	4	13	4	0	0

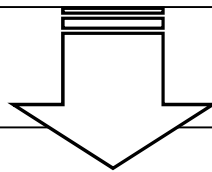
4. 分析

重要度は全 27 施策中 22 位、満足度は 16 位と、前回より順位は上がっていますが、満足度については平均を下回っています。年代別満足度では「ふつう」の評価が 6 割を超えました。

生涯学習は重要だという認識はあるものの、その施策に対しては十分に満足していただけていないものと考えられます。

○課 題

- ・各種講座の存在は認識しているが興味のあるメニューがない、時間的に参加が難しいというご意見や、そもそもの事業に関する PR が不足していること、事業内容にもっと工夫が必要。
- ・「オンライン講座」の実施や、「だれでも参加」できるような講座やイベントを実施してほしいという声もあり、世代ごとの生活スタイルや興味・関心に合わせた講座やイベントを企画し、市民が気軽に生涯学習にアクセスできる環境づくりを考えることが重要である。
- ・市が主催するイベント等については、前例にとらわれず、あらゆる世代が交流し、学び合い、楽しめるようなプログラムを検討する必要がある。



○課題解決への取組み

- ・市広報やホームページのほか、SNS を積極的に活用し、若い世代への情報発信の強化を検討する。
- ・大館学び大学や出前講座、大学公開講座など、社会人の学び直しのニーズを把握し、講座内容の充実を図る。
- ・家庭教育や木育事業、生涯学習フェスティバルなどのイベントは、マンネリ化しないよう工夫して、乳幼児から高齢者まで幅広い世代間交流の場をつくり、参加者を増やしていく。

●総合分析

生涯学習は重要と認識しているものの、興味のある講座がないことや、時間的に参加が難しい、PR 不足などの声が多くあったことから、満足度が低い傾向であることが分かりました。

まずは、市で実施している講座やイベントなどを積極的に情報発信していくことが必要と考えます。その上で、市民・企業ニーズの把握と情報収集を行い、誰もが学びの場に気軽にアクセスできるよう、その環境整備に努めていきたいと考えております。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

分析担当課	スポーツ振興課
目 標 名	教育文化都市
施 策 名	1－4 スポーツ・レクリエーション

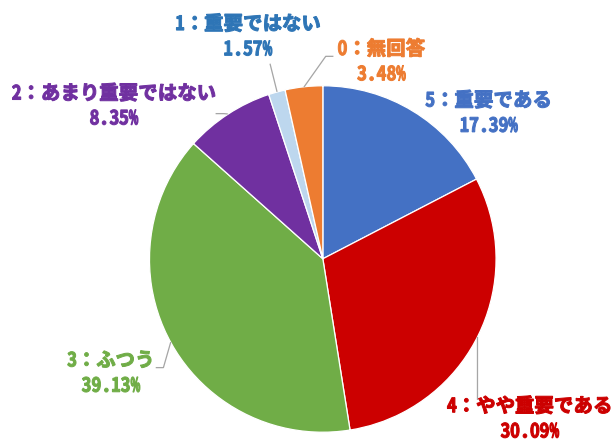
1. 施策の平均及び順位

1－4	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
スポーツ・レクリエーション	3.65	19	3.55	20	↓	-0.10	3.04	14	3.14	8	↑	0.10
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

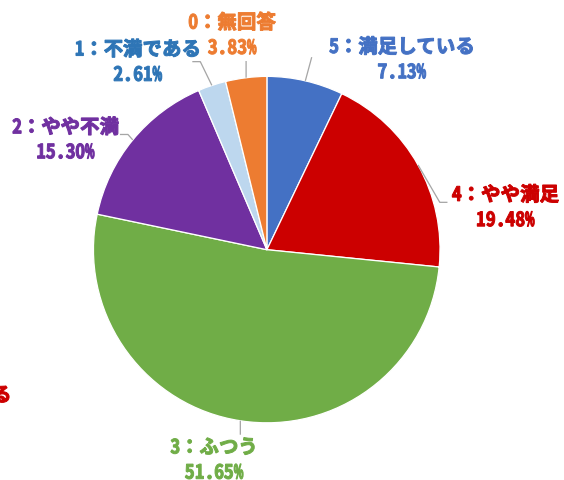
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

重要度（全年代）



満足度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	5	12	3	3	0	0	6	9	5	3	0	0
20 代	7	13	13	4	2	1	3	8	19	8	1	1
30 代	9	9	19	5	2	0	3	10	21	6	4	0
40 代	14	14	32	4	0	3	7	12	38	7	0	3
50 代	16	26	34	12	2	2	4	18	49	13	4	4
60 代	19	44	47	6	2	3	5	24	64	25	0	3
70 代以上	27	48	66	10	1	11	11	27	87	22	5	11
不詳（無回答）	3	7	11	4	0	0	2	4	14	4	1	0

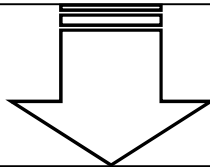
4. 分析

重要度では、前回調査に比べポイント、順位ともに下がったものの、満足度では、前回調査と比べポイント、順位ともに増加しました。世代別に見ると10代では重要度、満足度共に「満足」「やや満足」が多い傾向であります。それ以外の年代では「ふつう」が大半を占めて、その分「満足」「やや満足」が少ない傾向となっています。

10代～30代では一定の評価は得ているものの、働き盛りである40代以降の年代ではスポーツへの関心度合いに比べ、満足とを感じるまで至っていない年代が多いと考えられます。

○課 題

- ・過半数を占める「ふつう」層の解消
- ・スポーツ実施率の低下
- ・スポーツへの関心の低下



○課題解決への取組み

- ・動画共有サービスやSNSを活用した情報発信による関心の向上
- ・気軽にスポーツ（体を動かすこと）をできる環境づくり
- ・全世代で楽しむことができるスポーツの普及
- ・スポーツインライフの促進

●総合分析

スポーツイベントの開催やトップスポーツ観戦の機会を提供するとともに、情報提供を行うことで、スポーツに関心を持っていただけるよう努めます。

また、誰もが気軽に運動ができる場づくりと、世代間交流できるスポーツの普及に取り組み、全世代が健康づくりに関心が持てるような環境づくりを推進します

あわせて、「スポーツインライフ」による健康寿命の延伸（フレイル予防）と「スポーツツーリズム」の普及による地域活性化（交流人口の拡大）を目指します。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

分析担当課	歴史文化課
目 標 名	教育文化都市
施 策 名	1－5 地域文化の振興

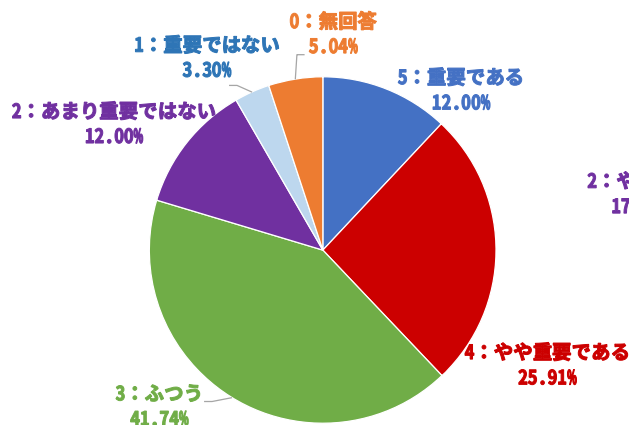
1. 施策の平均及び順位

1－5	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
地域文化の振興	3.31	25	3.33	27	↑	0.02	2.99	19	2.99	17	↑	-0.00
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

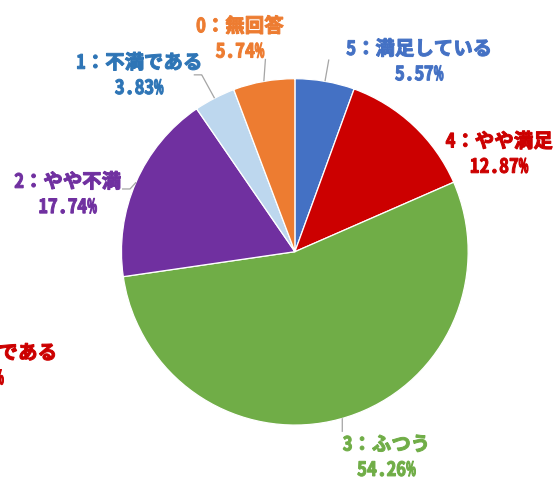
※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

重要度（全年代）



満足度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

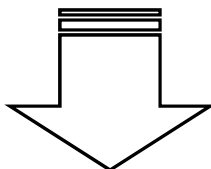
個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	7	8	6	2	0	0	8	6	8	1	0	0
20 代	6	10	15	6	2	1	1	2	25	11	0	1
30 代	1	7	19	10	6	1	5	3	21	8	6	1
40 代	9	14	32	8	4	0	5	5	42	12	3	0
50 代	17	17	38	14	4	2	2	7	58	13	6	6
60 代	6	42	53	11	1	8	3	21	65	23	2	7
70 代以上	22	45	64	15	1	16	6	26	79	31	4	17
不詳（無回答）	1	6	13	3	1	1	2	4	14	3	1	1

4. 分析

重要度・満足度の平均値はほぼ横ばいで変化が見られなかった。他の施策分野と比較しても重要度の平均値が0.5ポイント低い結果となっています。

○課題

- ・この分野に興味がない
- ・何をやっているのか分からない



○課題解決への取組み

- ・FBやX(Twitter)などSNSを通じた情報発信と共に、オールドメディアでの周知を強化する。
- ・郷土の自然・文化・歴史などへの関心を高めるために各種講座等を開催するなどしてアウトリーチ活動の強化を検討する。
- ・今まで実施してこなかった企画（謎解きなど）の開催を検討し、まずは足を運んでもらえる環境づくりを目指す。

●総合分析

日常生活と直結しないため、「地域の文化に関心がない」と回答される方が多いと感じますが、日常のなかで普段何気なく目にしたり聞いたりすることで興味が芽生えることもあると考えます。ソーシャルメディア等を積極的に活用するなど、教育普及活動を地道に展開し、文化財等保護の機運の醸成に努めてまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

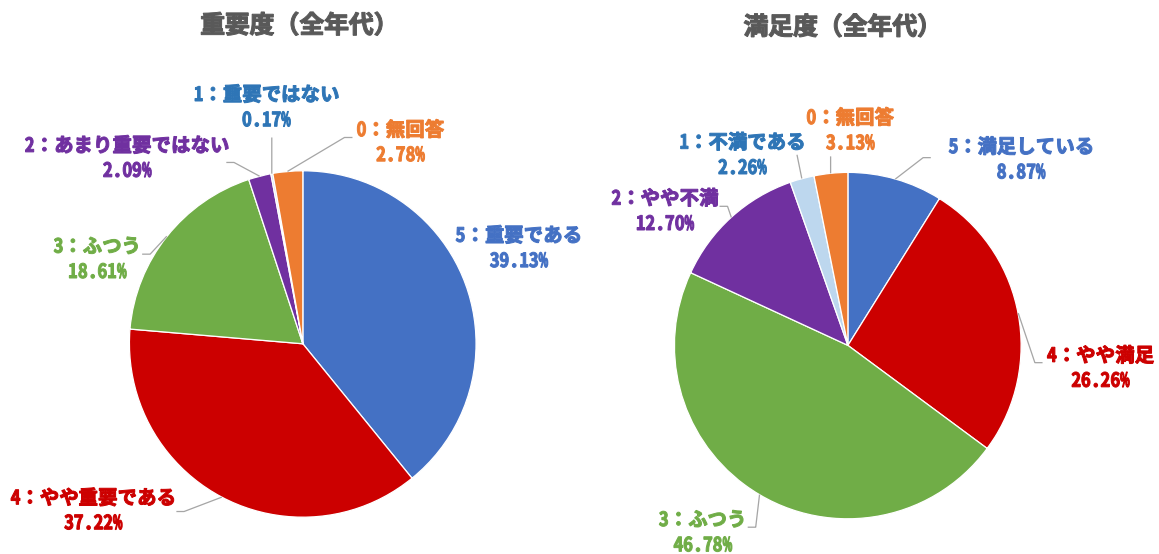
分析担当課	健康課
目 標 名	健康福祉都市
施 策 名	2－1 健康づくり・保健活動

1. 施策の平均及び順位

2－1	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
健康づくり・保健活動	4.13	4	4.16	5	↓	0.03	3.23	4	3.28	3	↑	0.04
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

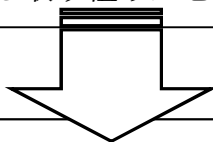
個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	15	8	0	0	0	0	4	8	9	2	0	0
20 代	24	10	6	0	0	0	5	6	18	8	3	0
30 代	17	18	8	1	0	0	3	9	22	7	3	0
40 代	32	19	16	0	0	0	6	12	39	10	0	0
50 代	32	35	20	4	0	1	6	27	36	18	2	3
60 代	42	54	20	3	0	2	8	37	61	13	0	2
70 代以上	55	63	31	4	1	9	17	44	76	12	5	9
不詳（無回答）	8	7	6	0	0	4	2	8	8	3	0	4

4. 分析

重要度は高く、「重要である」・「やや重要である」が約7割を占め、健康づくりは市民にとって関心が深いことが伺われます。満足度の順位は前回の結果より上がってはいますが、約半数の人がふつうと回答しており、満足度を上げる取組みが必要です。

○課 題

- ・ ころの健康づくりに関して、必要性を感じている市民が多いが事業の取組みが周知されていない。
- ・ がん検診や特定健康診査を受けやすい体制作りとして、日曜検診やがん検診の費用助成、個別の勧奨通知、予約体制の整備に加え、若い世代も受けやすい体制作りの充実が必要です。
- ・ 健康ポイント事業は利用者には検診の意欲につながるなど概ね良好ですが、今回、わかりにくいとの意見もあり、更なる事業内容と周知方法の検討が必要です。
- ・ 健康づくり事業については、健康づくり講座の開催や健康情報の提供に努めていますが、より多くの市民に情報発信する取組みが必要です。



○課題解決への取組み

- ・ ころの健康に関する相談窓口の周知を徹底し、早い段階で専門機関につなげていく体制を整える。
- ・ ひきこもり状態にあるかたやその家族の不安や悩みの解消のための相談窓口や居場所の提供の充実を図る。
- ・ 健診（検診）を受けやすい体制整備に努める。（複数の検診の同時実施、日曜検診の実施、若い世代への検診費用助成、WEBによる検診申し込みの充実、関係機関との連携）
- ・ 健診（検診）未受診者への効果的な勧奨（ソーシャルマーケティングを活用した勧奨）
- ・ 健康ポイント事業の実施体制及び各年代に応じた事業の周知方法の検討及び実施
- ・ ICTを活用した健康情報の提供や健康づくり事業の推進
- ・ 働き盛り世代への健康づくり支援の推進（健康づくりチャレンジ事業所認定事業）

●総合分析

健康づくりは、健康寿命延伸のために重要な施策であり、すべての年代で重要度が高い項目ではありますが、健診（検診）事業の受診率は特定健康診査では徐々に増加しているものの、がん検診ともに県平均より低い状況が続いています。今後も受診率向上に向け、ターゲットに合わせたソーシャルマーケティングを用いた受診勧奨資材及び電話による効果的な個別受診勧奨やWEBによる検診申し込み、健康ポイント事業の継続など市民にとって受診しやすい体制整備に努めます。さらに、ICTの活用や自然に健康になる環境づくり、社会とのつながりといった社会環境の質の向上を目指すことで、より多くの市民が健康づくりの取組みを実践できるようになることを目指します。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

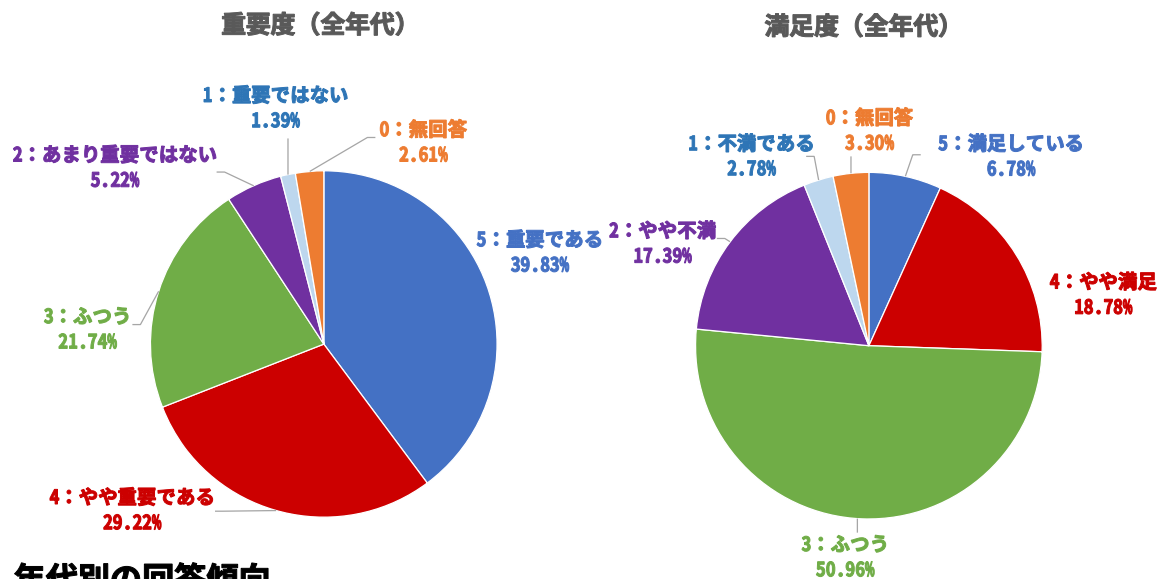
分析担当課	長寿課
目 標 名	健康福祉都市
施 策 名	2－2 高齢者福祉

1. 施策の平均及び順位

2－2	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
高齢者福祉	4.01	8	4.04	11	↓	0.03	3.19	9	3.10	9	－	-0.10
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

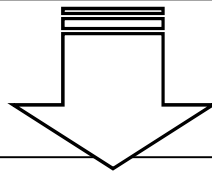
個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	11	7	5	0	0	0	5	4	14	0	0	0
20 代	22	7	5	6	0	0	4	5	20	10	1	0
30 代	19	9	8	3	5	0	2	6	24	9	3	0
40 代	25	19	16	5	2	0	3	14	33	13	4	0
50 代	35	31	22	3	1	0	4	14	51	15	5	3
60 代	45	42	26	6	0	2	6	22	62	29	0	2
70 代以上	65	46	38	5	0	9	15	38	75	22	3	10
不詳（無回答）	7	7	5	2	0	4	0	5	14	2	0	4

4. 分析

重要度・満足度ともに平均を上回り、回答分布をみると、重要度において「重要である。やや重要である。」が約7割を占め、年代別においても全ての年代で高齢者福祉施策が「重要である」と認識されています。満足度について最も多い回答は、前回に引き続き「ふつう」が約半数を占めていますが、全体の傾向として「やや不満」の割合が前回と比較して高くなっており、満足度を高める取組が必要と考えられます。

○課 題

- ・「情報の提供が少ない」、「高齢者が直接情報にふれる機会を増やしてほしい」などの意見から、制度や事業に対しての情報提供をより効果的に進める必要があります。
- ・認知症に対する理解不足を解消する取組が必要と考えられます。
- ・「高齢者が安心して暮らせるまちづくり」を進めるために、地域による支え合いや様々な団体と協力してサービス提供体制を作り上げていく必要があります。



○課題解決への取組み

- ・市広報や新聞、ホームページ等マスメディアを活用した情報発信。
- ・関係機関（関係課、地域包括支援センター、地域支え合い推進会議、生活支援コーディネーター）との緊密な連携をもって課題共有し、地域包括ケアシステムを推進する。
- ・認知症施策の推進と地域における支え合いの仕組みづくりの支援によって、地域で高齢者の生活支援・移動支援に取り組む団体を増やし、高齢者が安心して暮らすことができるまちづくりにつなげる。
- ・認知症発症予防のための介護予防事業（フレイル予防）の取組強化。
- ・高齢化率の上昇による認知症高齢者の増加に伴い、ますます重要性が増す成年後見制度の体制充実と強化。

●総合分析

本市の高齢化率は年々上昇しており、高齢者福祉の重要性がさらに高まることから、高齢者施策の周知・啓発活動の一層の強化とともに、認知症対策の推進と地域での支え合いの仕組みづくりによって高齢者の生活支援・移動支援施策の活用団体の増加を図っていくことが必要であると考えています。

今回の結果を踏まえ、第9期介護保険事業計画・高齢者福祉計画に掲げる「高齢者が生きがいと尊厳をもち、安心して暮らす地域社会づくり（ひとりぼっちにさせない地域支え合い）」を基本理念として、すべての高齢者が住み慣れた地域で、生きがいと尊厳をもって暮らせるよう、介護予防や生きがいづくり、地域における見守りや支え合い、今後重要性が増す成年後見制度の体制整備、医療・介護などの多様な職種の連携による地域包括ケアシステムの構築に向けた施策を引き続き展開していくとともに、関係団体・関係各課と連携を一層強化してまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

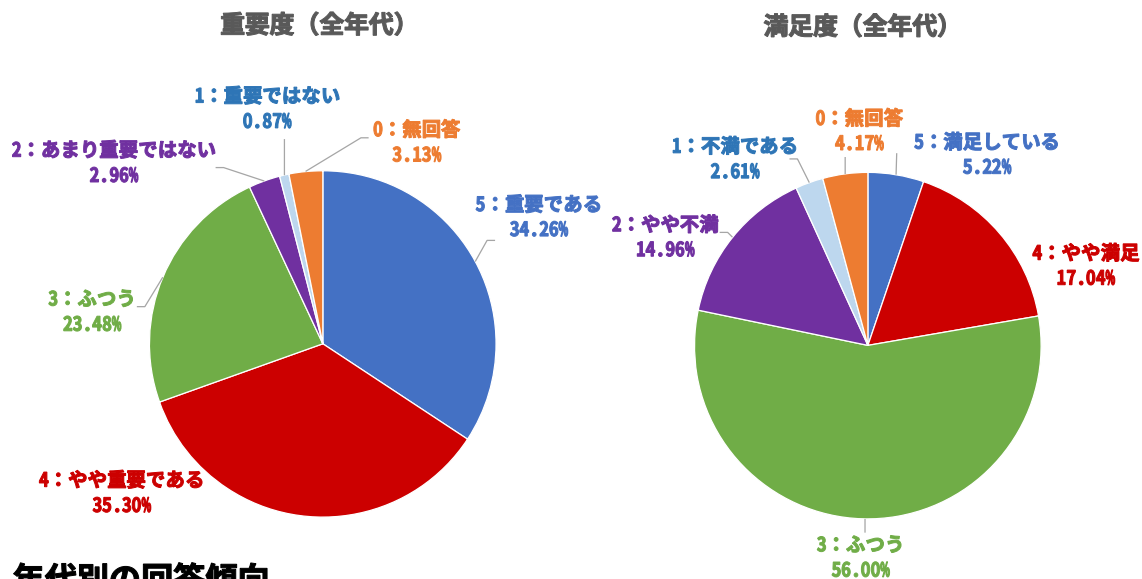
分析担当課	福祉課
目 標 名	健康福祉都市
施 策 名	2－3 障害者福祉

1. 施策の平均及び順位

2－3	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
障害者福祉	4.02	6	4.02	13	↓	0.00	3.13	11	3.08	11	－	-0.05
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	11	9	3	0	0	0	5	7	10	1	0	0
20 代	17	17	4	1	1	0	5	3	22	8	2	0
30 代	24	9	7	3	1	0	3	6	24	8	3	0
40 代	27	20	18	1	1	0	3	12	40	10	2	0
50 代	30	34	25	2	0	1	3	13	52	15	4	5
60 代	33	49	32	3	1	3	5	23	72	18	1	2
70 代以上	48	58	40	7	0	10	5	30	87	26	2	13
不詳（無回答）	7	7	6	0	1	4	1	4	15	0	1	4

4. 分析

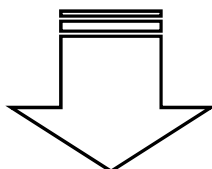
重要度・満足度とも平均を上回っていますが、少子高齢化が進行している中での重要度の順位は前回よりも下がっています。

重要度の回答分布では、「重要である」「やや重要である」で7割近くを占めていますが、満足度の回答分布では「ふつう」が過半数を占める結果となっています。

また、年代別の重要度では、10、30、40代で「重要である」が占める割合が最も高くなっています。満足度については全年代で「ふつう」が一番多くなり、満足度を高める取り組みや事業の周知が必要です。

○課 題

- ・ 障がいや障がいの特性についての理解・啓発に関する施策の周知不足
- ・ 障がいのあるかたの相談窓口の周知方法
- ・ 障害福祉サービスに関する情報発信の仕方



○課題解決への取り組み

- ・ 「障がい者サポーター養成講座」など障がいに関する理解・啓発セミナー等の継続した開催と周知方法の工夫
- ・ 相談支援を行う基幹相談支援センターの周知と障がいのあるかたへの情報発信の工夫
- ・ 地域活動支援センターにおける機能訓練や社会適応訓練、障がいのあるかたの余暇支援、情報交換や交流できる場の周知
- ・ 障がいのあるかたの権利擁護と成年後見制度利用支援の周知
- ・ 乳幼児期からライフステージに対応した障がいのあるお子さんや家族が安心して生活できる支援体制の強化と周知

●総合分析

障害福祉に関する意見の多数が、障がいや障がいの特性についての理解啓発や情報提供、障害者雇用の拡大、就労に関するものでした。公共施設などのバリアフリーの整備促進、障がい児の療育支援、共生できる社会の実現についても多くの意見がありました。

令和元年度から実施している「障がい者サポーター養成講座」や、障がいの特性に応じたコミュニケーションに関する事業も継続実施していく必要があります。

また、障害者就労に関しては、一般就労や障害福祉サービスの利用など関係機関と連携しながら、障害者雇用の就労促進と就労支援に関する取り組みを進めていきます。

これからも障がいのあるなしに関わらず、だれもが暮らしやすい地域共生社会の実現に向けた施策を展開してまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

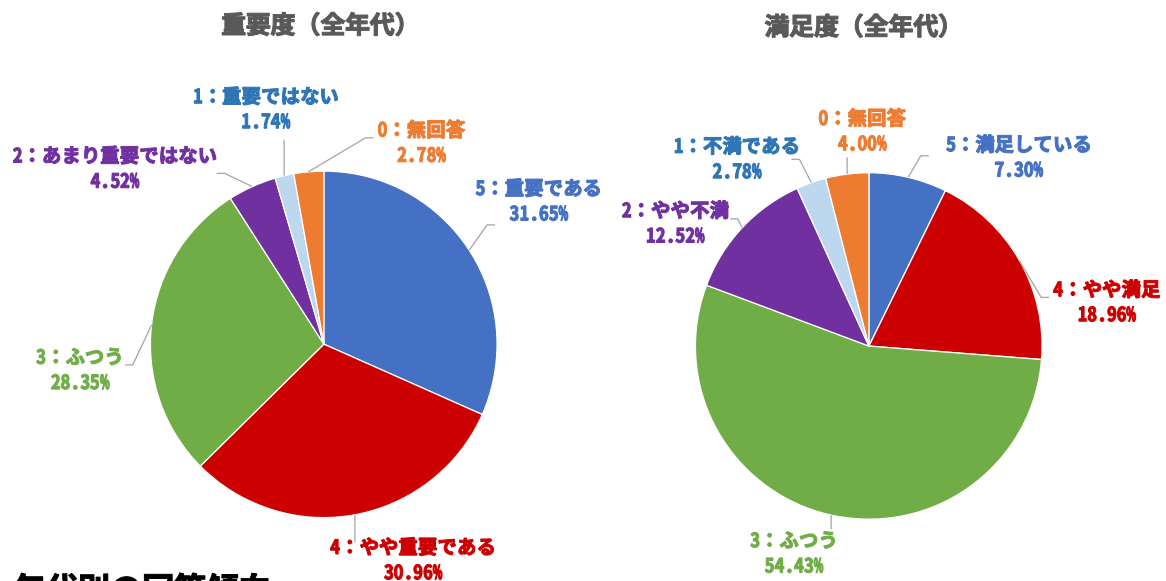
分析担当課	福祉課
目 標 名	健康福祉都市
施 策 名	2－4 地域福祉

1. 施策の平均及び順位

2－4	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
地域福祉	4.01	7	3.89	18	↓	-0.13	3.20	7	3.16	7	－	-0.04
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	10	4	9	0	0	0	7	5	11	0	0	0
20 代	13	15	8	4	0	0	3	4	24	8	1	0
30 代	18	9	8	4	5	0	3	10	24	4	3	0
40 代	23	16	22	3	3	0	8	9	38	9	2	1
50 代	30	28	29	3	1	1	5	16	54	7	4	6
60 代	30	46	35	6	0	4	5	27	63	22	1	3
70 代以上	52	53	46	4	1	7	9	34	87	20	4	9
不詳（無回答）	6	7	6	2	0	4	2	4	12	2	1	4

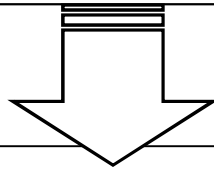
4. 分析

重要度、満足度ともに施策平均値以上であるが、重要度については、前回と比較して順位が下降しています。回答分布で前回と比較すると、「重要である」「やや重要である」がほぼ同数であることから、昨年同様に市民の期待の高さが伺えます。一方、満足度を見ると高ポイントが少なく、重要度に比べ低ポイントが与えられる割合が増えています。これも期待の高さゆえの結果と思われるのですが、「どちらとも言えない」との評価が顕著に多く、施策の周知不足・浸透不足が理由の一つと考えられます。

○課 題

除雪ボランティアに関する意見が大半で、除雪ボランティアの重要性が高いと感じられることから、これまで以上に広報等で周知を図るとともに、関係機関との連携を図りながら、継続ではなく拡充するよう働きかけていく必要があります。

また、生活困窮や自立支援などの福祉に関する相談窓口についても、これまで以上に、広報等で制度・事業周知に努め、さらに市民がわかりやすく、利用しやすい取り組みを推進していきます。



○課題解決への取り組み

- ・ 広報、ホームページを活用した情報発信、SNSなど新たな相談受入手段の拡充
- ・ 除雪ボランティア確保のため、市内の中学校・高校に募集・登録の依頼
- ・ 除雪対策事業について、高齢者福祉とも連携した新たな取り組みの再検討
- ・ 関係団体（社会福祉協議会）と連携し、広報・啓発活動の継続
- ・ 総合支所での出張相談や休日相談の開設の周知徹底

●総合分析

生活困窮者自立相談支援事業は、そのイメージから生活保護の入り口と捉えられがちです。しかし、実際は経済的な困窮ばかりではなく、生活習慣改善や就労活動の支援、家族関係の問題解決へ向けた支援、地域社会との関係性回復への調整など、この事業が担う役割は広範囲にわたります。

市民に認知されていない現状は、世論調査の結果からも明らかであり、新聞や広報、市ホームページ等で、生活困窮者等に関する相談窓口の所在について、周知徹底するよう努めてまいります。また、今後も利用者の立場に寄り添った入口づくりや、多様な相談経路を模索するなど、生活困窮者の自立を助長するための相談機関として支援に取り組んでまいります。

除雪ボランティアは、地域の一翼を担う中・高校生のボランティアを育成し、将来を見据えた体制づくりを今後も進めてまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

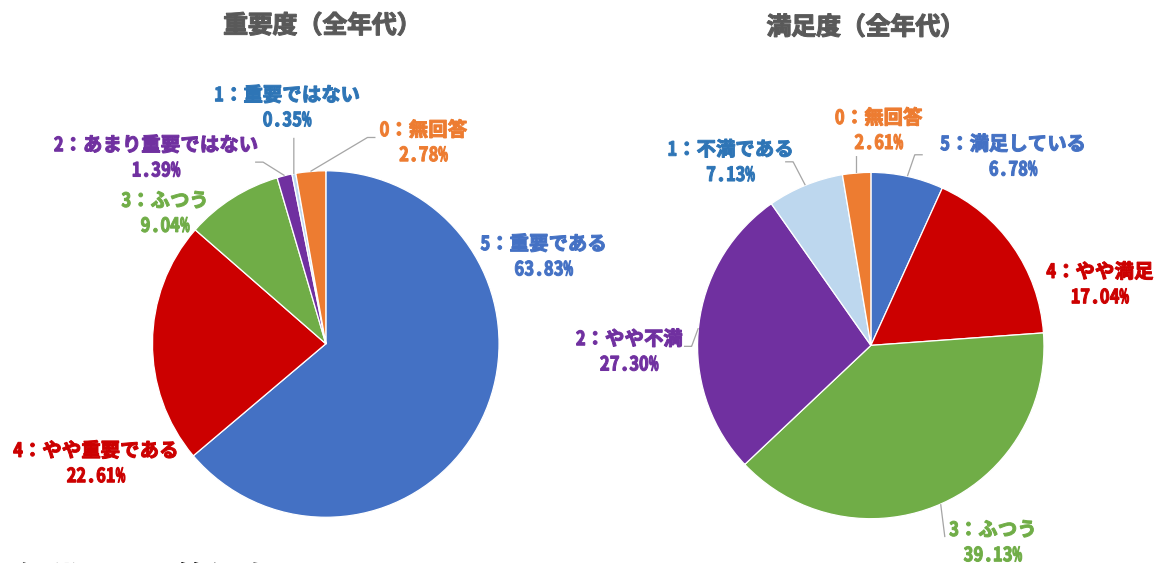
分析担当課	総合病院
目 標 名	健康福祉都市
施 策 名	2－5 医療

1. 施策の平均及び順位

2－5	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
医療	4.45	1	4.52	1	－	0.07	2.96	22	2.89	22	－	-0.07
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	17	6	0	0	0	0	8	4	6	4	1	0
20 代	32	6	2	0	0	0	4	3	16	10	7	0
30 代	33	6	3	0	0	2	5	3	11	14	9	2
40 代	42	16	8	0	1	0	6	13	25	16	7	0
50 代	54	24	14	0	0	0	1	17	41	24	8	1
60 代	81	29	6	2	0	3	3	16	50	46	4	2
70 代以上	96	39	16	4	1	7	11	37	68	36	5	6
不詳（無回答）	12	4	3	2	0	4	1	5	8	7	0	4

4. 分析

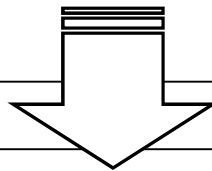
重要度は平均を上回り、施策のなかで最重要項目となっています。

一方、満足度は前年度と同じ順位（22 位）でしたが、数値ではわずかながら前年度を下回る結果となっています。

このことは、地域医療・市立病院に寄せる市民の関心と期待が増しており、それに応じて課題も数多くなっているものと受けとめております。

○課 題

- ・開業医の高齢化や閉院による一次医療機関の不足などの意見が多数あり、本地域が抱える医療の問題が課題として反映されています。
- ・「医師・看護師といった医療人材の不足」、「医療の質の向上」など診療体制に対するご意見があり、各診療科の維持・医療人材の確保が課題と認識しております。
- ・職員の接遇についてのご意見を多数いただき、様々な状況においても患者さんの求めに対応できる職員教育が課題です。
- ・待ち時間が長いことについて多数のご意見をいただいております。救急搬送や入院対応による診察の遅れや、医師の少ない診療科では多くの患者さんの診察により、予約時間どおりの診察が難しくなっており、外来業務の逼迫が職員の病棟配置に影響しています。
- ・医療従事者の働き方改革についてのご意見をいただいております。救急診療や入院患者の看護など、24 時間不休で稼働する医療機関として職員の心身両面の健康管理が重要です。



○課題解決への取組み

- ・市立病院では、令和 6 年 3 月に策定した「大館市病院事業経営強化プラン（令和 6 年度～令和 9 年度）」に基づき、地域特性を踏まえた持続可能な医療提供体制を確保するために取り組んでいきます。
- ・令和 7 年 4 月の地域医療連携推進法人設立に向けた準備を進めており、医療機関や介護施設などが相互の機能分担や連携を図ることにより、住民が住み慣れた地域で必要な医療・介護サービスを受けられるよう取り組んでいきます。
- ・令和 6 年 4 月から訪問看護ステーションを開設し、患者さんの退院への不安解消や、地域の在宅医療への貢献を図っております。
- ・医師確保については、弘前大学や秋田大学へ派遣要請を継続的に行っているほか、県の医療人材対策室と連携して新たな医師確保に努めます。また、看護師等の医療従事者は、採用試験の実施時期や採用方法を見直すことで、医療体制の充実を図ります。

- ・医療人材の確保に向けて、看護福祉大学の看護実習生を受け入れており、奨学金貸与・免除制度と併せることで人材定着を図ります。また、中学生対象の「お仕事博覧会」やインターンシップ、高校生対象の「高校生医療体験セミナー」、研修医受け入れなど、就学ステージに応じた医療人材を育む取り組みを行っています。
- ・令和6年4月からの医師の働き方改革の導入にともない、勤怠管理の充実やタスクシフト・タスクシェアを推進して負担軽減を図っています。看護師の当直勤務についても連続の長時間勤務を避けるよう勤務シフトを見直しています。

●総合分析

このたびの第18回大館市世論調査の結果を貴重なご意見として受け止め、院内各部署で情報共有いたします。

そのうえで、総合病院の理念「患者さんが安心と満足を得られる医療」、扇田病院の理念「地域の皆様の心の支えとなる病院」を目指してまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

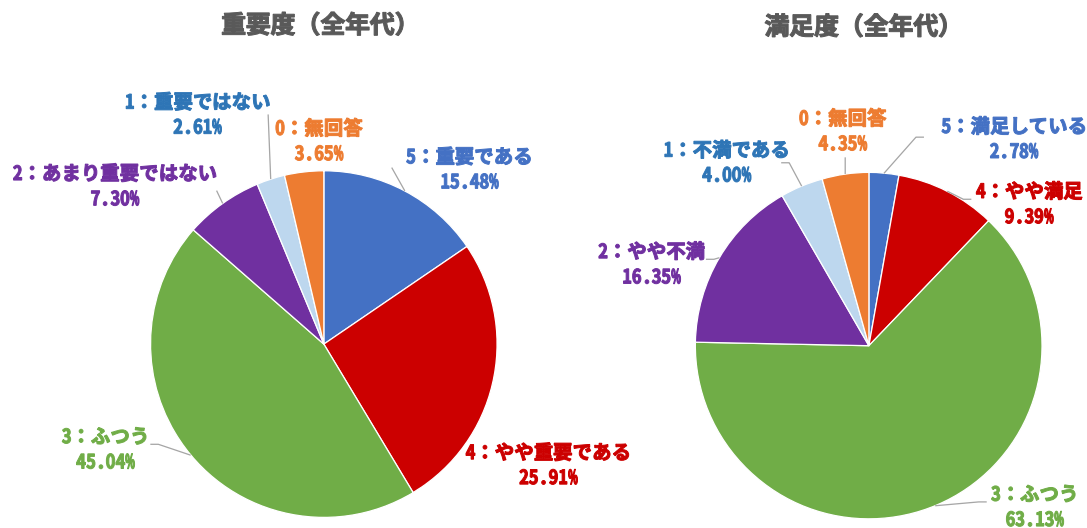
分析担当課	企画調整課
目 標 名	健康福祉都市
施 策 名	2－6 地域コミュニティ・協働によるまちづくり

1. 施策の平均及び順位

2－6	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
地域コミュニティ・協働によるまちづくり	3.45	22	3.46	24	↓	0.01	2.98	20	2.90	19	↑	-0.08
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	8	5	6	4	0	0	3	4	13	2	1	0
20 代	7	9	19	5	0	0	1	2	28	7	2	0
30 代	9	7	18	5	3	2	3	3	22	10	3	3
40 代	7	13	32	12	2	1	1	4	48	7	6	1
50 代	9	18	53	7	5	0	0	5	63	15	5	4
60 代	17	34	62	3	2	3	2	12	82	23	0	2
70 代以上	30	59	57	4	2	11	5	21	94	28	4	11
不詳（無回答）	2	4	12	2	1	4	1	3	13	2	2	4

4. 分析

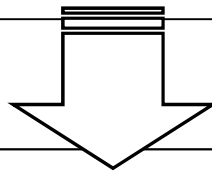
前回調査に比較すると重要度は若干の改善が見られる一方で満足度は悪化しています。また、依然として施策平均も下回っており、回答の傾向としても、「ふつう」が重要度で45%、満足度で63.1%を占めています。

これは、どのような取り組みがなされているか認識されておらず、評価がすることができていないということが考えられます。意見の中には、町内会活動への支援を求める声がある一方で、負担の大きさや活動参加への消極的な意見の二極化が見られました。

消極的な意見の増加には世帯形態の変容等により、地域コミュニティ意識の希薄化、地域コミュニティへの無関心化が影響していると考えられます。

○課 題

- ・「地域コミュニティ・協働によるまちづくり」の施策内容が伝わりにくいこと。
- ・地域コミュニティ活動に積極的な一部のかたのみに負担が集中し、新たな担い手の取り込みができていない。
- ・地域住民が主体となり、自らが住まう地域課題の把握と共有を促し、解決に向けた地域住民の意識の醸成。



○課題解決への取り組み

- ・市広報やホームページ、地元新聞を活用した情報発信の活用のほか、出前講座等により支援事業について直接説明する機会を設けます。
- ・各種計画策定等に係るパブリックコメントの実施や協議会への市民参加により、協働によるまちづくりを推進します。
- ・住民自治意識の醸成と現状に合わせた取り組みの検討について、町内会活動等を支援する補助事業の活用により支援します。

●総合分析

地域コミュニティ・協働のまちづくりにおいては、地域の活動や課題等を「自分ごと」として捉え、活動に自ら参加したいという意識を喚起することが重要であると考えますが、本調査においては、施策の認知不足や、特に若年層における関心の低さが見て取れます。

今後、さらなる人口減少が見込まれる中で、地域コミュニティが担う機能を維持するためには、次代を担う若い世代の参画が必要となります。また、意見としても挙げられていた町内会活動の負担を軽減することが、若年層のみでなく新規の参画につながるものと考えられることから、現状に合った地域コミュニティ活動のあり方を検討していく必要があります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	企画調整課
目 標 名	健康福祉都市
施 策 名	2－7 男女共同参画・人権

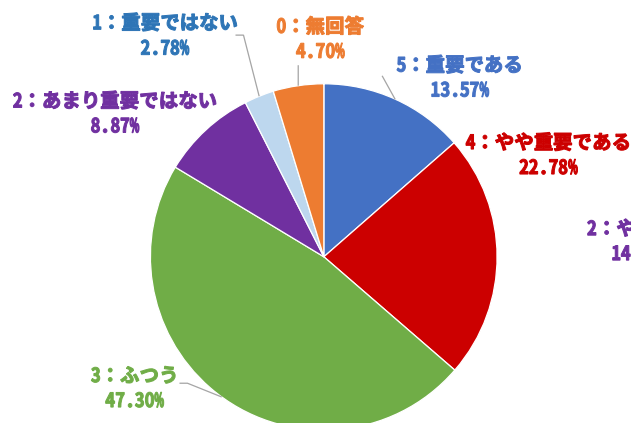
1. 施策の平均及び順位

2－7	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
男女共同参画・人権	3.43	23	3.37	26	↓	-0.05	2.84	27	2.90	20	↑	0.06
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

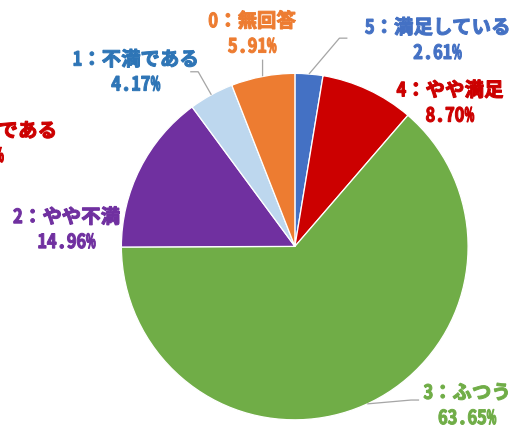
※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

重要度（全年代）



満足度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

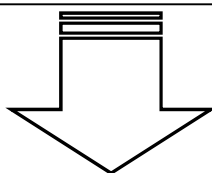
個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	11	6	5	1	0	0	5	6	10	2	0	0
20 代	12	10	14	2	2	0	4	5	23	6	2	0
30 代	10	8	20	2	2	2	2	4	21	10	5	2
40 代	6	17	33	7	4	0	0	7	48	4	8	0
50 代	13	15	45	15	4	0	0	6	65	12	5	4
60 代	12	30	63	10	1	5	1	7	86	23	0	4
70 代以上	12	43	78	12	2	16	2	14	99	26	2	20
不詳（無回答）	2	2	14	2	1	4	1	1	14	3	2	4

4. 分析

重要度は前回と比べ減少したものの、満足度は大きく順位を上げました。しかし、重要度・満足度どちらにおいても平均を下回っており、前回調査同様、重要度では約4割近いかたが、「重要・やや重要である」と回答しているにも係わらず、満足度では全体に対して「ふつう」が占める割合が増加しており、満足度が伸び悩んでいます。このことから、施策に係わる事業の周知徹底及び事業内容の見直しが求められていると考えられます。

○課題

- ・「広報活動が足りていない」「取り組みを目にしたことがない」という意見から、事業内容の周知不足、周知方法の見直し
- ・「男女共同参画について考えるセミナーをやったほうがいい」という意見から、ニーズに合わせたセミナーの開催



○課題解決への取り組み

- ・各世代に合わせたセミナーの開催
- ・男女共同参画センターと連携し、個人や団体、法人に向けた啓蒙・広報活動
- ・市広報やホームページ、地元新聞等を活用した情報発信

●総合分析

令和6年6月に世界経済フォーラムから公表された「ジェンダー・ギャップ指数」では、日本は146か国中118位であることに表れているように、男女共同参画の現状は立ち遅れていると言わざるをえない状況です。

固定的な性別役割分担意識の解消や、人権尊重を基盤とした男女平等観の形成など、全ての人があらゆる分野で活躍できる社会を築くことで、一人ひとりの幸福（well-being）を高めることに繋げることができるといえます。

性別、年齢、人種、障がいなど、一人ひとりの持つ様々な違いに対する差別や偏見をなくし、互いの「多様性」を尊重しながら共に生きられる社会の実現のために、市としましても、男性市職員の育児休暇取得の推進や各種委員会・審議会への女性委員登用、新規採用職員を対象とした講習などに取り組んでいます。行政として、市民の皆さまから満足が得られる取り組みが求められております。

今後も関係団体・関係各課と連携し、「一人ひとりの個性を尊重し、多様性を受容する社会づくり」に取り組んでまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

分析担当課	健康課
目 標 名	健康福祉都市
施 策 名	2－7 男女共同参画・人権

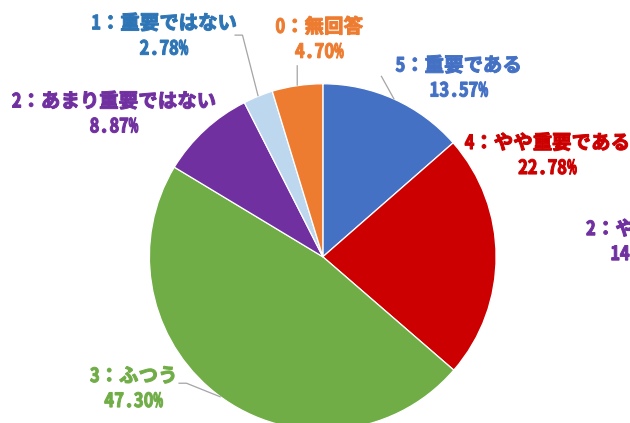
1. 施策の平均及び順位

2－7	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
男女共同参画・人権	3.43	23	3.37	26	↓	-0.05	2.84	27	2.90	20	↑	0.06
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

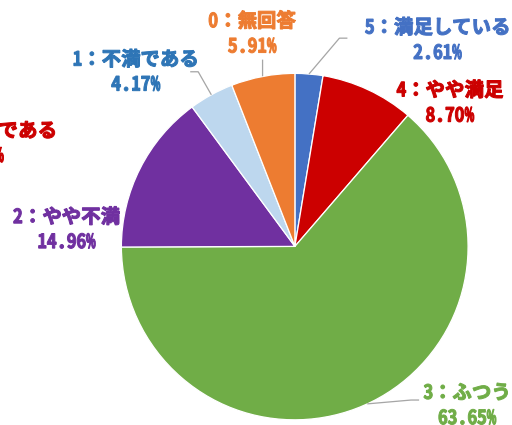
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

重要度（全年代）



満足度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

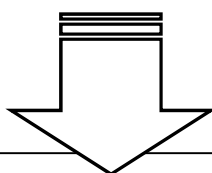
個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	11	6	5	1	0	0	5	6	10	2	0	0
20 代	12	10	14	2	2	0	4	5	23	6	2	0
30 代	10	8	20	2	2	2	2	4	21	10	5	2
40 代	6	17	33	7	4	0	0	7	48	4	8	0
50 代	13	15	45	15	4	0	0	6	65	12	5	4
60 代	12	30	63	10	1	5	1	7	86	23	0	4
70 代以上	12	43	78	12	2	16	2	14	99	26	2	20
不詳（無回答）	2	2	14	2	1	4	1	1	14	3	2	4

4. 分析

男女共同参画・人権の施策については、前回調査から重要度の順位の低下はみられたが、満足度は 27 位から 20 位と上がっています。重要度の回答割合は、「重要である」「やや重要である」の割合が「あまり重要ではない」「重要ではない」の割合を大きく上回っており、関心の高さが伺われます。

○課 題

- ・男女共同参画が推進されているが、女性に比べ男性の育児休業の取得率が低いなど、男性が子育てに参加しやすい環境整備をさらにすすめる必要がある。
- ・父親の育児参加が求められているが、母親と同等の父親が子育てや自身の心身の不調等を相談する相談窓口が不足している。



○課題解決への取組み

- ・父親の育児休業取得率の向上
- ・父親も利用しやすい相談窓口の整備
- ・父親向けの育児セミナー開催

●総合分析

ワークライフバランスの実現の一つとして、性別にかかわらず仕事と家庭生活が両立できるように子育て支援制度の整備と利用を推進していきます。

また、男性の育児休業の取得率の向上など性別による固定的な役割分担ではなく、家族、地域全体で子育てをする意識を醸成し、子育てしやすい環境整備に努めます。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

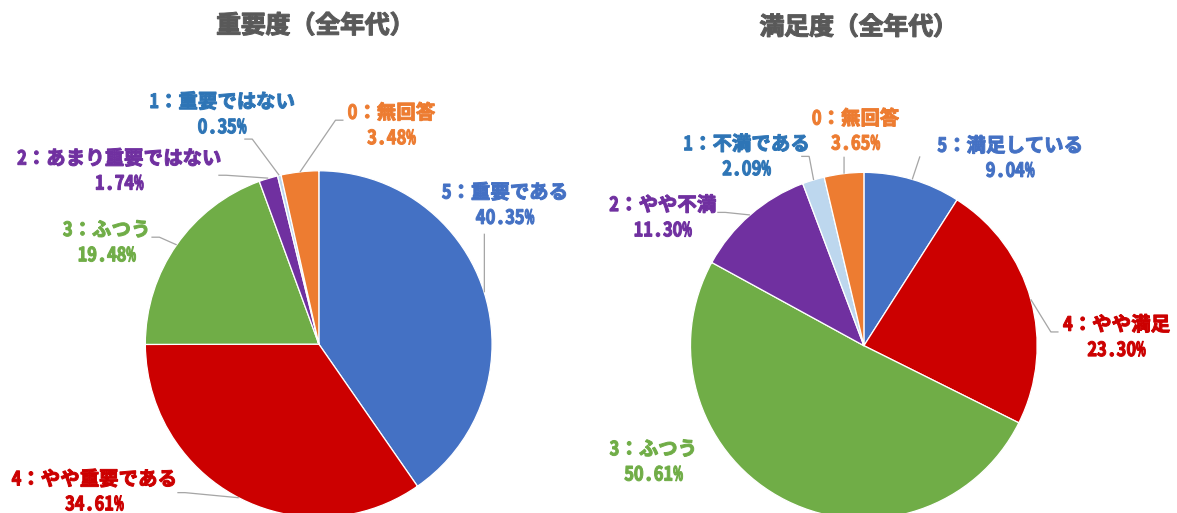
分析担当課	消防本部
目 標 名	健康福祉都市
施 策 名	2－8 消防・救急救助体制・防災

1. 施策の平均及び順位

2－8	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
消防・救急救助体制・防災	4.15	3	4.17	4	↓	0.02	3.31	3	3.27	4	↓	-0.04
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	16	6	1	0	0	0	8	8	6	1	0	0
20 代	18	15	7	0	0	0	9	6	19	5	1	0
30 代	17	18	6	0	0	3	5	7	20	4	5	3
40 代	29	24	12	1	1	0	4	22	32	7	2	0
50 代	36	30	24	2	0	0	2	22	57	7	2	2
60 代	50	36	30	1	0	4	7	25	73	13	0	3
70 代以上	62	61	26	5	0	9	15	40	72	26	1	9
不詳（無回答）	4	9	6	1	1	4	2	4	12	2	1	4

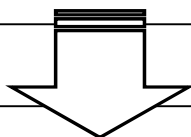
4. 分析

回答分布から、重要度では「重要である」と「やや重要である」との回答が75%を占め、消防・救急救助体制・防災について市民からの関心が高いことがうかがえます。特に10代で96%、20代で83%と高く、次いで30代、40代、70代以上の順となっています。

満足度では全体で半数が「ふつう」と回答し、特に60代70代以上では6割を超えています。不満の割合が高くなるのも同じ年代で、この年代が危機意識や暮らしの不安が強くなると思われ、取り組みの視点変更や手法の改善が必要と考えられます。

○課 題

- ・防災訓練については「実施しているのか?」「形骸化している」等の意見をいただきました。本市では、2011年以降、市総合防災訓練に加えて地域防災訓練を継続実施していますが、まだ1度も開催できていない地区もあります。まずは、その地区の方々に災害時における活動の重要性と防災への取り組みについて、興味を持ってもらえる環境を整えていくことが課題と考えます。併せて実災害に即した効率的な訓練の実施方法も必要と考えます。
- ・「緊急メール、SNSはほとんどの老人ができない」「SNSの情報発信がない」などの意見を多くいただきました。市では、防災アプリ、緊急メール、自宅の電話やFAXに災害情報を送る様々なサービスを展開していますが、周知不足が世論調査により浮き彫りとなったため、広く周知できるよう課題解決に向けて取り組む必要があります。特に、情報弱者とされる80歳以上一人暮らしの方々を対象に、防災・災害情報がきちんと本人に届くようにするための施策は喫緊の課題として捉えています。



○課題解決への取組み

- ・近年の災害は激甚化・頻発化しており、災害がいつどこで発生してもおかしくないという認識のもと、防災に向けた取り組みを進めるため消防団及び自主防災組織等と更に緊密な連携を図っていきます。また、防災士等の協力を得ながら学校と地域住民、行政が災害発生時にスムーズな防災活動ができる体制を構築するため、地域が実施・参加する防災教育を推進します。
- ・防災・災害情報の更なる多重化のため、「災害が発生する恐れがある場合」または「災害が発生した場合」に、FM電波の起動信号により自動的(強制的)にラジオの電源が入り、緊急情報を大音量で放送・伝達する緊急告知FMラジオを令和7年4月に導入し、80歳以上一人暮らしの方対象者や地域を見守る民生員などへラジオの貸し出しを実施します。

●総合分析

災害は激甚化・頻発化しており、災害がいつどこで発生してもおかしくない状況にあります。市としましても防災・減災に係る情報を、広報やホームページを通じて、確実に周知・浸透できるよう、地域防災計画に掲げる取り組み・対策等をより一層推進してまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

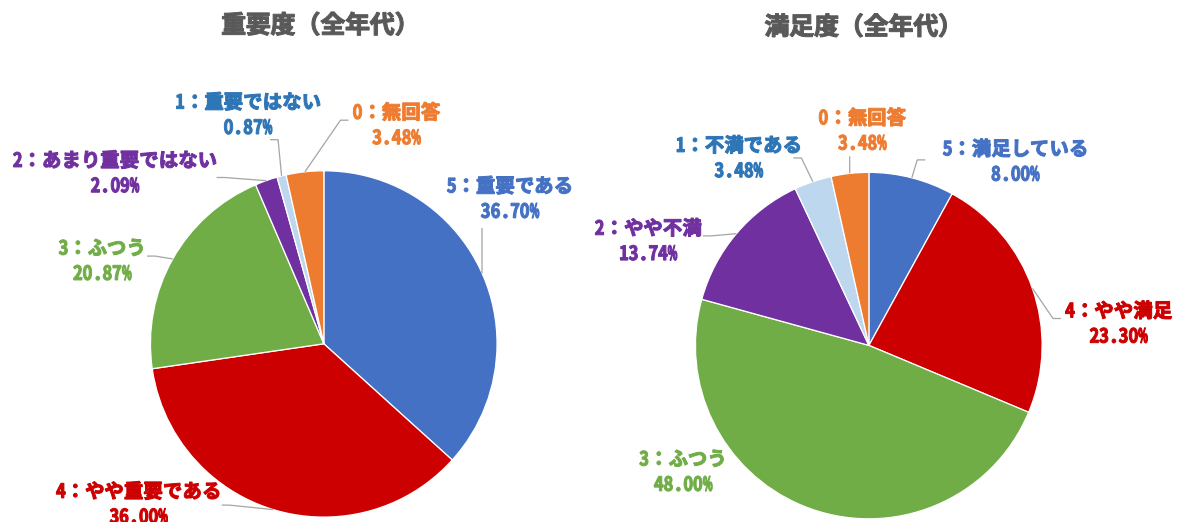
分析担当課	市民課
目 標 名	健康福祉都市
施 策 名	2－9 防犯・交通安全

1. 施策の平均及び順位

2－9	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
防犯・交通安全	4.00	9	4.09	9	－	0.09	3.20	8	3.19	6	↑	-0.01
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	13	7	2	0	0	1	6	7	7	1	1	1
20 代	19	14	5	0	1	1	7	7	18	6	2	0
30 代	17	14	8	1	2	2	5	6	20	5	6	2
40 代	30	22	13	1	1	0	6	18	28	12	3	0
50 代	32	31	27	2	0	0	4	17	56	9	5	1
60 代	40	46	31	1	0	3	3	28	63	24	1	2
70 代以上	55	65	29	4	1	9	14	47	73	17	2	10
不詳（無回答）	5	8	5	3	0	4	1	4	11	5	0	4

4. 分析

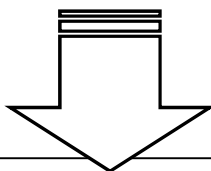
前回調査と比べ、重要度は横ばいでしたが、満足度で順位があがっています。また、重要度・満足度ともに施策平均を上回る結果となっており、安全・安心のまちづくりに対する期待が大きいことが伺えます。

しかしながら、満足度については「ふつう」が過半数を占めており、施策自体は重要と認識されているものの、満足度を感じられていないかたも多いと考えられます。

○課 題

「街灯が少ない地域がある」「夜道が暗い」といった意見のほか、カーブミラーや道路等の設備に関する意見をいただきました。新規の防犯灯が必要な場所については、関係機関と連携して整備を進めていく必要があります。

また、交通指導隊の活動については、隊員が少ないことから人員確保や活動の継続を、防犯指導隊については、昨今の犯罪情勢からより活発な防犯活動が求められています。両指導隊の活動を継続していくとともに、関係機関と連携し、街頭活動及び広報活動を積極的に実施し、防犯・交通安全の意識を市民へと伝えていく必要があります。



○課題解決への取り組み

- ・ 関係機関と連携し、安全設備の新設や維持管理、改善に取り組んでいく。
- ・ 関係機関と連携し、防犯・交通安全の啓蒙を広く市民に推進・発信していく。

●総合分析

防犯灯やカーブミラー、道路など安全設備に関する意見が多いことから、市民の安心・安全を確保するため、安全設備の維持管理と改善が必要です。今後も定期的に設備を巡回し、状況の確認を行うとともに適切な設備維持に努めます。

また、防犯や交通安全は未然防止が重要であることから、市民一人ひとりが犯罪や事故に遭わないという視点に立って、活動がより一層推進されるよう関係機関と連携し、防犯及び交通安全に対する市民意識の醸成を図ります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	農政課
目 標 名	産業創造都市
施 策 名	3－1 A 農業

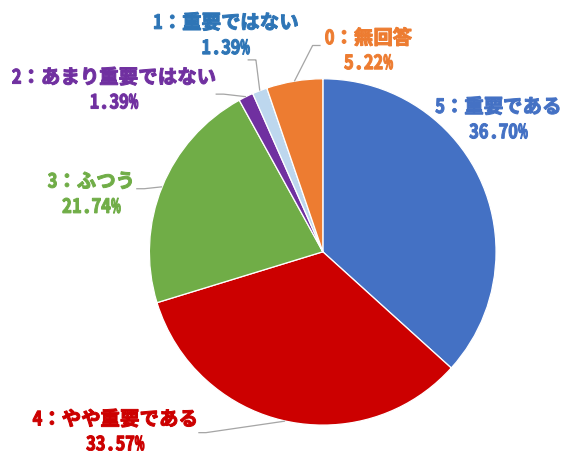
1. 施策の平均及び順位

3－1 A	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
農業	4.00	－	4.08	－	－	0.09	3.27	－	2.98	－	－	-0.30
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

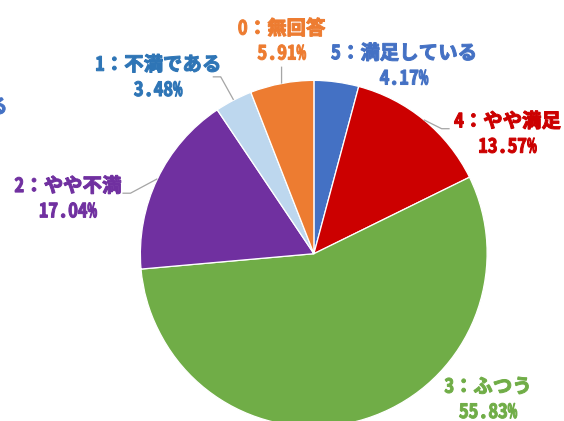
※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

重要度（全年代）



満足度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	10	8	4	0	0	1	4	10	6	2	0	1
20 代	18	16	5	0	0	1	6	2	18	11	2	1
30 代	19	10	10	0	3	2	0	8	20	9	5	2
40 代	21	21	19	1	2	3	2	11	39	11	2	2
50 代	31	33	23	1	1	3	0	13	53	16	5	5
60 代	46	42	27	2	0	4	2	16	72	24	3	4
70 代以上	61	57	29	4	1	11	9	16	101	21	2	14
不詳（無回答）	5	6	8	0	1	5	1	2	12	4	1	5

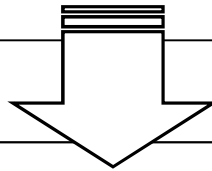
4. 分析

重要度については、市全体の施策平均を上回り約7割の方が「重要」「やや重要」と回答し、農業への高い関心が伺えます。前回の調査結果と比べても上回っており、コメ不足による米価高騰が少なからず影響を及ぼしているものと考えられます。

満足度については、約6割の方が「ふつう」「無回答」としており、前回の調査結果や施策平均を下回る結果となっています。

○課 題

- ・「農業者の担い手不足」や「荒廃農地の拡大」を懸念する意見が多く寄せられており、担い手の確保や、限られた人員でも耕作面積の拡大につながる施策の推進が求められます。
- ・「地場産農産物の学校給食への提供」や「農業に関する学習」を求める意見が寄せられており、担い手確保や消費拡大に向け、長期的な視点による施策も進めていくことが必要と考えます。



○課題解決への取組み

- ・担い手の確保に向け、個人の就農や法人の参入を促すため、農業教育の充実や資金面での支援に取り組みます。
- ・耕作面積を拡大するため、農作業のスマート化や省力化、農地の集積や集約などにより農業の効率化を図ります。
- ・地場産農産物の学校給食への提供を継続していく中、有機農産物の提供を進めていくほか、農業体験などを通じた食育を推進します。

●総合分析

特に多くの意見が寄せられている「農業者の高齢化や減少」「荒廃農地の拡大」への対策としては、農業者の所得向上が担い手確保につながる一番の近道と考えています。

農業者の所得向上、いわゆる「稼げる農業」に向け、農業の効率化や農業教育環境の充実、販路の開拓、地域ブランドの創出、加工品の開発などの取組みを展開するとともにPRや周知を図ります。

また、食育の推進などにより、次世代の担い手確保も努めます。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

分析担当課	林政課
目 標 名	産業創造都市
施 策 名	3－1 B 林業

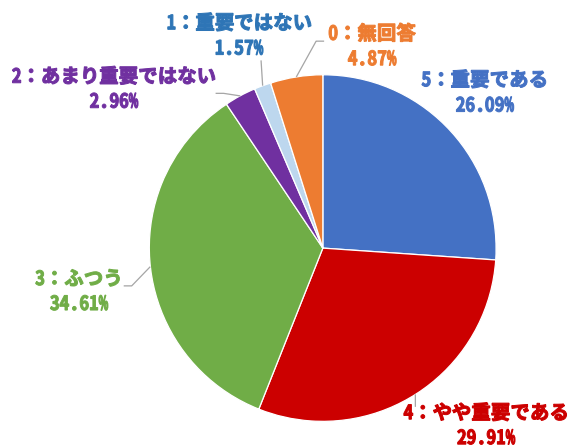
1. 施策の平均及び順位

3－1 B	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
林業	3.73	－	3.80	－	－	0.07	3.05	－	2.98	－	－	-0.07
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

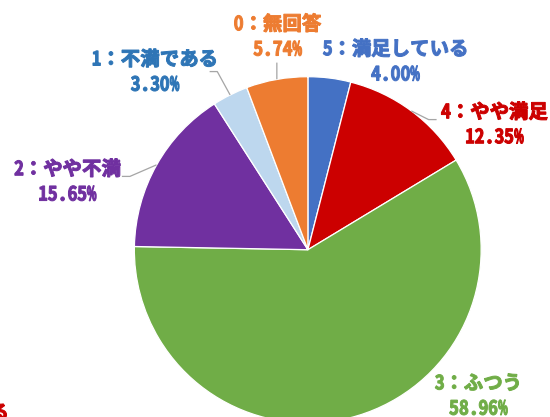
※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

重要度（全年代）



満足度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	8	6	8	0	0	1	4	7	10	1	0	1
20 代	14	12	13	0	0	1	5	8	23	2	1	1
30 代	12	13	12	4	2	1	0	6	24	8	5	1
40 代	14	21	26	2	3	1	4	8	42	10	2	1
50 代	19	26	40	3	1	3	1	12	54	16	3	6
60 代	33	44	37	3	0	4	2	12	72	28	2	5
70 代以上	48	45	54	3	2	11	6	17	101	22	5	12
不詳（無回答）	2	5	9	2	1	6	1	1	13	3	1	6

4. 分析

重要度・満足度ともに施策平均をやや下回る結果となりました。重要度については、半数以上の方が「重要である」または「やや重要である」と答えており、全ての年代層において同じような回答傾向となっていることから、林業施策の重要性は広く認識されているものと考えています。

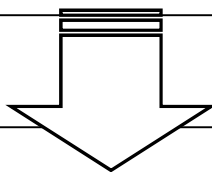
満足度については、半数以上の方が「ふつう」と答えていることから、林業施策の成果が十分に認知されていないという点と、林業施策が身近なものとして捉えられていない点があると受け止めています。

○課 題

クマを始めとした「有害鳥獣対策の強化」を求める意見が最も多く、実際に捕獲活動を行う「実施隊員の確保」も必要とされています。

また、間伐や再造林などの適切な森林管理の実施とそれらの施業を担う林業の担い手育成・確保が求められているほか、二酸化炭素吸収源としての森林活用や木質バイオマスの利活用など、森林資源循環サイクルの確立も求められています。

林業を重要視する声が多い一方、「林業はよくわからない」との意見も多いことから、林業施策に関する情報発信を積極的に行い、市民に関心を持って頂く必要があります。



○課題解決への取組み

- ・ 有害鳥獣の目撃情報を基にしたパトロールや捕獲活動の更なる強化、鳥獣被害対策実施隊員への活動支援の充実
- ・ 間伐や再造林などの森林整備事業に対する補助制度の周知徹底、森林経営管理制度による適切な森林管理の推進
- ・ 林業の担い手確保に向けた人材育成や新規雇用に対する支援施策と現場における施業の効率化や省力化による労働環境改善施策の推進
- ・ COI-NEXT による研究開発など産学官が連携した森林資源の多角的活用、森林認証による持続的な森林経営や木材利用促進による森林資源循環の拡大
- ・ 市広報やホームページ、地元新聞などのマスメディアの活用のほか、SNS などによるあらゆる世代への情報発信力強化

●総合分析

有害鳥獣対策の強化や適切な森林管理に関する意見が多かったことから、市民の声を今後の施策に反映していくとともに、森林・林業の重要性や林業施策についての市民認知度向上のため、情報発信力を強化していく必要があります。

地域の森林・林業の“マスタープラン”となる「大館市森林整備計画」の実行とともに、産学官が連携した森林資源活用による新たな需要創造と雇用創出、良質な秋田スギ産地としての価値向上を図り、適切な森林管理と林業の成長産業化の実現を目指してまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	商工課
目 標 名	産業創造都市
施 策 名	3－2 商工業

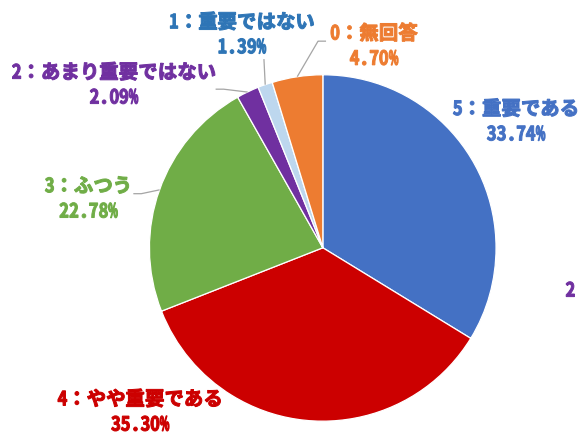
1. 施策の平均及び順位

3－2	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
商工業	3.89	15	4.03	12	↑	0.14	2.93	24	2.72	27	↓	-0.21
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

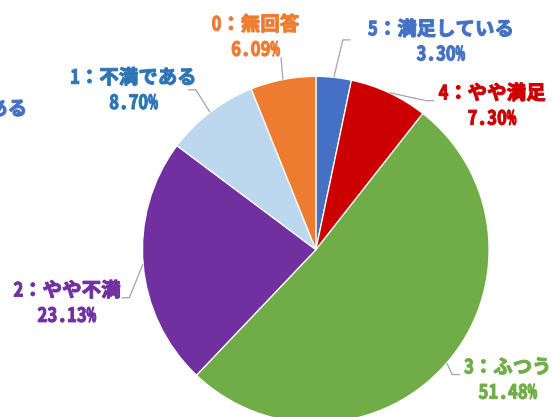
※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

重要度（全年代）



満足度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	11	7	4	0	0	1	2	4	10	3	3	1
20 代	20	12	7	0	0	1	4	2	15	10	8	1
30 代	18	13	9	1	2	1	3	4	17	12	7	1
40 代	24	18	20	3	1	1	0	3	38	13	12	1
50 代	26	33	26	3	1	3	0	6	51	16	13	6
60 代	42	51	23	0	1	4	4	8	66	36	2	5
70 代以上	49	62	34	5	2	11	5	14	88	38	3	15
不詳（無回答）	4	7	8	0	1	5	1	1	11	5	2	5

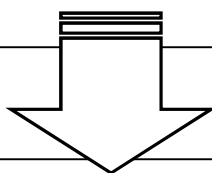
4. 分析

重要度については、「重要である」、「やや重要である」が約7割を占め、平均値が前回調査を上回った一方で、満足度については、「不満である」、「やや不満」が「満足している」、「やや満足」を大きく上回り、平均値は前回から下回る結果となりました。これらの結果は全ての世代に共通しています。

○課 題

商店街の空き店舗の多さ、魅力のある店舗の少なさを指摘する意見が多く、抜本的な対策や街の活気につながる若者の定着が求められています。

また、「若者の定住等で人口増加に繋がるため、企業誘致のより一層の推進を求める」との声がある一方、「どこも人手不足」との意見もあり、労働力の確保が大きな課題となっています。



○課題解決への取組み

- ・ 空き店舗対策や創業支援などを含めた市街地活性化策の見直しと、その情報発信の強化
- ・ 若者の回帰や定着に向けた魅力ある職種を増やすための企業誘致、スタートアップ企業の創出
- ・ 若者の回帰・定着により消費者層の拡大を図り、商業施設（商業資本）が進出したくなる環境づくりの構築

●総合分析

満足度が低い主な要因は、中心市街地に空き店舗が目立ち、活気に乏しいことから、商店街としての魅力が伝わらない点にあります。こうした状況を踏まえ、空き店舗対策を抜本的に見直すとともに創業支援や事業承継に努めます。

また、より一層積極的な企業誘致活動を続けていくとともに、都市部からの若者の回帰・定着に努め、人手不足の解消につなげていくほか、スタートアップ企業の創出や創業支援などにより多様な職種を確保し、若者の働く選択肢の増大を図ります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	商工課
目 標 名	産業創造都市
施 策 名	3－3 雇用対策・新たな産業の育成

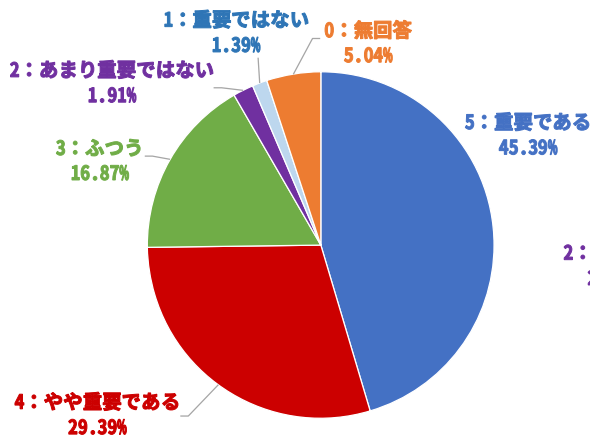
1. 施策の平均及び順位

3－3	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
雇用対策・ 新たな産業の育成	4.00	10	4.22	3	↑	0.21	3.02	16	2.86	23	↓	-0.16
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

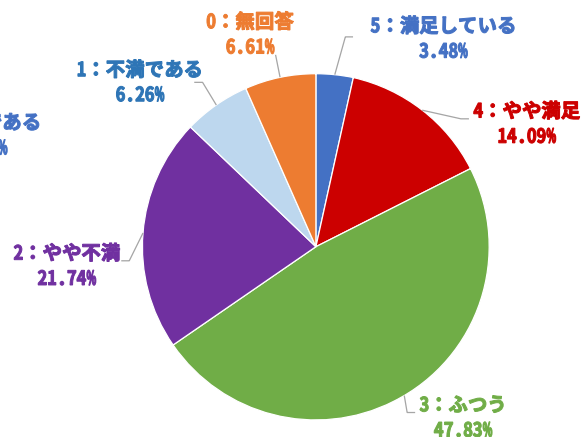
※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

重要度（全年代）



満足度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

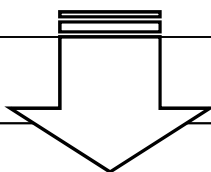
個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	14	4	4	0	0	1	4	8	7	2	1	1
20 代	19	11	8	0	0	2	3	7	16	9	3	2
30 代	22	11	6	1	3	1	1	5	19	10	8	1
40 代	32	18	14	0	1	2	2	9	29	18	6	3
50 代	40	18	25	5	1	3	1	9	51	16	11	4
60 代	59	43	14	1	0	4	2	18	61	32	3	5
70 代以上	68	58	21	3	2	11	5	24	82	32	3	17
不詳（無回答）	7	6	5	1	1	5	2	1	10	6	1	5

4. 分析

重要度については、全ての年代で「重要である」の割合が高いうえ、市全体の施策の中でも上位に位置することから、多くの市民にとって関心度が高いと判断されます。しかし、満足度については、全年代を通じて「満足している」、「やや満足」は少なく、平均値は前回調査から 0.16 ポイント下降していることから、重要度の高さとは反対に不満を抱いていることが伺えます。

○課 題

「若者の就職支援」、「職業紹介の取組みの充実」を求める意見が多いほか、働く場の確保の視点から「新たな企業誘致」を求める意見も多く見受けられます。特に若者の定着に向けた強化を期待する声が、幅広い年代から寄せられているため、多様な業種の企業誘致や積極的な創業支援などで、若者が働きたいと思える仕事を確保していく必要があります。



○課題解決への取組み

- ・若者が働きたいと思える職種の企業誘致、スタートアップ企業の創出
- ・創業支援などの施策の推進
- ・SNS等を活用した働く場に関する情報発信の強化
- ・企業の魅力向上と求職者のスキルアップを図り、両者をマッチングさせる取組み

●総合分析

ハローワーク大館管内の有効求人倍率は平成 27 年（2015 年）5 月から連続で 1 倍を超えて推移し県内トップクラスの水準となっており、人手不足の状況が長年にわたり続いています。特に進学を機に県外へ転出する若年層が多く、若者世代の地元回帰につながる取組みが重要です。

これらを踏まえ、企業誘致や創業支援で幅広い職種を創出するとともに、地元企業の魅力向上を図り、SNS等を活用した効果的な情報発信を行っていく必要があります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	企画調整課
目 標 名	多文化交流都市
施 策 名	4－1 地域間交流

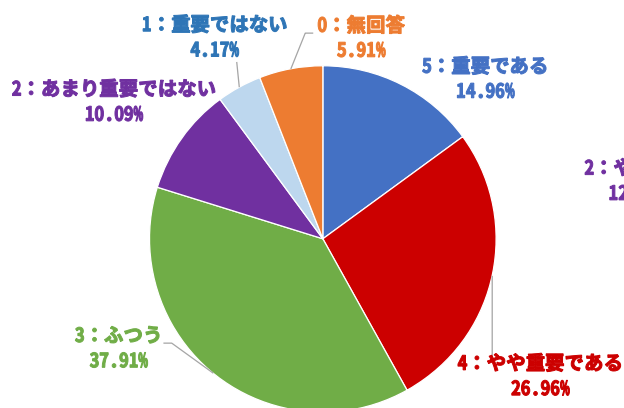
1. 施策の平均及び順位

4－1	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
地域間交流	3.29	27	3.41	25	↑	0.12	3.03	15	3.05	14	↑	0.01
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

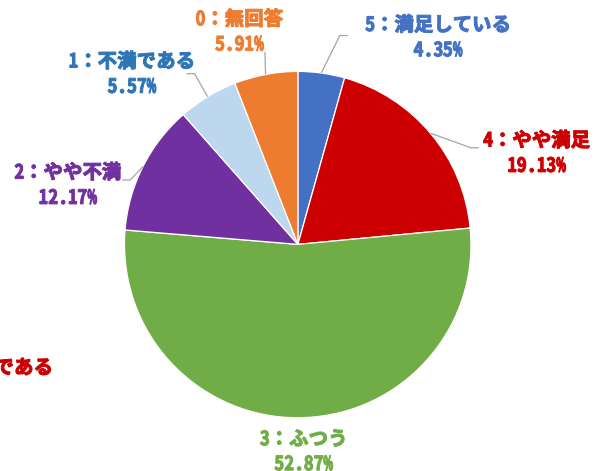
※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

重要度（全年代）



満足度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	9	8	4	2	0	0	3	5	12	3	0	0
20 代	7	8	21	3	1	0	2	8	20	4	6	0
30 代	7	6	16	9	6	0	4	7	21	7	5	0
40 代	8	19	26	9	3	2	3	12	34	10	6	2
50 代	14	24	29	14	9	2	4	21	45	8	10	4
60 代	20	33	52	11	2	3	0	26	73	18	2	2
70 代以上	20	53	60	9	3	18	9	28	87	19	3	17
不詳（無回答）	1	4	10	1	0	9	0	3	12	1	0	9

4. 分析

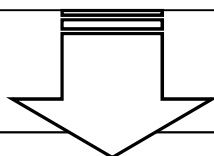
重要度・満足度ともに前回調査から上昇したものの、重要度は平均を大きく下回る結果となっています。回答分布では、施策を「重要・やや重要」と答える人が約 41%を占め、前回調査に比べ 0.12 ポイント増となっていますが「ふつう」と答える人の割合も約 37%を占めていることから、今後も施策を継続し、地域間交流の活発化、「仲間づくり」を進めていく必要があると考えます。

また、施策全体のポジションでみると重要度が低く満足度は高いため、現状の取り組みで一定数の評価は得ているものの、施策の改善・新たな事業展開が求められていると考えます。

○課 題

主な意見として、「もう少し市民を巻き込んで取り組んではどうか」、「交流したことが大館市全体に還元するものであってほしい（一部の人達だけでなく）」などが寄せられました。このことから、下記の課題が考えられます。

- ・取り組みが伝わっていない
- ・連携に至っての成果が市民の皆様に還元されていない



○課題解決への取組み

- ・市民を巻き込んだ取り組み（交流）の実施
- ・魅力的な資源をさらに磨き上げ、他地域との交流人口を拡大していくとともに、市民が誇りを持てるまちづくりの推進
- ・広報やホームページ、SNS、地元紙を活用した情報発信

●総合分析

茨城県常陸大宮市と平成 27 年 10 月 21 日に友好都市協定を締結しています。教育、文化、観光、産業など多面的な交流を継続しており、「肉の博覧会 in おおだて」、「本場大館きりたんぽまつり」、「ふれあい広場」など両市で開催されるイベントに相互出展し、特産品の PR 及び販売を行っています。また、「高校生交流プロジェクト」として、両市の高校生による相互交流、産品開発に向けた取組を支援することにより、更なる交流を推進しています。

意見として、「もう少し市民を巻き込んで取り組んではどうか」、「交流したことが大館市全体に還元するものであってほしい」との意見もいただきましたが、「これからも多くの都市との交流を見い出してほしい。」との意見もいただいております。今後は市民も参画しやすい交流（取り組み）、仕掛けづくりに努めます。

また、他地域の歴史・文化等に触れることは、同時に本市の歴史等の魅力の再発見につながる機会となり、結果地域への愛着にもつながると考えていることから、今後も継続していきたいと考えています。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	観光課
目 標 名	多文化交流都市
施 策 名	4－1 地域間交流

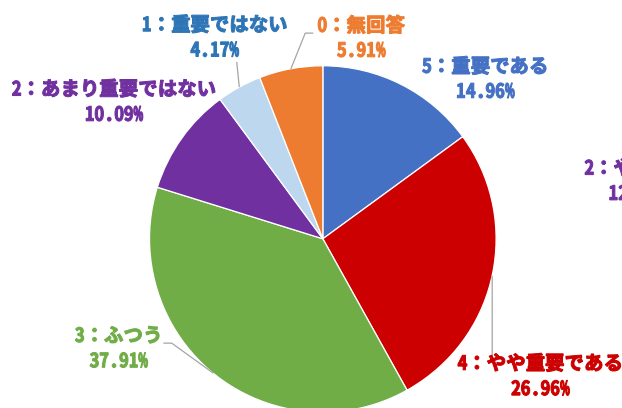
1. 施策の平均及び順位

4－1	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
地域間交流	3.29	27	3.41	25	↑	0.12	3.03	15	3.05	14	↑	0.01
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

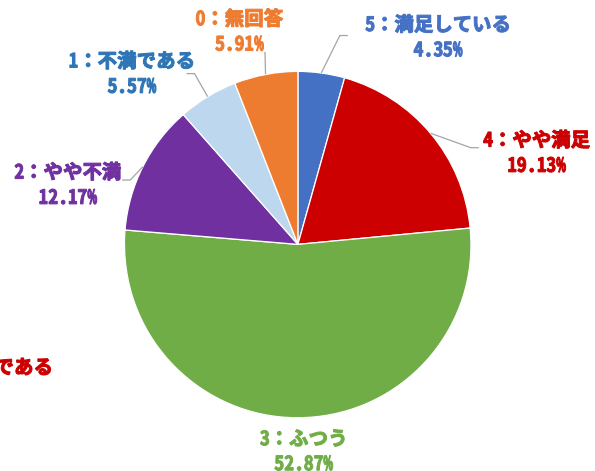
※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

重要度（全年代）



満足度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	9	8	4	2	0	0	3	5	12	3	0	0
20 代	7	8	21	3	1	0	2	8	20	4	6	0
30 代	7	6	16	9	6	0	4	7	21	7	5	0
40 代	8	19	26	9	3	2	3	12	34	10	6	2
50 代	14	24	29	14	9	2	4	21	45	8	10	4
60 代	20	33	52	11	2	3	0	26	73	18	2	2
70 代以上	20	53	60	9	3	18	9	28	87	19	3	17
不詳（無回答）	1	4	10	1	0	9	0	3	12	1	0	9

4. 分析

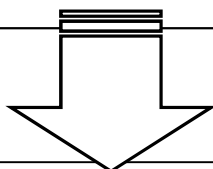
重要度については、平均を下回っているものの前年度比較では増、満足度は平均をわずかながら上回り、前年度比較で微増しています。

いずれも「ふつう」が回答の多くを占めていますが、「重要である／やや重要である」との回答も一定割合いることから、地域間交流の活性化を目指した施策を進めていくことが必要であると考えます。

また、重要度が高く、満足度が低いことから、満足度を向上させる事業展開の検討が求められます。

○課 題

- ・ 魅力ある様々な資源をそのままにしておくのではなく、磨き上げていくことが必要
- ・ 他地域との交流を身近に感じられるような取り組みが必要



○課題解決への取り組み

- ・ 市民を巻き込んだ取り組みの検討・実施
- ・ 他地域との連携を強化し、協働での取り組みを積極的に取り組む

●総合分析

令和4年度から「ハチ公生誕100年プロジェクト」を実施し、渋谷区との交流が更に深まったほか、様々な自治体や民間企業との繋がりが生まれ、あらゆる分野での交流が活発に進んでいますが、市民の満足度の向上には今一つ繋がられていないと考えます。

ハチ公のふるさとである当市だからこそ得られている地域間の繋がりを、市民が日常生活で実感できるような取り組みになるよう検討し、市民も参画しやすい環境・仕掛けづくりに努めることで、更なる地域間交流の活性化に繋がっていきます。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	まちづくり課
目 標 名	多文化交流都市
施 策 名	4－1 地域間交流

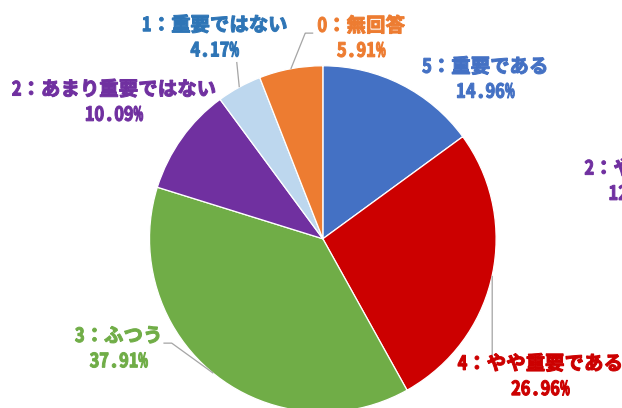
1. 施策の平均及び順位

4－1	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
地域間交流	3.29	27	3.41	25	↑	0.12	3.03	15	3.05	14	↑	0.01
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

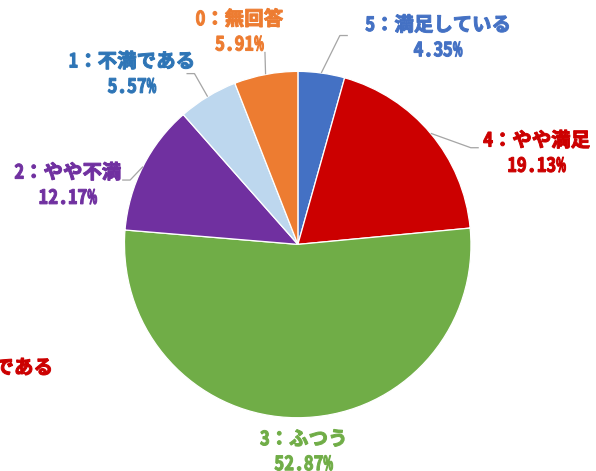
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

重要度（全年代）



満足度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

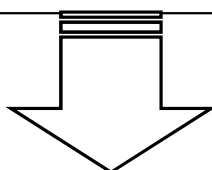
個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	9	8	4	2	0	0	3	5	12	3	0	0
20 代	7	8	21	3	1	0	2	8	20	4	6	0
30 代	7	6	16	9	6	0	4	7	21	7	5	0
40 代	8	19	26	9	3	2	3	12	34	10	6	2
50 代	14	24	29	14	9	2	4	21	45	8	10	4
60 代	20	33	52	11	2	3	0	26	73	18	2	2
70 代以上	20	53	60	9	3	18	9	28	87	19	3	17
不詳（無回答）	1	4	10	1	0	9	0	3	12	1	0	9

4. 分析

地域間交流の重要度・満足度は前回の平均点を上回る結果でしたが、施策平均の満足度は前回の平均点を下回る結果となりました。いずれも「ふつう」の回答が多くを占めていますが、一方で「重要である（やや重要である）、満足している（やや満足）」と回答した方も一定割合いることから今後も施策を継続し、地域間交流を進めていく必要があると考えます。

○課 題

- ・ 施策の内容が市民に知られていない
- ・ PRが不足している
- ・ 施策の効果による市の活性化



○課題解決への取組み

- ・ 市広報やホームページ（SNS含む）、報道機関を活用した情報発信
- ・ 出前講座等の周知と開催
- ・ 歴史的風致維持向上計画、歴史まちづくり事業の推進

●総合分析

歴史的風致維持向上計画に基づき、平成29年度から取り組んできた歴史まちづくり事業の認知度が低いことから、更なる情報発信が必要と分析されます。

今回の結果を踏まえ、歴史的風致維持向上計画の理念である“市民がふるさと「おおだて」に、「自信と誇り」を持って暮らしていただくこと”の実現に向け、歴史的建造物の保全や良好な街なみ景観の形成を図る施策を積み重ね、「住んでよし・訪れてよし」のまちづくりを推進してまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

分析担当課	観光課
目 標 名	多文化交流都市
施 策 名	4－2 交流人口の拡大

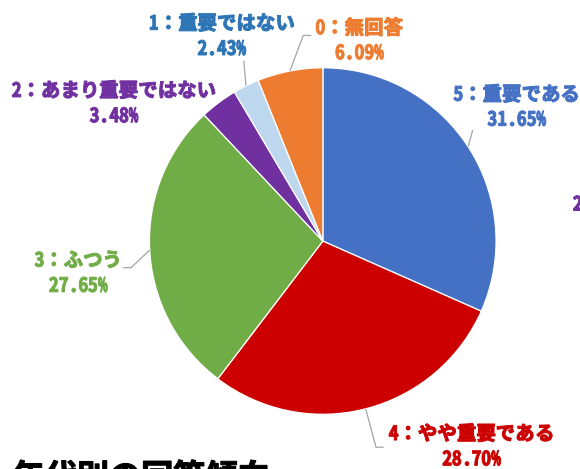
1. 施策の平均及び順位

4－2	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
交流人口の拡大	3.83	17	3.89	17	－	0.06	3.04	13	3.05	12	↑	0.02
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

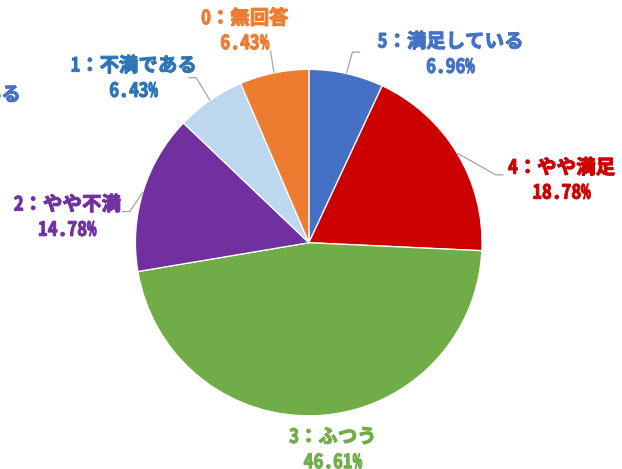
※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

重要度（全年代）



満足度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

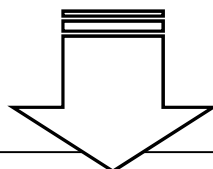
	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	13	6	2	1	1	0	5	5	12	1	0	0
20 代	11	17	8	2	1	1	4	4	19	8	4	1
30 代	12	7	15	3	7	0	6	7	13	10	8	0
40 代	30	13	19	1	1	3	9	5	26	15	9	3
50 代	26	25	29	7	3	2	1	20	39	15	13	4
60 代	42	44	31	1	1	2	3	38	62	14	1	3
70 代以上	44	50	48	3	0	18	11	28	85	20	2	17
不詳（無回答）	4	3	7	2	0	9	1	1	12	2	0	9

4. 分析

重要度は半数以上が「重要と認識している」が、満足度は「ふつう」が半数以上を占める結果となりました。各年代で重要度が高いものの、施策の広報・周知不足のため、上記結果に繋がったと考えられます。

○課 題

- ・地域連携DMO秋田犬ツーリズム、他自治体、忠犬ハチ公の縁でつながる渋谷区等、様々な連携による取り組みを実施しているが、市民への広報・周知が不足



○課題解決への取り組み

- ・市広報やホームページ、SNS等を活用した情報発信
- ・出前講座等の開催による周知
- ・広報活動や情報発信についての関係団体や市民との連携強化

●総合分析

当市が生まれ故郷である忠犬ハチ公や秋田犬が国内外で注目され、それを目的とした観光客が増加してきています。また、本場大館きりたんぼや大館曲げわっぱなどの豊富な観光資源を有していることから、当市ならではの観光施策を様々な関係団体との連携を強化しながら磨き上げ、情報発信を強化していくことで更なる交流人口の拡大が期待できると考えます。加えて、市民がシビックプライドとして、自分事として関わっていただける仕組みづくりを検討・実施していくことで、満足度の向上にも繋がるものと考えます。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	まちづくり課
目 標 名	多文化交流都市
施 策 名	4－2 交流人口の拡大

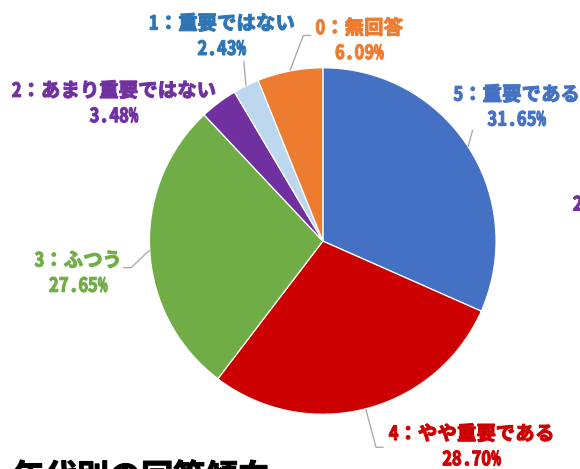
1. 施策の平均及び順位

4－2	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
交流人口の拡大	3.83	17	3.89	17	－	0.06	3.04	13	3.05	12	↑	0.02
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

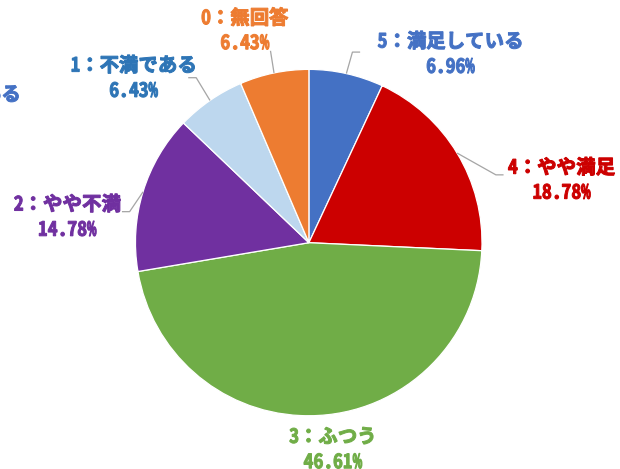
※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

重要度（全年代）



満足度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

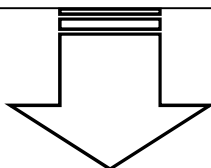
	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	13	6	2	1	1	0	5	5	12	1	0	0
20 代	11	17	8	2	1	1	4	4	19	8	4	1
30 代	12	7	15	3	7	0	6	7	13	10	8	0
40 代	30	13	19	1	1	3	9	5	26	15	9	3
50 代	26	25	29	7	3	2	1	20	39	15	13	4
60 代	42	44	31	1	1	2	3	38	62	14	1	3
70 代以上	44	50	48	3	0	18	11	28	85	20	2	17
不詳（無回答）	4	3	7	2	0	9	1	1	12	2	0	9

4. 分析

交流人口の拡大の重要度・満足度は前回の平均点を上回る結果でしたが、施策平均の満足度は前回の平均点を下回る結果となりました。重要度は「重要である、やや重要である」と回答した方が全体の半数を超えていることから今後も施策を継続し、交流人口の拡大を進めていく必要があると考えます。

○課 題

- ・秋田犬を活用した観光誘客促進
- ・PRが不足している
- ・施策の効果による市の活性化



○課題解決への取組み

- ・市広報やホームページ（SNS含む）、報道機関を活用した情報発信
- ・出前講座等の周知と開催
- ・歴史的風致維持向上計画、歴史まちづくり事業の推進

●総合分析

歴史的風致維持向上計画に基づき、大館城本丸跡の桂城公園を「歴史と未来が交差する水と緑の城址公園」として事業の一環で修景整備することで、市民がこれまで以上に「おおだて」を実感しながら愛着と誇りが持てるようにし、当市を訪れた方々にも立ち寄っていただける場所となるよう努めてまいります。

また、歴史的建造物の保全（桜櫓館の利活用）や良好な街なみ景観の形成を図りながら、報道機関を活用した情報発信を進め、交流人口の拡大につなげてまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

分析担当課	交流推進課
目 標 名	多文化交流都市
施 策 名	4－3 Aターン・定住促進

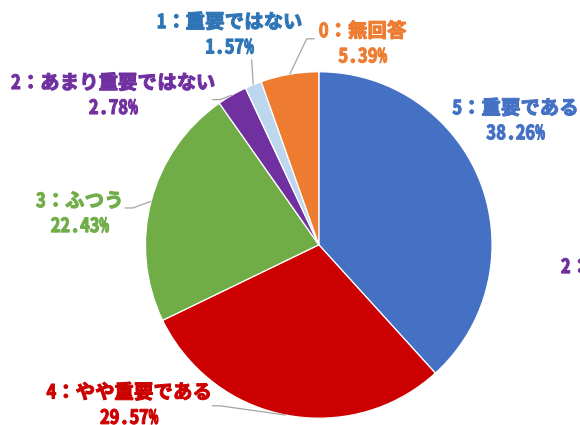
1. 施策の平均及び順位

4－3	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
Aターン・定住促進	3.98	11	4.06	10	↑	0.08	2.95	23	2.80	24	↓	-0.15
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

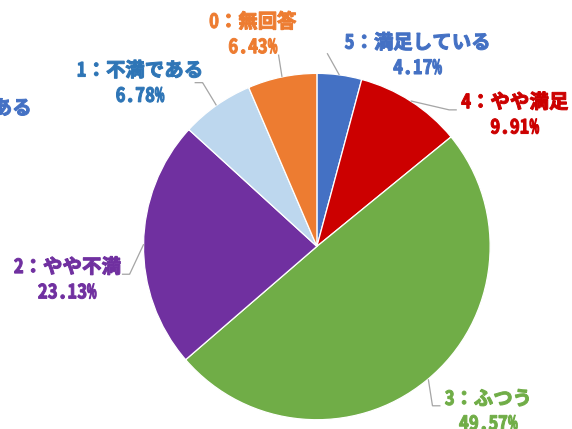
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

重要度（全年代）



満足度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

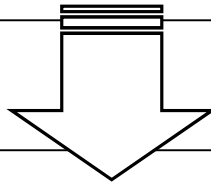
個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	14	6	3	0	0	0	2	6	14	0	1	0
20 代	19	10	9	0	2	0	4	2	11	18	5	0
30 代	15	8	15	2	4	0	2	4	21	10	7	0
40 代	28	15	18	3	1	2	6	4	31	18	6	2
50 代	33	29	25	2	1	2	0	7	52	17	12	4
60 代	54	36	23	5	0	3	2	20	61	28	3	7
70 代以上	50	62	33	3	0	15	7	13	88	36	4	15
不詳（無回答）	7	4	3	1	1	9	1	1	7	6	1	9

4. 分析

重要度は施策平均を上回っており、「重要である」「やや重要である」が全体の67.83%を占め、30代を除く世代で「重要である」「やや重要である」が60%を超えていることから、本施策に対する重要性は一定程度共有できているとみられます。しかし、満足度は「満足している」「やや満足」が14.08%にとどまり、「やや不満」「やや不満である」が29.91%、「ふつう」が49.57%と、取組不十分と認識されているものと考えられます。また、世代別にみると、50代で「満足している」「やや満足」の割合が特に少なく、20代で「やや不満」「不満である」の割合が特に高くなっていますが、情報の所在や若い世代に対するアプローチの方法、移住を希望する人へのPR不足などの課題が見受けられます。

○課題

回答分布において「やや不満」「不満である」の割合が「満足している」「やや満足」を上回っており、「ふつう」が過半数を占めています。また、「移住に関心がある人へのPRが必要」「何をしているか分からない」「どのような成果をあげているのかわからない」など、情報の不足を訴える意見が多く寄せられています。このことから、施策の取り組み内容とその成果をわかりやすく発信することが課題と考えられます。



○課題解決への取組み

- ・市広報や新聞、ホームページ、SNS等を活用した情報発信を行う。特に興味をもっていた人へのアプローチやSNSなどデジタルによる情報発信に力を入れる。
- ・首都圏等における移住フェアへの参加や移住相談会の開催を継続し、相談に訪れた参加者のフォローアップや移住に関する最新の情報を提供しAターン者の確保に努める。
- ・市内企業や関係団体、庁内関連部署と連携した就職相談や移住窓口事業を実施し、広報活動・啓発活動を継続して取り組む。

●総合分析

首都圏などでの移住フェアへの参加や移住相談会の開催、移住者を対象にした支援策として定住奨励金の支給などに取り組んでいますが、市民の皆さまの目に見える形でお伝えできていない現状にあります。今回の結果をもとに皆さまに伝わる情報発信に努め、随時、最新の話題や情報を提供します。

また、関係団体・庁内関係部署との連携を一層強化し、Aターン・定住の促進に取り組んでまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

分析担当課	まちづくり課
目 標 名	環境共生都市
施 策 名	5－1 土地利用・整備

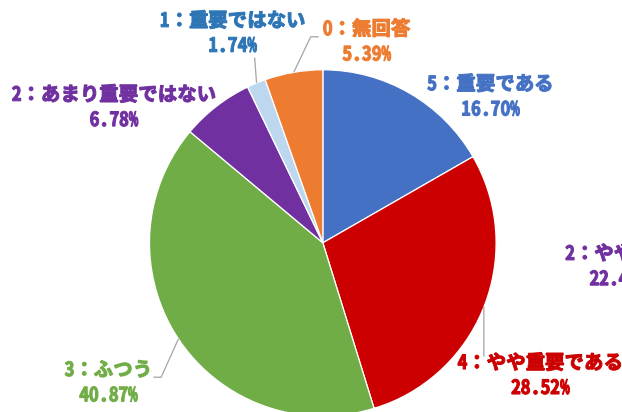
1. 施策の平均及び順位

5－1	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
土地利用・整備	3.53	21	3.55	21	－	0.01	2.85	26	2.77	25	↑	-0.08
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

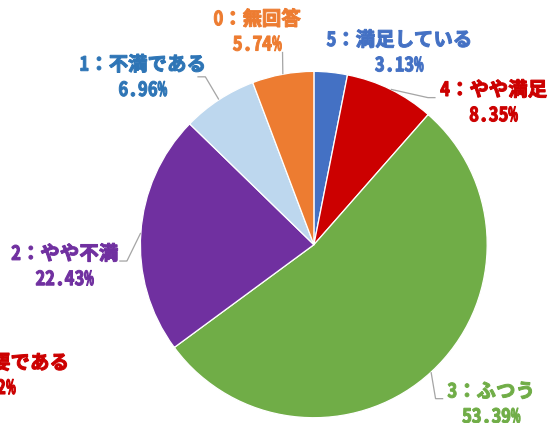
※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

重要度（全年代）



満足度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

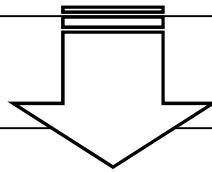
個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	9	6	6	2	0	0	3	7	10	3	0	0
20 代	9	12	19	0	0	0	3	3	19	12	3	0
30 代	3	13	21	2	4	1	2	3	25	6	7	1
40 代	12	12	34	6	2	1	2	4	40	13	7	1
50 代	15	19	45	8	2	3	2	4	57	16	8	5
60 代	19	36	53	8	1	4	1	12	66	33	5	4
70 代以上	26	64	49	9	1	14	4	15	81	40	9	14
不詳（無回答）	3	2	8	4	0	8	1	0	9	6	1	8

4. 分析

重要度・満足度ともに平均を下回る結果となりました。全年代において、重要度は「やや重要である」「重要である」が4割を超える結果となりましたが、満足度は「ふつう」「やや不満」が多数を占めています。

○課 題

「中心市街地（大町や御成町）にたくさんの人が歩いて、賑わえるようにしてもらいたい」「大町のシャッター通りを何とか活力ある通りにする必要がある」という意見をいただきました。御成町南地区土地区画整理事業では、安全な道路空間確保に向けた道路拡幅・融雪歩道が整備されましたが、大町周辺の再興が重要課題であると認識しています。大館駅から長木川までの県道沿いは、環境整備が徐々に整い、大館市の顔として発展した大町街区の再興が今後の課題と考えます。



○課題解決への取り組み

- ・各事業をはじめとする環境整備の早期完了をめざす。
- ・民間主導型の大町再開発事業の模索。
- ・官民協働での街並みづくりのイベント開催など。

●総合分析

人口減少化社会の進展や郊外の開発などにより、大町街区では人流の減少が続いており再興にはいたっていませんが、かつての繁栄の再現にこだわることなく、時代の求めるニーズに応じて、大町街区に来る事が目的となるような魅力的な機能を創出できるように努めてまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

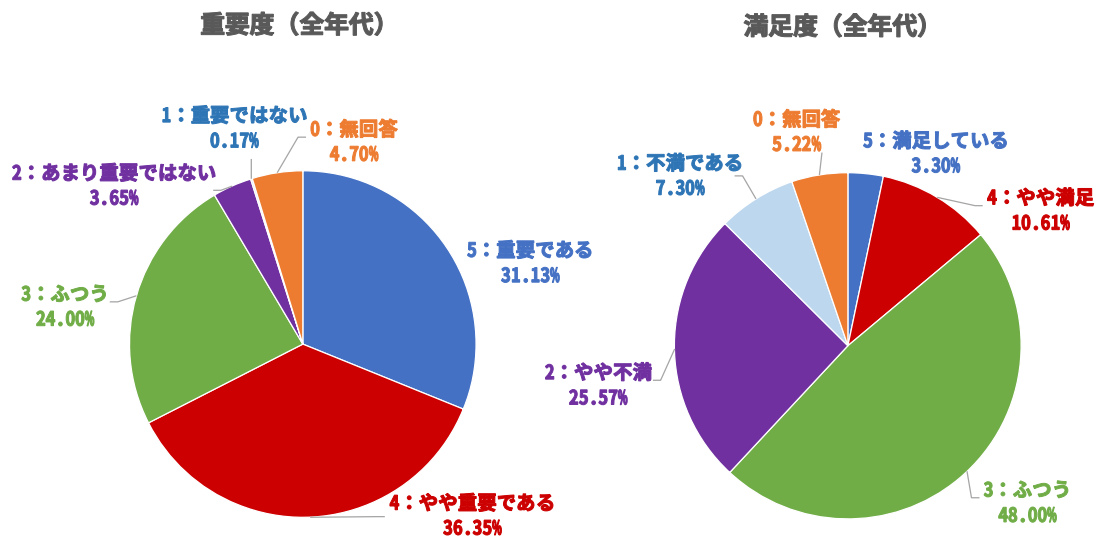
分析担当課	都市計画課
目 標 名	環境共生都市
施 策 名	5－2 住環境・生活空間

1. 施策の平均及び順位

5－2	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
住環境・生活空間	3.80	18	3.99	14	↑	0.20	2.87	25	2.76	26	↓	-0.11
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

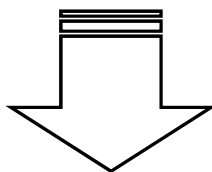
個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	9	8	6	0	0	0	4	6	8	4	1	0
20 代	11	16	13	0	0	0	4	2	20	8	6	0
30 代	19	15	9	0	0	1	3	5	19	10	6	1
40 代	22	20	19	3	1	2	2	8	33	17	4	3
50 代	27	34	23	6	0	2	0	3	55	20	9	5
60 代	39	47	27	4	0	4	0	16	61	34	6	4
70 代以上	47	64	36	6	0	10	5	20	70	49	10	9
不詳（無回答）	5	5	5	2	0	8	1	1	10	5	0	8

4. 分析

重要度は平均を上回り、回答分布でも「重要である」「やや重要である」が約7割を占め、住環境・生活空間への関心の高さが伺えます。満足度では「ふつう」が約半数と施策の周知・認知不足が原因であると考えられます。

○課題

市営住宅に関し、「もっと増築してほしい」「建替えをすすめ、病院や買い物をするときに不自由のない所に建て替えてもらいたい」など増加や建替えへの意見がある一方で、市民の高齢化が進み生活に不便な立地の住宅は入居申込みが無い状況です。さらに「市営住宅の空きが多くみられる。ひとり親で子どもの多い人など、収入にこだわることなく入れたら良いと思う」など、様々な意見があることから、制度の意義や仕組みを理解していただくほか、住宅確保要配慮者へ支援を行う必要があります。



○課題解決への取組み

- ・ 公営住宅等長寿命化計画に基づく、市営住宅の計画的な更新
- ・ 大館市居住支援協議会の運営による住宅確保要配慮者への支援の充実

●総合分析

市営住宅については、令和4年3月に策定した長寿命化計画に基づき、今後、建て替えを進めていくとともに、適切に維持管理してまいります。市民向けには、公営住宅制度の周知をしていく必要があるほか、住宅確保要配慮者への支援として大館市居住支援協議会による住宅セーフティネットの構築を進めていきます。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

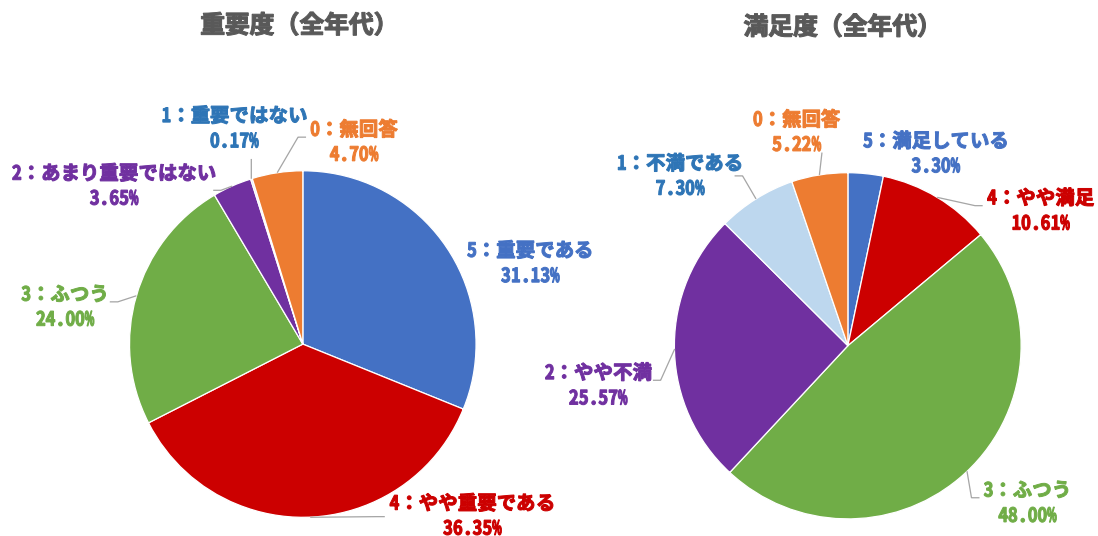
分析担当課	危機管理課
目 標 名	環境共生都市
施 策 名	5－2 住環境・生活空間

1. 施策の平均及び順位

5－2	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
住環境・生活空間	3.80	18	3.99	14	↑	0.20	2.87	25	2.76	26	↓	-0.11
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	9	8	6	0	0	0	4	6	8	4	1	0
20 代	11	16	13	0	0	0	4	2	20	8	6	0
30 代	19	15	9	0	0	1	3	5	19	10	6	1
40 代	22	20	19	3	1	2	2	8	33	17	4	3
50 代	27	34	23	6	0	2	0	3	55	20	9	5
60 代	39	47	27	4	0	4	0	16	61	34	6	4
70 代以上	47	64	36	6	0	10	5	20	70	49	10	9
不詳（無回答）	5	5	5	2	0	8	1	1	10	5	0	8

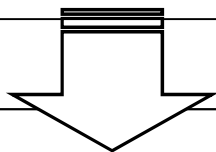
4. 分析

重要度が増す一方で満足度が前回からやや順位を下げております。回答分布をみると、どの世代でも重要度では、「重要である」「やや重要である」が半数以上を占め、住環境、空き家問題への関心の高さが伺えます。満足度では、「ふつう」が約半数で、施策が市民ニーズになかなか追い付いていないことが読み取れる一方で、「少しずつではありますが、空き家の問題解消に努力が見られる」などといった意見もあることから、対策に一定の評価もいただいているものと考えます。

○課 題

「空き家の積極的な対策を希望する」「危険空き家補助金の額を増やしてほしい」「空き家を市で買い取り、安く市民に貸して欲しい」などの意見をいただきましたが、空き家の問題は、所有者がその責任で建物の適切な管理に積極的に努めなければなりません。しかしながら、所有者が市外・県外在住の場合や施設入所する場合、定期的な建物管理が難しくなります。当初は丈夫でも放置状態が続き、劣化や損傷が進むと周辺に支障を及ぼす危険な空き家となります。危機管理課では空き家対策の総合窓口として、危険空き家の苦情を受けた際、適正管理の指導を所有者に行うほか、危険度が高い空き家については所有者に対し解体工事費の一部を補助金交付することで解体を促進しています。

以上の取り組みは、市広報やホームページでお知らせしていますが、「よくわからない。もっとアピールしてほしい」という意見や、満足度における「ふつう」が約半数という点において、いまだ施策の周知がしっかり図られていないと考えます。「危険空き家等解体撤去費補助金制度」のさらなる周知、また、危険な空き家を生み出さないよう、空家解体補助金制度の拡充、専門家団体との連携を強化して対策を講じる必要があります。



○課題解決への取り組み

空き家等現況調査を令和5年度に行い、最新の空き家状況を把握・分析し、時局に合わせた対策に取り組む計画を策定しました。また、危険な空き家等の解体をさらに推進するため、一定程度の危険性がある老朽化した空き家については、専用住宅に限らず、商店などの事業用として一部使用していた併用住宅に対しても柔軟に補助できるよう制度の拡充を図りました。そのほか、危険空き家とならないよう、空き家所有者または相続人に向けた利活用やリスクを学んでもらうセミナー及び個人相談会も令和5年度より開催し、課題解決に努めております。

関係課・関連NPO法人とともに、総合的な空き家対策をより一層推進します。

●総合分析

良好で安全な住環境は誰もが求めるところですが、人口減少を伴う少子高齢化の進行等により空き家及び危険空き家の加速的な増加が見込まれます。

市としても安全な住環境の保全を図るため、広報やホームページを通じて、空き家バンク制度や住宅リフォーム支援事業を通じた空き家の有効活用、危険空き家解体に係る補助金制度、また、空き家の維持管理の重要性の周知・浸透を図りながら、大館市空家等対策計画に掲げる総合的な空き家対策をより一層推進してまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

分析担当課	土木課
目 標 名	環境共生都市
施 策 名	5－3 道路・交通網・情報基盤

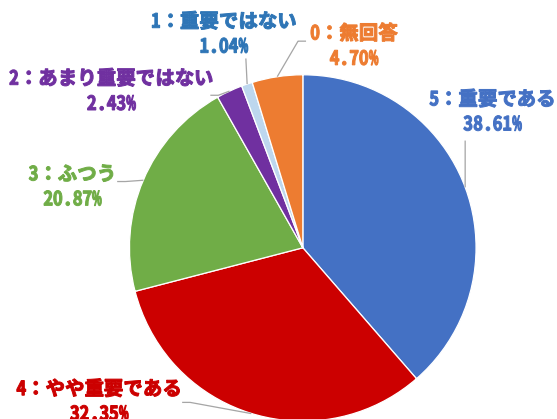
1. 施策の平均及び順位

5－3	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
道路・交通網・ 情報基盤	3.93	13	4.10	8	↑	0.17	3.00	18	3.09	10	↑	0.09
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

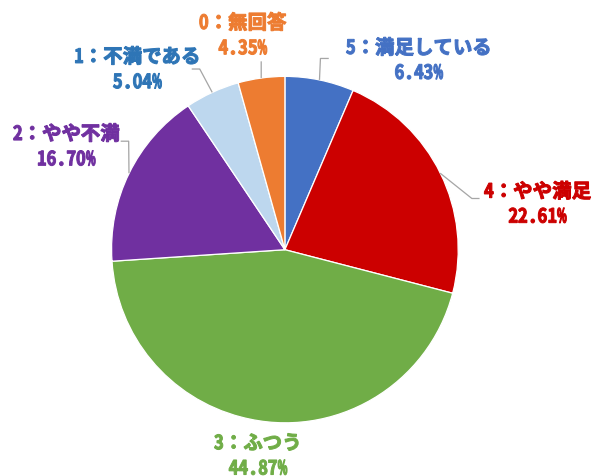
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

重要度（全年代）



満足度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	14	5	3	1	0	0	6	5	10	2	0	0
20 代	18	8	11	2	0	1	3	7	16	10	4	0
30 代	16	17	6	0	3	2	4	11	13	11	4	1
40 代	36	11	16	1	2	1	8	13	23	15	7	1
50 代	34	29	23	3	1	2	4	16	50	11	8	3
60 代	43	56	17	2	0	3	1	41	54	21	2	2
70 代以上	55	57	38	3	0	10	10	35	82	22	4	10
不詳（無回答）	6	3	6	2	0	8	1	2	10	4	0	8

4. 分析

「道路・交通網・情報基盤」については、重要度の順位が8位と市民のニーズは高く、年代が上がるほど高い傾向となっています。

これについての満足度は、「満足」「やや満足」が約3割、「不満」「やや不満」が約2割、「ふつう」が約5割と、前回より「やや満足」が増加しており、施策の効果が現れてきています。

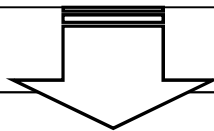
○課 題

ご意見については、舗装補修など道路の維持補修に関して数多く寄せられており、続いて、アンケート実施時期に関係なく除雪に関するものとなっており、いずれも改善要望がほとんどを占めています。

特に道路については、劣化に伴う路面状況の悪化や老朽化した側溝の改善要望、生活道路や歩道の段差解消等、整備促進などが求められています。

また、除雪については、除雪車運行管理システムや降雪センサーを導入して、除雪体制の見直しを行っているが、高齢化の進展に伴う間口除雪や除雪方法等のさらなる改善が求められています。

ほかには、通勤時の渋滞対策や大館駅前駐車場に関する意見も、寄せられています。



○課題解決への取組み

- ・ きめ細やかな除雪体制の確立と強化
- ・ 生活道路の計画的な補修・整備の実施
- ・ 学校周辺の通学路の未整備解消への取り組み
- ・ 包括的民間委託拡大による迅速な道路補修

●総合分析

道路は市民生活に密着するインフラであり、路面や側溝の補修については、重点施策として、取り組みを推進しています。

包括的民間委託導入による的確な路面状況の把握と補修の早期対応や、計画に基づいた生活道路の効率的な整備の実施に努めた結果、道路の維持補修に関する苦情件数は減少しており、取り組みの効果が現れてきています。

また、通勤時の渋滞解消に向け、国土交通省が進めている「渋滞対策推進協議会」でのTDM（交通需要マネジメント）施策を反映させ、国・県と連携し、対策に努めてまいります。

冬期の市民生活を支える除雪については、降雪状況や高齢化社会に寄り添ったきめ細かな除雪体制の強化が必要と分析されます。

除雪車運行管理システムを活用した除雪情報の提供や除雪業者への苦情・要望箇所に対する指示、ヒアリングによる路線の見直し、降雪センサーによる状況把握など、より一層の体制強化に努めてまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

分析担当課	都市計画課
目 標 名	環境共生都市
施 策 名	5－3 道路・交通網・情報基盤

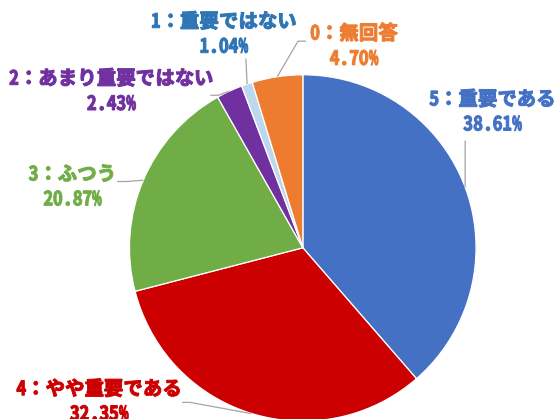
1. 施策の平均及び順位

5－3	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
道路・交通網・ 情報基盤	3.93	13	4.10	8	↑	0.17	3.00	18	3.09	10	↑	0.09
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

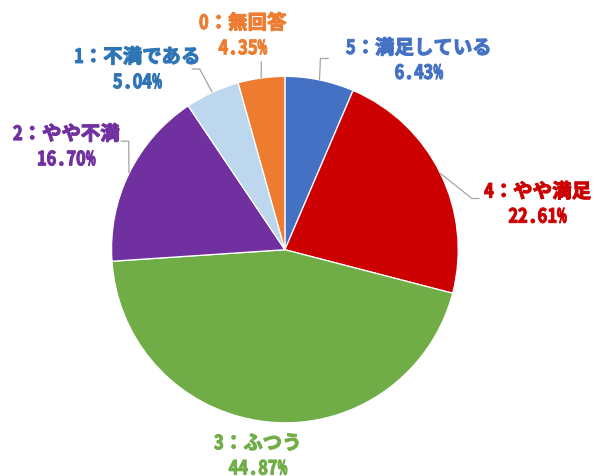
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

重要度（全年代）



満足度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	14	5	3	1	0	0	6	5	10	2	0	0
20 代	18	8	11	2	0	1	3	7	16	10	4	0
30 代	16	17	6	0	3	2	4	11	13	11	4	1
40 代	36	11	16	1	2	1	8	13	23	15	7	1
50 代	34	29	23	3	1	2	4	16	50	11	8	3
60 代	43	56	17	2	0	3	1	41	54	21	2	2
70 代以上	55	57	38	3	0	10	10	35	82	22	4	10
不詳（無回答）	6	3	6	2	0	8	1	2	10	4	0	8

4. 分析

重要度、満足度ともに、施策平均、前回調査を上回る結果となっています。

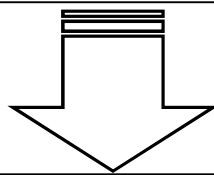
回答分布をみると重要度に関しては「重要である」、「やや重要である」が70.96%（前回調査比+7.45）、「ふつう」が20.87%（前回調査比-5.36）、満足度に関しても「満足している」、「やや満足」が29.04%（前回調査比+7.55）、「ふつう」が44.87%（前回調査比-5.62）と前回調査から大幅に改善しております。

世代別に見ると重要度ではほぼ全ての世代で「重要である」、「やや重要である」が多数を占めていますが、満足度では40代以下では「満足している」、「やや満足」と「ふつう」が拮抗している一方、50代以上で「ふつう」が多数を占めています。このことから、高齢者層へ向けた施策に改善の余地があると考えられます。

○課 題

生活に直接関わる施策であるため、「無回答」の割合が少なく「重要である」、「やや重要である」が多数を占めているが、満足度では「ふつう」が多数を占めており、約2割が不満感を抱いている。このことから、施策が十分に行き届いていないものと思われます。

個別意見を見ても mobi や自動運転等、新たな取り組みを評価する声が多い一方、mobi のエリア拡大や増車、路線バス・コミュニティバスの拡充や高齢者免許返納推進を求める意見をいただきました。今後は各地区の実情やニーズにあった公共交通の構築に取り組んでいく必要があります。



○課題解決への取り組み

- ・ 座談会やアンケート等による市民ニーズの把握
- ・ 各地区に合わせた公共交通網の再編
- ・ 多様な運行形態による移動手段の検討
- ・ mobi 本格運行に向けての課題の洗い出しと運行体制の強化

●総合分析

重要度が高い反面、満足度が低い状況ですが、前回調査から改善傾向が見られます。これは、これまでの取り組みに一定の成果は認められるものの、更なる改善の余地があると分析されます。

このため、市内各地域での座談会等を通じて情報発信と地域のニーズの把握に努めながら各施策を再点検し、さらに精度の高い施策に取り組む必要があると分析されます。

今回の結果を踏まえ、利用しやすい公共交通サービスの実現や公共交通不便地域の解消、多様な運行形態による移動手段の確保の施策を展開するとともに、市民・関係団体・関係各課との連携を一層強化してまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

分析担当課	水道課
目 標 名	環境共生都市
施 策 名	5－4 上下水道

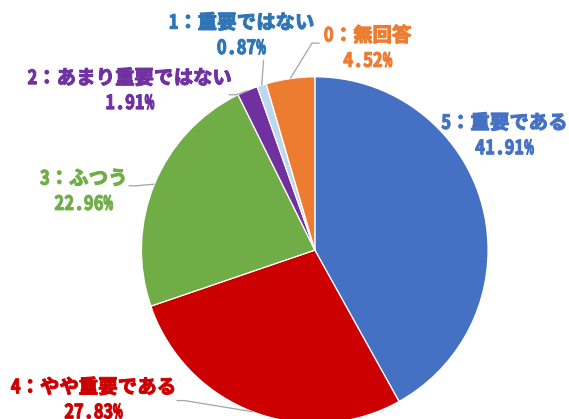
1. 施策の平均及び順位

5－4	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
上下水道	4.13	5	4.13	6	↓	0.00	3.41	1	3.45	1	－	0.05
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

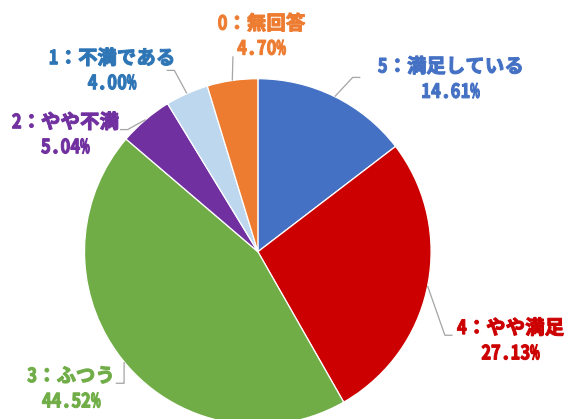
※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

重要度（全年代）



満足度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	15	4	4	0	0	0	12	7	4	0	0	0
20 代	20	7	13	0	0	0	8	13	18	0	1	0
30 代	15	16	9	2	1	1	10	15	12	2	4	1
40 代	33	17	14	1	1	1	13	15	30	2	6	1
50 代	39	23	26	1	1	2	6	16	51	11	5	3
60 代	45	46	24	2	0	4	10	38	58	9	3	3
70 代以上	69	45	33	5	1	10	23	49	72	5	3	11
不詳（無回答）	5	2	9	0	1	8	2	3	11	0	1	8

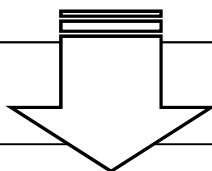
4. 分析

重要度・満足度ともに「環境共生都市」の中で1位となり、特に満足度では全体でも1位となっています。しかし、重要度を「重要である」と「やや重要である」が合わせて約7割を占めているのに、満足度は「満足している」と「やや満足」が合わせて約4割となっています。また、「やや重要」と「やや満足」と「ふつう」と「ふつう」の相関係数が1.0に近いものの、「重要である」「満足している」の相関係数が0.75と低くなっています。

これは、市民が生活インフラとしての水道にある程度満足しているものの、非常に重要と考えられる方々からは十分な満足度を得ることができなかった結果となっています。

○課 題

- ・「水がおいしい」「水がまずい」という意見はあるが、安心して飲んでいただける安全な水を供給し続ける必要がある。
- ・水道料金が高いという意見もあるが、人口減少に伴う収入減と施設更新費や燃料費・薬品費などの高騰もあり、経営は厳しい状態を迎えている。
- ・施設の老朽化とともに大規模災害等に備えるため、耐震・強靱化及び更新を計画的に行う必要がある。



○課題解決への取組み

- ・老朽化した水道施設・管路等の計画的更新
- ・広域連携や官民連携の推進
- ・人口減を踏まえた水道ビジョンの見直し
- ・適正な料金体系の検討

●総合分析

安全でおいしい水の安定供給は、豊かで潤いのある快適な生活の実現や公衆衛生の確保、社会経済活動の維持・発展に不可欠であり、今回の調査結果で重要度・満足度ともに高く評価されていることから、上下水道の大切さが市民の皆様にも十分認識されていることが分かります。

近年は大規模災害の発生が多く、上水道は生活インフラに重要欠かせないものの認識も広く浸透してきていることが、「重要である」との回答割合が増えた要因と考えられます。

また、未普及地域からは上水道の要望も多くいただいておりますが、実現には多額の費用を要することもあり、他事業との兼ね合い等を考慮するなどして検討していく必要があります。

これからも、今回のご意見を反映させ、安定した事業継続による市民の皆様の満足度向上に努めてまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

分析担当課	下水道課
目 標 名	環境共生都市
施 策 名	5－4 上下水道

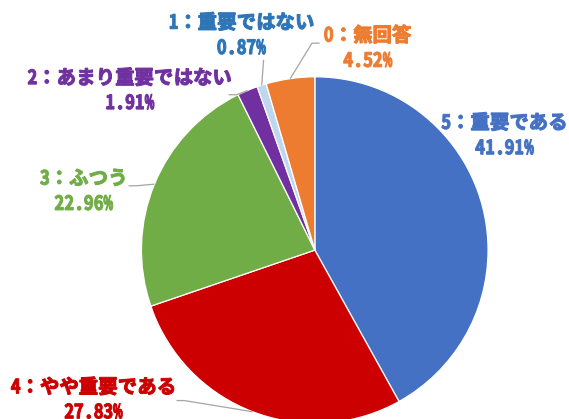
1. 施策の平均及び順位

5－4	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
上下水道	4.13	5	4.13	6	↓	0.00	3.41	1	3.45	1	－	0.05
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

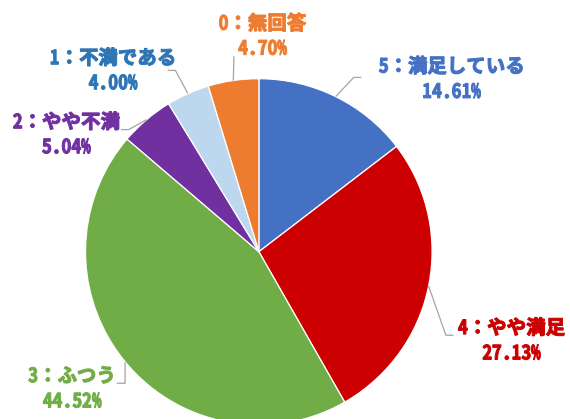
※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

重要度（全年代）



満足度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

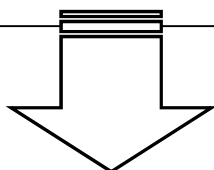
個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	15	4	4	0	0	0	12	7	4	0	0	0
20 代	20	7	13	0	0	0	8	13	18	0	1	0
30 代	15	16	9	2	1	1	10	15	12	2	4	1
40 代	33	17	14	1	1	1	13	15	30	2	6	1
50 代	39	23	26	1	1	2	6	16	51	11	5	3
60 代	45	46	24	2	0	4	10	38	58	9	3	3
70 代以上	69	45	33	5	1	10	23	49	72	5	3	11
不詳（無回答）	5	2	9	0	1	8	2	3	11	0	1	8

4. 分析

重要度・満足度ともに「環境共生都市」の中で高い評価を得ている中で、重要度のポイントは同数値であるが、順位が1つ下がっています。重要度は「重要」「やや重要」が全体的に69%であり重要施策と認識されていると考えます。一方、満足度については「満足」「やや満足」で全体の42%であるが、「ふつう」を加えると86%となっております。

○課 題

- ・大館市の下水道の普及率は、令和6年度当初で85.2%であり、全国平均や県平均に比べても低く、「下水道整備を全区域へ」「下水道整備の普及をしてほしい」など早期に下水道整備を望む意見や、使用料金では他の自治体と比べ高いなどの意見があります。
- ・令和8年度に公共下水道整備を概成とし公共下水道の普及率については95%とすることを目標としております。



○課題解決への取組み

- ・令和8年度に下水道整備を概成とし、下水道区域内における未接続者へ接続のはたらきかけ及び下水道未整備地区においては、合併処理浄化槽の設置により水洗化の向上に取り組めます。
- ・現在の下水道使用料金は、県内の自治体と比較し中間に近い料金となっています。今後、料金を下げることは使用料減少や物価高騰などから難しい状況となります。

●総合分析

生活排水処理整備は、公共下水道をはじめ、農業集落排水・合併処理浄化槽による水洗化の向上は、公共用水域の水質保全や住環境向上及び衛生対策を目的としております。

少子高齢化・人口減少など激変する社会情勢を考慮しながら、令和8年度に下水道整備の概成となることから大館市生活排水処理整備構想についても見直しを行ってまいります。

今後も安全安心に暮らせる生活環境を支えるため、水洗化への啓発活動を進め、公共下水道への接続及び合併処理浄化槽の設置促進に努めてまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

分析担当課	環境課
目 標 名	環境共生都市
施 策 名	5－5 環境保全・循環型社会

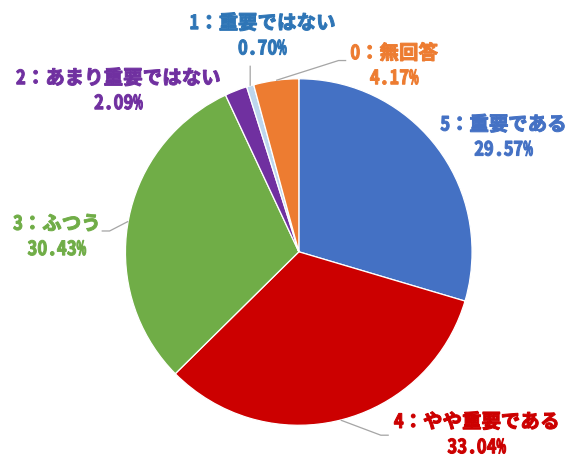
1. 施策の平均及び順位

5－5	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
環境保全・循環型社会	3.90	14	3.93	16	↓	0.02	3.40	2	3.38	2	－	-0.03
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

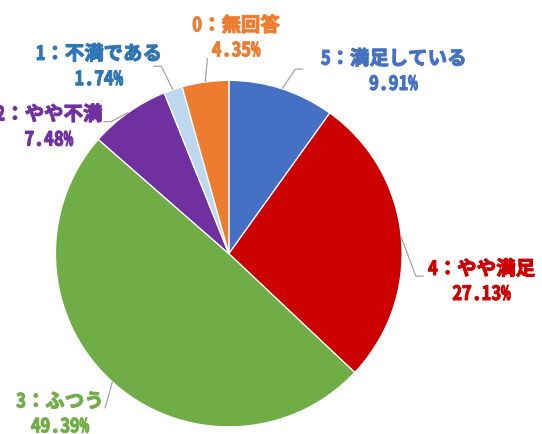
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

重要度（全年代）



満足度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	10	7	6	0	0	0	7	5	10	1	0	0
20 代	11	14	14	1	0	0	5	12	20	2	1	0
30 代	15	10	17	1	0	1	7	10	20	5	1	1
40 代	18	22	25	0	1	1	9	13	40	2	2	1
50 代	30	28	27	4	1	2	5	24	44	14	2	3
60 代	29	52	35	2	0	3	2	43	64	8	2	2
70 代以上	54	52	44	3	1	9	20	46	75	11	1	10
不詳（無回答）	3	5	7	1	1	8	2	3	11	0	1	8

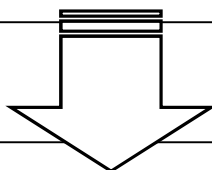
4. 分析

重要度の全体順位は前回より低下しているものの、「重要である」「やや重要である」を合わせると6割を超えており、市民の皆様が環境保全・循環型社会を重要視していることが伺われます。

満足度に関しては全体の2位をキープしているが、前回調査に比べ満足と不満が若干減り、ふつうが増えています。

○課題

- ・大館市の特徴である、こでん回収に対する高評価やプラスチックなど更なる分別回収によるリサイクルを推進する意見がある一方、「分別区分が多い」や「分別する理由がわからない」「ステーションに未分別のごみが残されて困る」などの反対意見も多くあり、資源化による廃棄物の減量化と環境負荷の低減に理解と協力をいただけるよう周知する必要がある。
- ・エコプラザに対し、多くの高評価とあわせてイベントの充実や資源回収拠点の拡大の要望もいただきました。エコプラザをより多くの人に利用してもらうことにより3Rの推進と不法投棄やポイ捨ての減少に繋がられるようしなくてははいけない。
- ・市民や事業主の方にゼロカーボン達成に向けた取り組みの輪を拡大していく必要がある。



○課題解決への取り組み

- ・収集から最終処分までの処理過程に関する情報を発信する等の周知に努め、ごみ分別の意義やルールへの浸透を図り、ごみの適正処理とリサイクルに理解と協力いただけるよう普及啓発活動を粘り強く継続します。
- ・エコプラザや出前講座などを活用した3Rの意識醸成を図ります。
- ・再生可能エネルギー導入の推進や地域課題の解決と連動したゼロカーボンシティの実現に向け、官民協働し活動します。

●総合分析

地球温暖化によると思われる自然災害が多発している昨今において、環境保全・循環型社会を次世代へ継承し、豊かで安心して暮らせるまちづくりは、ますます重要であり力強く推進する必要があります。

令和6年度末、大館市地球温暖化対策実行計画を策定しサーキュラーエコノミーの実現に向け動き出しており、市の横断的戦略として取り組んでまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	管財課
目 標 名	行財政運営
施 策 名	6－1 行財政運営

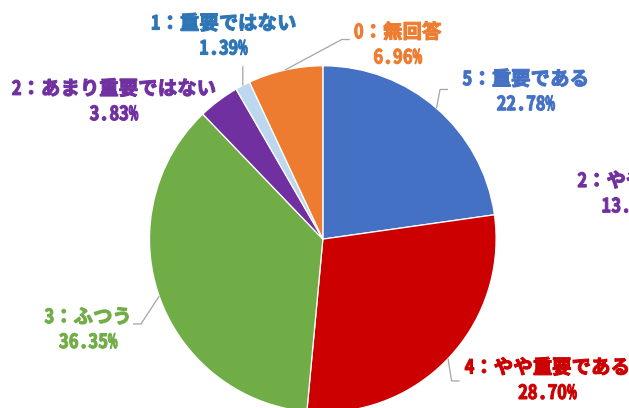
1. 施策の平均及び順位

6－1	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
行財政運営	3.55	20	3.73	19	↑	0.18	3.21	6	3.04	15	↓	-0.17
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

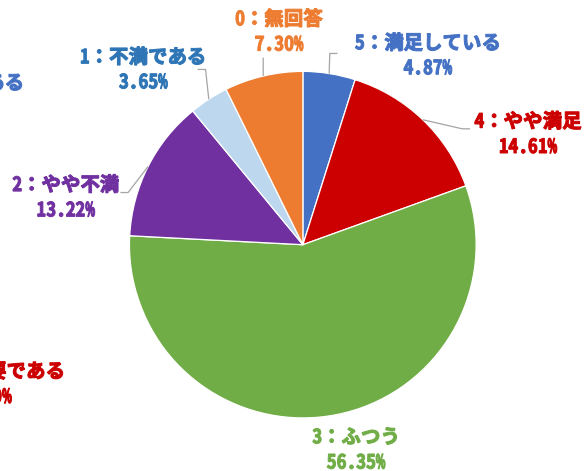
※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

重要度（全年代）



満足度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

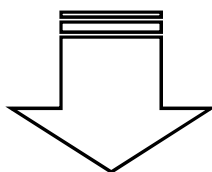
個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	9	9	5	0	0	0	5	7	8	2	1	0
20 代	10	13	13	0	0	4	2	5	21	7	1	4
30 代	15	10	14	3	2	0	2	9	24	5	4	0
40 代	20	20	24	1	1	1	5	6	40	9	5	2
50 代	18	24	42	2	2	4	1	12	54	17	4	4
60 代	23	41	46	8	1	2	2	23	72	19	3	2
70 代以上	34	46	55	8	1	19	10	21	95	15	2	20
不詳（無回答）	2	2	10	0	1	10	1	1	10	2	1	10

4. 分析

重要度は平均を下回っていますが前回より数値は上回っています。満足度は平均と同じですが、前回より数値は下がっています。回答分布は重要度・満足度ともに「ふつう」が最も多く、特に満足度では過半数が「ふつう」との結果となっています。また、重要度では、「重要である」と「やや重要である」を合わせると前回より約8%増え、半数を超えています。前回より割合が上がっていることから、行財政運営の関心が高まりつつあることが伺えます。

○課 題

- ・ 公共施設の整理・効率化と既存施設の保全・延命化
- ・ 公共施設の市民に対する周知不足



○課題解決への取組み

- ・ 市のホームページを活用し、公共施設の周知と現状等を情報発信する。
- ・ 出前講座等の開催による周知
- ・ 公共施設の整理・廃止に伴い未利用になった施設の利活用を推進する。

●総合分析

公共施設の適正管理について、公共施設の整理や効率化、保全や延命化など、公共施設のあり方を問う意見が寄せられているところです。平成28年度に策定した「大館市公共施設等総合管理計画」に基づき公共施設の適正管理に努める一方、整理・効率化によって未利用になった公共施設については、未利用施設の情報発信をして利活用を推進してまいります。また、市民への公共施設の周知が不足していると分析されことから、「施設カルテ」等により、施設の情報発信に努めていきます。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	企画調整課
目 標 名	行財政運営
施 策 名	6－1 行財政運営

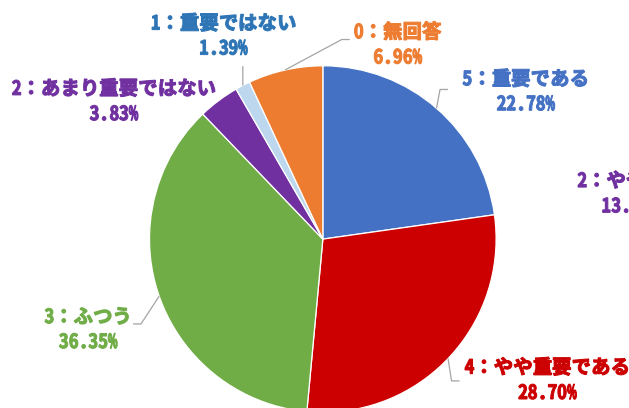
1. 施策の平均及び順位

6－1	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
行財政運営	3.55	20	3.73	19	↑	0.18	3.21	6	3.04	15	↓	-0.17
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

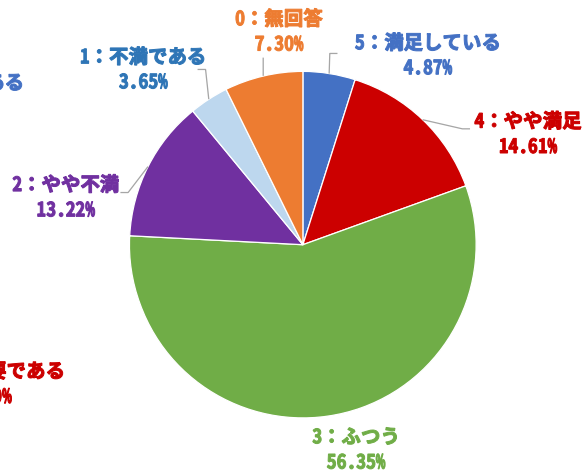
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

重要度（全年代）



満足度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

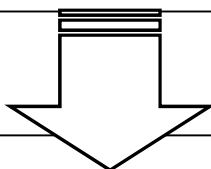
	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
個 数												
10 代	9	9	5	0	0	0	5	7	8	2	1	0
20 代	10	13	13	0	0	4	2	5	21	7	1	4
30 代	15	10	14	3	2	0	2	9	24	5	4	0
40 代	20	20	24	1	1	1	5	6	40	9	5	2
50 代	18	24	42	2	2	4	1	12	54	17	4	4
60 代	23	41	46	8	1	2	2	23	72	19	3	2
70 代以上	34	46	55	8	1	19	10	21	95	15	2	20
不詳（無回答）	2	2	10	0	1	10	1	1	10	2	1	10

4. 分析

満足度は施策の平均値と同じ結果となっています。一方、重要度は平均値を下回ったものの、「重要・やや重要である」と回答した人は前回調査より約8%増加し、中でも10代～30代では過半数が「重要・やや重要である」と回答しています。施策全体では、27施策中15位と9ランクダウンとなりました。回答分布は重要度・満足度ともに「ふつう」が最も多く、特に満足度では半数を超える結果となっています。

○課題

- ・ 公共施設の管理について、延命化や老朽化に対する不安の声や、人口減少に伴う減収に応じたに施設保有数に対する意見があったことから、公共施設等総合管理計画の確実な実行とともに、施設維持に関する施策の周知が必要。
- ・ ふるさと納税の取り組みに対しては、一定の評価や一層の推進を要望する声もある一方で、財源としての安定性を不安視（又は疑問視）する意見もあることから、一定の寄附額を維持できる仕組みが必要。
- ・ 安定した財源の確保、納税の推進を望む声がある。



○課題解決への取り組み

- ・ 安定した財源確保のため、市税等の高い収納率を今後も維持することで公平性の確保及び滞納の抑制に取り組むとともに、継続したコスト削減を図る。
- ・ 長寿命化対策や効率的な運用など、公共施設の適切な維持管理に引き続き取り組んでいく。
- ・ 市の魅力が伝わるふるさと納税返礼品の開発や既存品の磨き上げ等で新規寄附のほかりピーターの獲得に努めつつ、返礼品の在庫確保と適正管理で、安定した寄附額の確保を図る。
- ・ 質の高い行政サービスの提供、健全な財政運営を目指した行財政改革の一層の推進

●総合分析

「行財政運営」においては、人口減少や少子高齢化が進んでも、将来にわたって健全な財政運営が求められています。このためには、市の取り組みなどを市民の皆様にご理解いただくことが重要となります。今後も引き続き、市民の皆様にご理解しやすい市政の情報発信に努めます。

また、質の高い行政サービスの提供においては、「引越し手続きオンラインサービス」「AI・チャットボットの活用」「証明書自動交付機の導入」などDXの推進に取り組み、健全な財政運営では、「ネーミングライツ」「ふるさと納税」により自主財源の確保に努めているところです。

今後も、デジタル庁が推進している「誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化を。」の実現に向けて、行政サービスの利便性向上及び行政運営の効率化に立ち返った業務改革に取り組んでまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

分析担当課	企画調整課
目 標 名	行財政運営
施 策 名	6－2 広域行政・広域連携

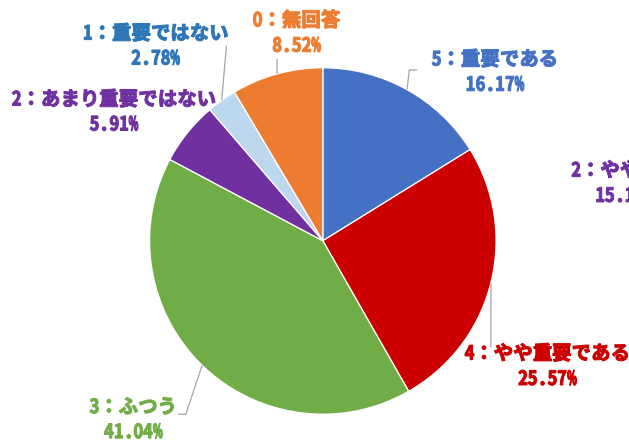
1. 施策の平均及び順位

6－2	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
広域行政・ 広域連携	3.36	24	3.51	23	↑	0.15	3.02	17	2.89	21	↓	-0.12
施策平均	3.82		3.89			0.07	3.09		3.04			-0.05

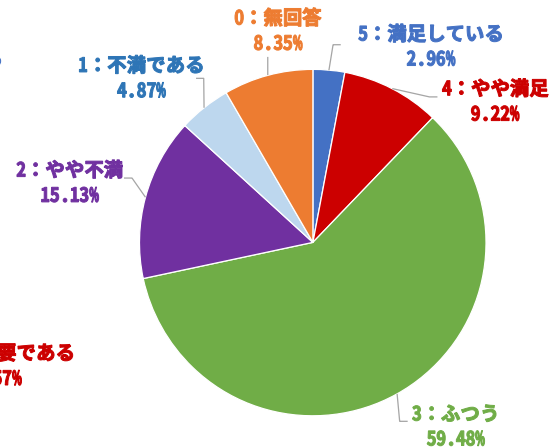
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

重要度（全年代）



満足度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）					
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 代	9	9	3	2	0	0	3	5	11	3	1	0
20 代	8	9	17	3	0	3	1	4	22	7	2	4
30 代	6	9	19	5	5	0	1	5	23	8	7	0
40 代	10	14	34	3	2	4	1	4	45	9	3	5
50 代	12	23	44	5	3	5	1	7	57	13	8	6
60 代	16	31	60	8	2	4	3	10	84	20	2	2
70 代以上	29	47	53	8	3	23	6	18	89	25	4	21
不詳（無回答）	3	5	6	0	1	10	1	0	11	2	1	10

4. 分析

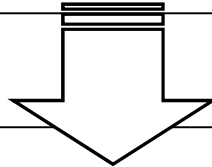
重要度及び満足度ともに平均値を下回る結果となっています。回答分布では、施策を「重要・やや重要である」と答える人が全回答の約 40%を占める一方で、「満足・やや満足」と答えた人は約 12%にとどまっています。重要度は前回調査に比べ 0.15 ポイント増となり、関心が高くなっていると考えられるものの、重要度と満足度が乖離する結果となっています。

また、満足度で「ふつう」が約 59%であることや、「連携によつてのメリット・交流が生み出す効果がわからない」という意見もあることから、施策が十分に知られていないという現状を示していると考えられます。

○課 題

前回調査以降も秋田県及び長野県青木村をはじめとする官公庁や企業・団体等も各種協定を締結しており、その都度、概要等について発信していますが、「連携によつてのメリット・交流が生み出す効果がわからない」という意見から、下記の課題が考えられます。

- ・取り組みが伝わっていない
- ・連携に至つての成果が市民の皆様還元されていない



○課題解決への取組み

- ・広報やホームページ、SNS、地元紙を活用した情報発信
- ・市民を巻き込んだ取り組みの実施
- ・各分野における広域行政・広域連携の更なる推進

●総合分析

多様な行政課題や市民の生活圏域の広域化などによる様々な課題に対応するためには、市民や地域に加え、国や県及び周辺市町村並びに民間事業者等と相互連携しながら、それぞれの地域やノウハウを活かしたまちづくりを推進していく必要があると考えます。

今後は、民間主導で公共サービスを提供する「公民連携」、行政（官）と民間（民）が行政主導のもと公共サービスを提供する「官民連携」を推進し、広域や官民とのつながりを活かした取り組みの深化を目指していきます。

また、前回調査同様に、市民に対する周知が不足しているということが明らかになっています。今後も広報やホームページ、地元紙を活用した情報発信を継続するとともに、市民に還元される仕組みが必要と考えます。行政と民間事業者、市民が一体となったまちづくりを推進するため、新たな課題解決の手法を模索していきます。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	子ども課
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7－1 市立保育園、へき地保育所

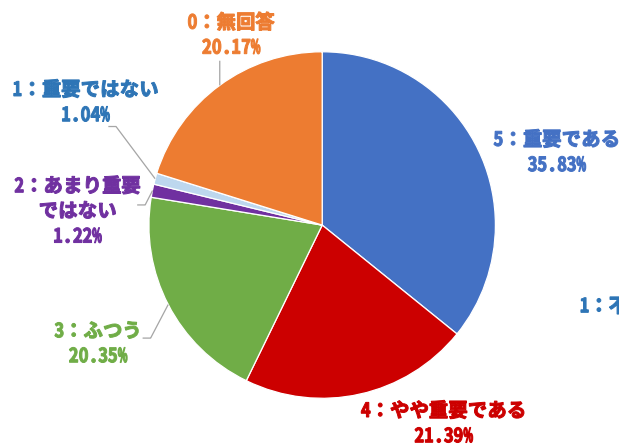
1. 施策の平均及び順位

7－1	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
市立保育園、 へき地保育所	4.02	3	4.12	2	↑	0.11	3.25	8	3.29	7	↑	0.05
施設別平均	3.63		3.69			0.06	3.16		3.20			0.04

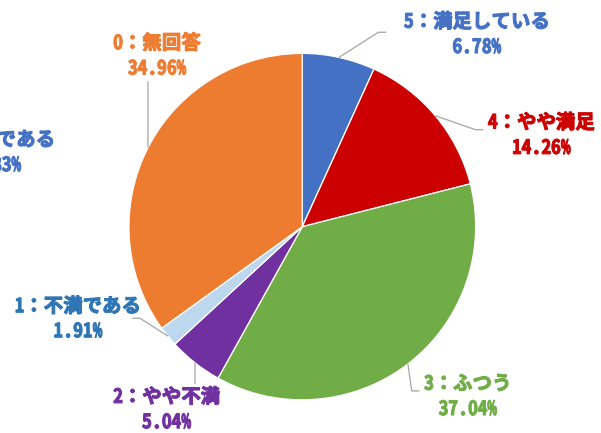
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

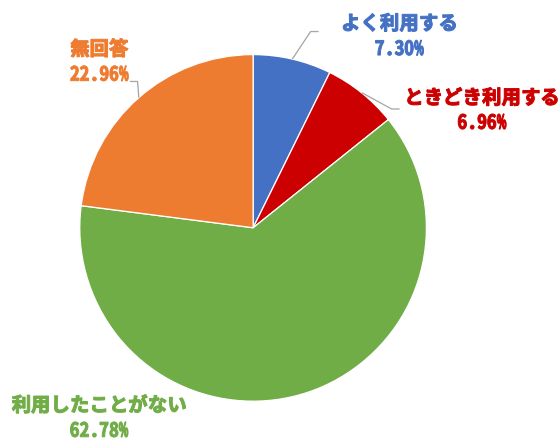
重要度（全年代）



満足度（全年代）



利用頻度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	10	4	5	0	0	4	0	4	6	2	0	11	2	4	15	2
20代	24	8	7	0	0	1	4	5	14	4	0	13	6	2	29	3
30代	22	11	6	0	2	3	5	8	9	4	3	15	10	4	24	6
40代	35	13	10	0	1	8	12	9	19	3	1	23	9	10	36	12
50代	34	23	24	2	1	8	6	9	45	6	1	25	4	7	64	17
60代	32	30	35	2	0	22	6	17	57	5	1	35	3	6	81	31
70代以上	44	31	28	3	2	55	5	28	57	4	5	64	6	4	108	45
不詳（無回答）	5	3	2	0	0	15	1	2	6	1	0	15	2	3	4	16

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

重要度・満足度ともに平均を上回っています。全体順位でみると、重要度が順位を一つ上げ2位に、満足度も順位をひとつ上げ7位となっています。

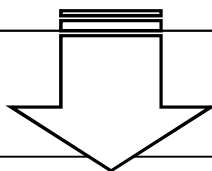
年代別にみても、ほぼすべての年代で「重要である」と認識されており、子育て世代である20代から40代はもちろん、60代、70代においても無回答が多い反面、孫をもつ世代としてか、高い関心が示されています。満足度については、前回同様「ふつう」と回答した方が37%と最も多い割合を占めています。

「不満」と回答した方が、前回の2.56%から1.91%と僅かに減った分、順位が上がったと思われます。

また、前回20%弱であった無回答が35%弱と大幅に増加したことについては、今後注視していかなければならないと考えます。

○課 題

- ・少子化に伴い、3歳以上の児童の受入枠に余剰が生じている施設があります。
- ・入園希望では、市中心部の保育施設に人気が集まる一方で、中心部から離れた保育施設への入園希望が定員を下回る傾向が見られます。
- ・安心・安全な保育を提供しつつ、保育の質の向上に努め、施設運営の健全化を図る必要があります。



○課題解決への取組み

- ・保育の利用状況による必要とされる保育の量の算定
- ・必要な保育の量と地域の実情を勘案した公立保育施設の適正な配置の検討
- ・障害児保育や医療的ケア児の受入に対応するための保育人材、看護人材の確保

●総合分析

保育施設は保護者の就労を支える重要な役割を担っているため、産休・育休明けの申込が集中する0歳～2歳児の待機児童の解消が最大の目標となります。

市中心部の保育施設のニーズが高いことから、引き続き、認定こども園などの民間活力を最大限に活かして、年度途中の0歳～2歳児の受入枠の確保に取り組み、利用者が減少している地域の公立保育園及びへき地保育所については、統廃合により施設運営の合理化を図る必要があると考えます。

また、保育施設は地域のコミュニティの場としての重要な役割も担ってきたことから、保護者や地域の意見を伺いながら、児童数や施設の老朽化、立地条件、将来展望などを勘案し、子ども達にとってより良い施設となるよう総合的に考えてまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	生涯学習課
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7－2 児童館、児童育成施設

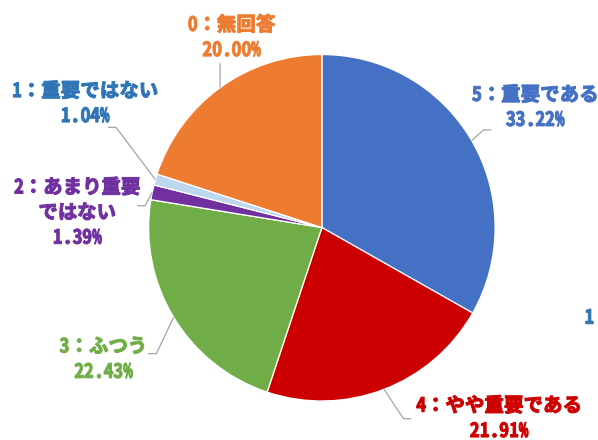
1. 施策の平均及び順位

7－2	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
児童館、 児童育成施設	3.99	4	4.06	4	－	0.07	3.26	7	3.26	9	↓	0.01
施設別平均	3.63		3.69			0.06	3.16		3.20			0.04

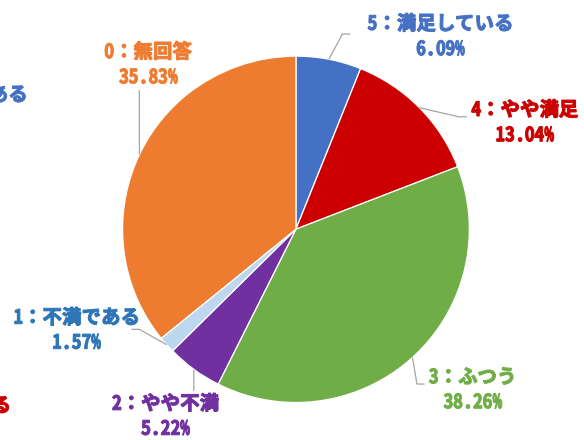
※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

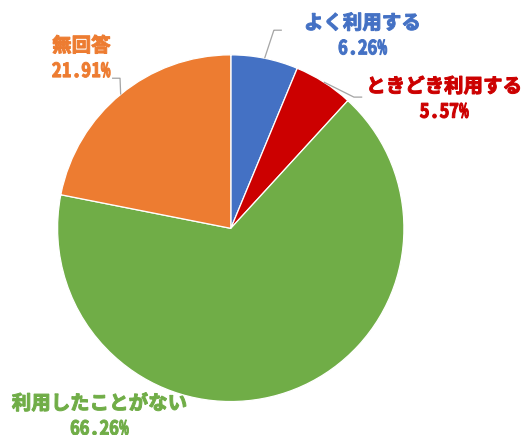
重要度（全年代）



満足度（全年代）



利用頻度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	12	5	3	0	0	3	3	6	3	1	0	10	2	4	15	2
20代	22	6	10	1	0	1	6	1	13	6	0	14	2	2	33	3
30代	18	9	10	1	2	4	6	2	12	5	2	17	8	3	29	4
40代	35	9	15	0	1	7	6	13	21	3	3	21	11	5	38	13
50代	31	22	28	2	1	8	5	9	44	7	1	26	3	10	63	16
60代	26	37	34	1	1	22	4	14	62	4	0	37	5	3	90	23
70代以上	41	35	27	3	1	56	3	27	59	4	3	67	2	3	109	49
不詳（無回答）	6	3	2	0	0	14	2	3	6	0	0	14	3	2	4	16

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

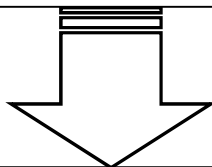
4. 分析

重要度・満足度ともに平均を上回る結果となっています。回答分布を見ると、重要度は約5割以上が「重要」と回答しています。満足度は平均よりも高いですが、順位は前回より下がって9位となっています。

回答分布での重要度では、「重要」「やや重要」との回答が5割を上回っていますが、満足度では「ふつう」との回答が一番多く、4割近くとなっています。

○課 題

- ・放課後児童クラブは現在19か所あり、17ある小学校区すべてで実施していますが、近年では利用者総数は横ばい状態となっています。高学年児童（小学4年生以上）の利用希望者が微増傾向にあり、一部学区では受け入れできているものの、全学区で受入できていないため高学年児童の受け皿の構築について、どのように対応していくかを検討する必要があります。
- ・支援を必要としている方へ情報提供する方法や受け入れ施設のハード面の環境整備を検討する必要があります。



○課題解決への取組み

- ・必要量と地域の実情を勘案した放課後等の居場所づくりの構築
- ・受入施設の環境整備（ハード面）
- ・各学区の入館者の事前把握、施設間の受け入れ時の連携

●総合分析

放課後児童クラブは、小学生の放課後の時間を安全及び健全に過ごせる場所を提供する施設として、就労する保護者にとってはとても大きな役割を果たしています。

放課後児童クラブの利用は、小学1年生から6年生までを対象としており、市内の児童数は年々減少しているものの、一部の放課後児童クラブでは待機児童が発生しています。

今後は、関係機関との連携や支援員の確保に努めるなど待機児童の解消を図るとともに、老朽化が進む施設を適正に管理し、児童の安全を確保してまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	子ども課
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7－2 児童館、児童育成施設

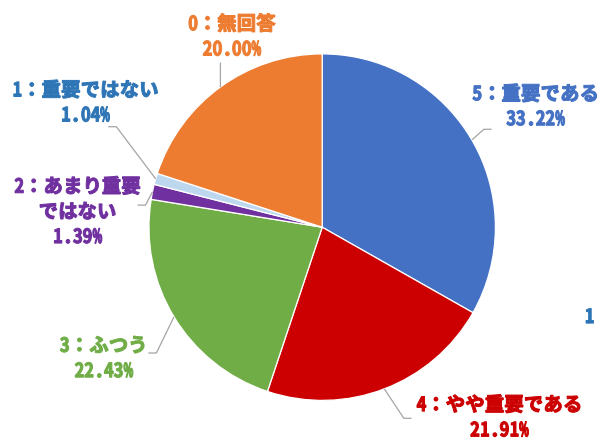
1. 施策の平均及び順位

7－2	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
児童館、 児童育成施設	3.99	4	4.06	4	－	0.07	3.26	7	3.26	9	↓	0.01
施設別平均	3.63		3.69			0.06	3.16		3.20			0.04

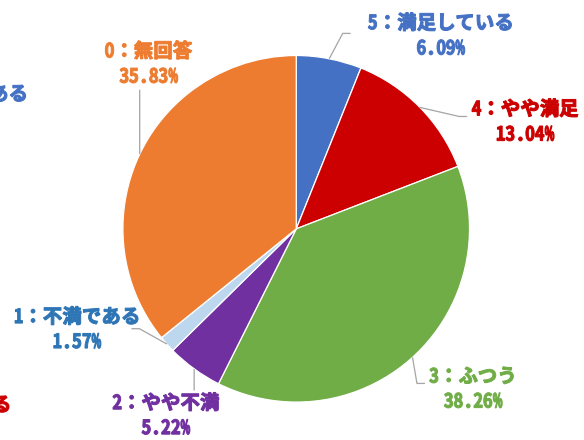
※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

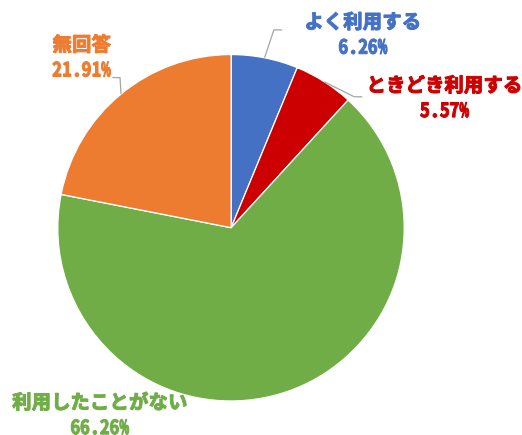
重要度（全年代）



満足度（全年代）



利用頻度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	12	5	3	0	0	3	3	6	3	1	0	10	2	4	15	2
20代	22	6	10	1	0	1	6	1	13	6	0	14	2	2	33	3
30代	18	9	10	1	2	4	6	2	12	5	2	17	8	3	29	4
40代	35	9	15	0	1	7	6	13	21	3	3	21	11	5	38	13
50代	31	22	28	2	1	8	5	9	44	7	1	26	3	10	63	16
60代	26	37	34	1	1	22	4	14	62	4	0	37	5	3	90	23
70代以上	41	35	27	3	1	56	3	27	59	4	3	67	2	3	109	49
不詳（無回答）	6	3	2	0	0	14	2	3	6	0	0	14	3	2	4	16

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

重要度は平均を上回っており、順位も前回同様の4位で、ほぼ横ばいとなつています。

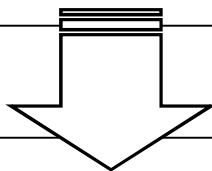
年代別では、小学生の子を持つと思われる30代から50代で「重要である」が最も多く、そのほかの世代においても重要視されていることが示されています。

満足度については、平均を上回っているものの、全体の順位は7位から9位へ下がっています。これは「やや満足」「ふつう」が減少し、「やや不満」の割合が上昇したことによるものと思われます。

また、無回答が増えたことも併せて考えていく必要があると考えます。

○課 題

- ・児童館の役割は、その地域の児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることです。併せて、子育て家庭の支援を行い、地域活動組織の育成にも寄与し、それをもって、地域全体で児童の健全育成を図るものです。
- ・市中心部で発生している放課後児童クラブの待機児童の解消を図りつつ、学校や家庭と連携を取りながら、保護者の就労を支えていく必要があります。



○課題解決への取組み

- ・必要量と地域の実情を勘案した放課後等の居場所づくりの構築
- ・老朽化が進む施設の安全対策
- ・小学生の遊び場を求める声が多くあることから、放課後児童クラブ事業以外の自由来館の増につながる既存事業の拡充の検討

●総合分析

「児童館、児童育成施設」は、子育てと就労を両立させるために重要であることから、非常に関心の高い分野であり、特に、小学生が放課後の時間を安全に、そして健全に過ごすことができる場所を提供するという大事な役割を担っています。

市では、「児童館、児童育成施設」をその地区のコミュニティの一つとして、学校、家庭、地域との連携を促し、地域全体で児童を守り、育てる活動を展開してまいります。

少子化が進む中でも放課後児童クラブへの需要が大きく減ることは考えにくいことから、老朽化が進む施設を適正に管理し、引き続き児童の安全を確保してまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	福祉課
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7－3 社会福祉施設

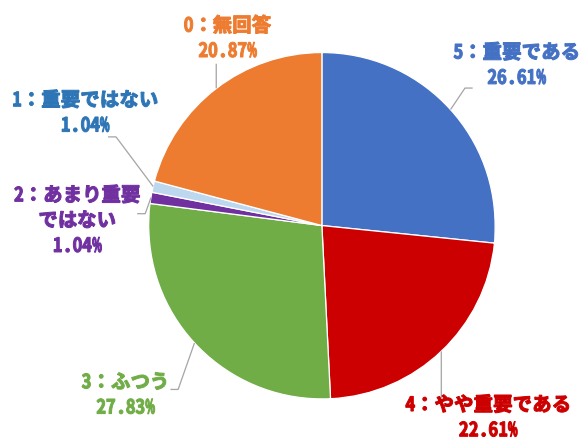
1. 施策の平均及び順位

7－3	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
社会福祉施設	3.89	8	3.92	8	—	0.03	3.11	18	3.17	16	↑	0.06
施設別平均	3.63		3.69			0.06	3.16		3.20			0.04

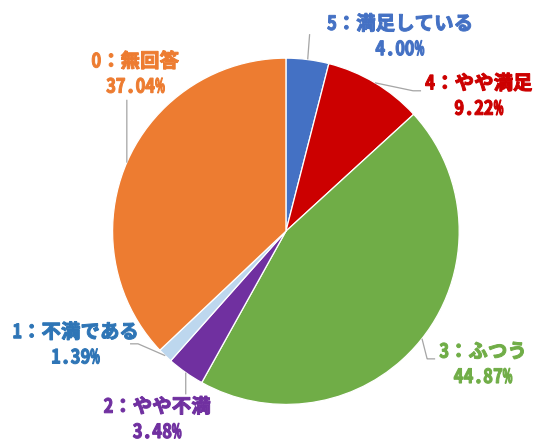
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

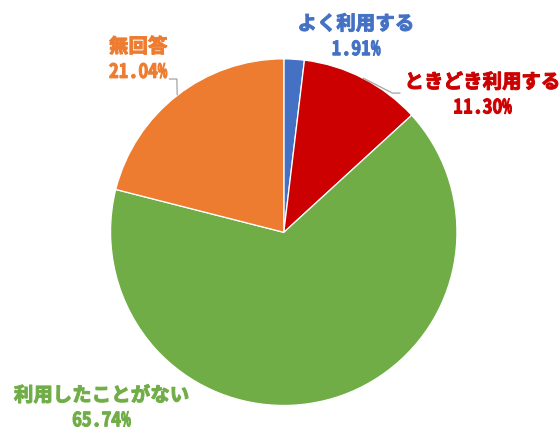
重要度（全年代）



満足度（全年代）



利用頻度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	12	5	4	0	0	2	5	2	4	2	0	10	1	4	17	1
20代	15	12	12	0	0	1	4	1	20	1	0	14	0	5	32	3
30代	18	6	13	0	3	4	1	1	18	4	3	17	2	6	32	4
40代	21	15	16	2	1	12	4	6	22	4	1	30	1	9	48	9
50代	24	23	35	1	0	9	1	7	54	4	1	25	1	8	68	15
60代	23	31	42	1	1	23	3	9	69	2	0	38	2	13	81	25
70代以上	36	35	34	2	1	55	4	24	65	2	3	65	3	16	96	48
不詳（無回答）	4	3	4	0	0	14	1	3	6	1	0	14	1	4	4	16

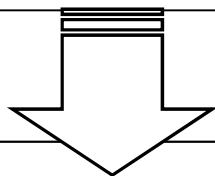
利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

重要度は前回と同じ順位で平均を上回っていますが、満足度は施設別平均を下回る結果となっています。重要度の回答分布では「重要である」「やや重要である」が半数であり、「無回答」は20%になっています。満足度の回答分布では「ふつう」が半数を占めていて、「無回答」が37%に上がっています。利用頻度は、「利用したことがない」66%、「無回答」21%と大半を占めており、障がいのあるかたなど利用目的が限定されることもあり、普段利用する機会がないことで重要度は高いが、満足度につながらない結果になっています。

○課 題

市総合福祉センター内には、障害福祉分野の「基幹相談支援センター」「地域活動支援センター」「障害者就業・生活支援センター」があるほか、「大館市社会福祉協議会事務所」「地域包括支援センターかつら（福祉まるごと相談室）」や、教育委員会所管の不登校児童・生徒を対象とした「大館おとり教室」が入所しています。駐車スペースが狭く、来客用駐車場の台数確保が課題です。施設機能の維持と、市民が利用しやすい環境づくりに取り組み、さらなる機能向上を図りながら、より多くの市民のかたに会議研修等で施設を利用していただくよう、周知に取り組む必要があります。



○課題解決への取り組み

障がいのあるかたなどの居場所として支援を推進するとともに、障害福祉の相談支援窓口として、また市民が幅広く利用できる施設として周知を図っていく。

●総合分析

障がいのあるなしに関わらず、ともに生きる地域共生社会の実現に向け、市民が利用できる施設としての取り組みをおこなっていきます。公共施設等総合管理計画に基づき、適宜機能維持に努めるほか、関係機関と連携しながら利便性の向上を図っていきます。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	長寿課
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7－4 高齢者福祉施設

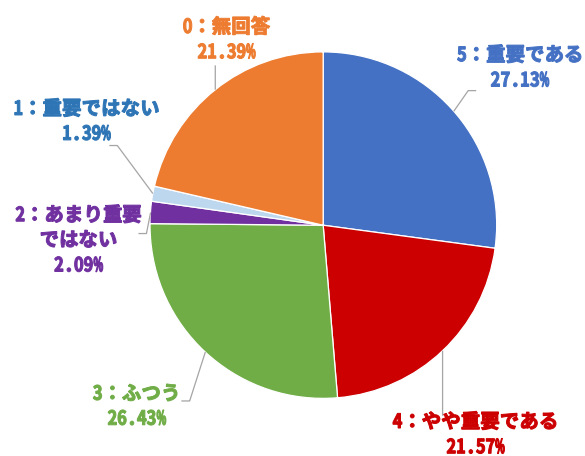
1. 施策の平均及び順位

7－4	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
高齢者福祉施設	3.88	9	3.90	9	－	0.02	3.23	12	3.15	18	↓	-0.08
施設別平均	3.63		3.69			0.06	3.16		3.20			0.04

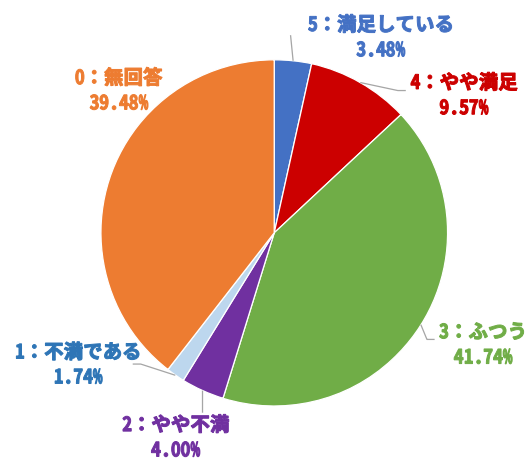
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

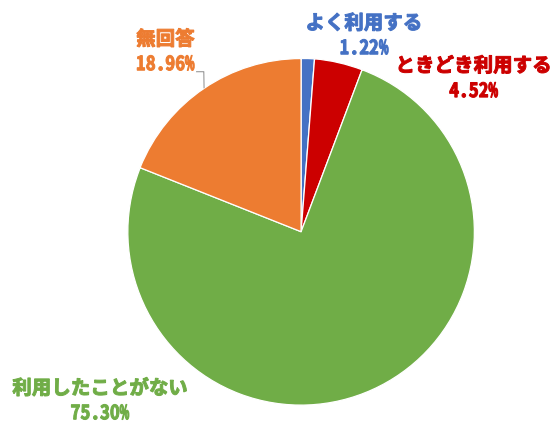
重要度（全年代）



満足度（全年代）



利用頻度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	10	6	5	0	0	2	2	2	3	2	0	14	0	1	21	1
20代	18	12	8	1	0	1	5	4	16	3	0	12	0	2	35	3
30代	14	6	12	2	4	6	1	1	16	3	3	20	0	0	42	2
40代	20	17	16	3	1	10	3	3	25	2	2	32	0	1	58	8
50代	29	18	31	2	1	11	1	8	47	5	2	29	1	3	74	14
60代	28	25	44	1	1	22	2	17	60	3	0	39	3	6	89	23
70代以上	33	37	32	3	1	57	5	18	67	5	3	65	2	12	106	43
不詳（無回答）	4	3	4	0	0	14	1	2	6	0	0	16	1	1	8	15

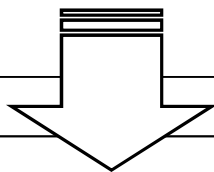
利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

重要度は前回と同じ順位で平均を上回っており、回答分布でも「重要である」「やや重要である」が半数近くを占め、高齢者福祉施設の重要性を認識されています。しかし、満足度は前回から順位を下げ平均を下回る結果となっています。満足度の回答分布では、前回に比べ「満足」「やや満足」の割合が低くなり、「ふつう」の割合がと高い結果となっており、高齢者福祉施設の満足度が不足していると考えられます。

○課 題

- ・「高齢者が孤独にならないように、地域の交流できる場所やイベントづくりにこれからも期待」、「65歳以上に運動をしてもらえる機会を増やすための支援が必要」という意見があり、満足度を高めるためにはこれらの意見に対応した取組が必要と考えられます。
- ・これまでも、指定管理者との連携により、施設機能の維持と市民が利用しやすい環境づくりに取り組んでいますが、今後は「介護予防を行う場」「多世代交流の場」としてのさらなる機能向上を図りながら、より多くのかたに施設を利用いただくため、その周知に取り組む必要があります。



○課題解決への取組み

在宅福祉を進めるために必要な介護通所施設は存続し機能維持に努めるほか、将来的な大規模改修や改築を見据えて、民営への転換が有効とされる施設は事業継続できる民間等への譲渡を検討し、代替え施策の導入により福祉サービスの低下が軽微と認められる老朽化が著しい施設については、解体処分も視野に入れながら、市民への十分な周知に努めてまいります。また、地域における住民主体の地域住民の通いの場等の居場所づくりへの支援を推進するとともに、「介護予防や生きがい健康づくりの場」「多世代交流の場」として参加しやすい環境づくりと、さらなる施設利用に向けて周知を図ってまいります。

●総合分析

高齢化率が年々上昇する中で、介護予防や生きがい健康づくりとしての高齢者福祉施設の設置運営は重要であり、今後も既存施設の機能維持、代替え施策の導入により福祉サービスを継続していくことが必要であると分析されます。

今回の結果を踏まえて、第9期介護保険事業計画・高齢者福祉計画に掲げる「高齢者が生きがいと尊厳をもち、安心して暮らす地域社会づくり（ひとりぼっちにさせない地域支え合い）」を基本理念に、すべての高齢者が住み慣れた地域で生きがいと尊厳をもって暮らせるよう、高齢者福祉施設を拠点とした介護予防や生きがいづくり、地域における見守りや支え合い、医療・介護などの多様な職種の連携による地域包括ケアシステムの構築に向けた施策を展開していくとともに、関係団体・関係各課と連携を一層強化してまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	長寿課
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7－5 高齢者介護施設

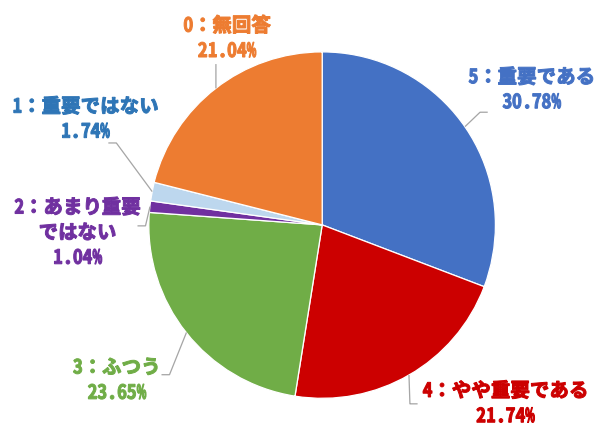
1. 施策の平均及び順位

7－5	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
高齢者介護施設	3.99	5	4.00	5	－	0.01	3.25	9	3.18	13	↓	-0.06
施設別平均	3.63		3.69			0.06	3.16		3.20			0.04

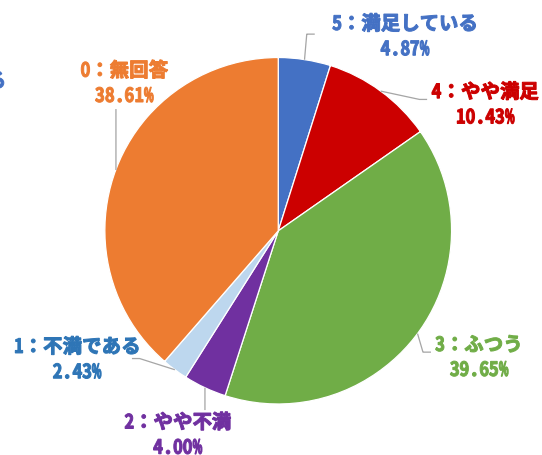
※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

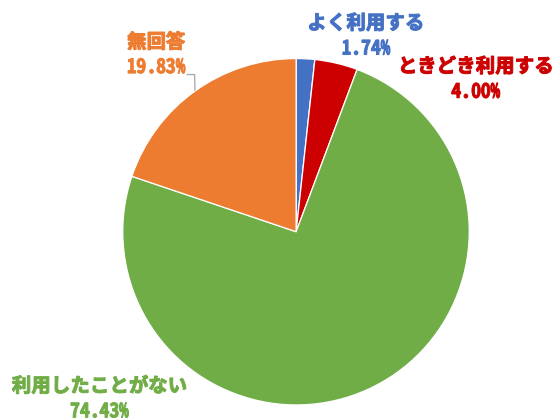
重要度（全年代）



満足度（全年代）



利用頻度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	13	3	5	0	0	2	2	2	4	1	0	14	0	1	21	1
20代	17	12	8	1	0	2	5	3	16	4	0	12	0	3	34	3
30代	15	8	11	0	4	6	1	3	15	2	3	20	1	0	40	3
40代	25	15	14	2	2	9	5	5	23	2	3	29	0	3	55	9
50代	33	14	32	1	1	11	4	7	47	3	2	29	2	1	74	15
60代	29	34	35	0	1	22	1	18	57	6	0	39	3	7	87	24
70代以上	40	37	27	2	2	55	7	22	60	5	6	63	4	7	109	43
不詳（無回答）	5	2	4	0	0	14	3	0	6	0	0	16	0	1	8	16

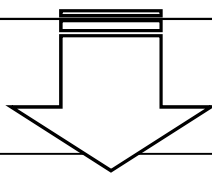
利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

重要度は前回と同じ順位で平均を上回っており、回答分布でも「重要である」「やや重要である」が過半数を占め、高齢者介護施設の重要性を認識されています。しかし、満足度は前回から順位を下げ平均を下回る結果となっています。満足度の回答分布では、前回に比べ「満足」「やや満足」の割合が低くなり、「ふつう」「やや不満」「不満」の割合が約半数という結果となっており、これは、施設整備状況の周知不足に伴う介護サービスへの不安が、高齢者介護施設の満足度の低下につながっていると考えられます。

○課 題

「高齢者を安心して預けられる施設の充実を」との意見や「評価の高い施設の受け入れ体制を充実させて欲しい」との意見がありました。また「介護施設の職員不足問題は切実」との意見もあり、介護を必要とするかたが安心して適切な介護サービスが受けられるよう、持続的な介護サービス提供体制を担保するためには、施設運営を維持するための介護人材の確保や、長期的な視点に基づきバランスのとれた施設整備を進めていく必要があります。



○課題解決への取組み

- ・市ホームページを活用した介護施設の設置状況の情報発信
- ・地域包括支援センター等の関係機関を通じて相談者へ施設の設置状況の周知
- ・第9期介護保険事業計画による施設整備の推進
- ・第10期介護保険事業計画での施設整備の検討
- ・介護人材の確保と定着への取組

●総合分析

高齢化率の上昇に伴い、介護施設の需要はますます高まると予想されます。一方で、生産年齢人口の減少が見込まれるなか、必要な介護人材の確保が重要な課題となります。

また、施設整備については人口の将来推計と介護ニーズを適切に捉え、バランスよく進めていく必要があります。

第9期介護保険事業計画では、①自立支援、介護予防・重度化防止の推進、②介護給付対象サービスの充実・強化、③日常生活を支援する体制の整備を基本目標に据え、介護施設内でのケアだけでなく、すべての高齢者が住み慣れた地域で、生きがいと尊厳をもって暮らせるよう、介護予防や生きがいづくり、地域における見守りや支え合い、医療・介護などの多様な職種の連携による地域包括ケアシステムの構築に向けた施策を展開していくとともに、関係団体・関係各課と連携を一層強化してまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	健康課
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7－6 保健事業関連施設

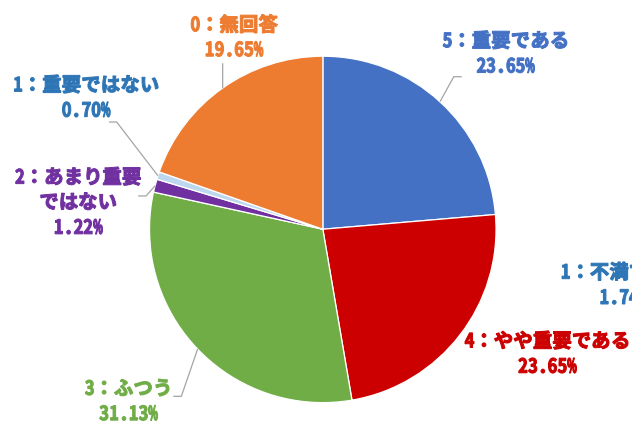
1. 施策の平均及び順位

7－6	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
保健事業 関連施設	3.84	10	3.85	11	↓	0.01	3.24	11	3.27	8	↑	0.03
施設別平均	3.63		3.69			0.06	3.16		3.20			0.04

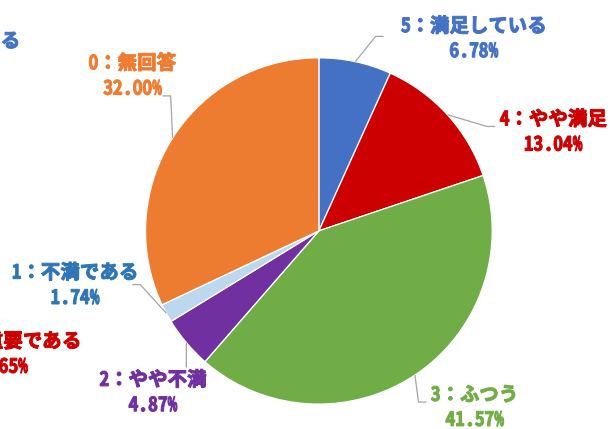
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

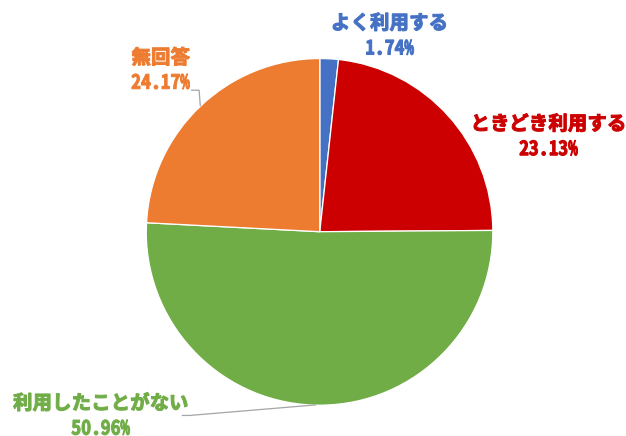
重要度（全年代）



満足度（全年代）



利用頻度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	12	5	4	0	0	2	4	3	3	1	0	12	0	3	19	1
20代	14	10	13	0	0	3	6	3	19	3	0	9	1	8	28	3
30代	15	10	15	1	1	2	3	6	12	4	5	14	1	16	23	4
40代	18	16	23	1	1	8	10	6	25	3	1	22	4	14	33	16
50代	20	23	38	2	0	9	2	6	49	8	0	27	1	18	55	18
60代	21	33	43	0	1	23	2	21	66	2	0	30	1	33	57	30
70代以上	33	35	39	3	1	52	9	29	59	6	4	56	2	33	77	51
不詳（無回答）	3	4	4	0	0	14	3	1	6	1	0	14	0	8	1	16

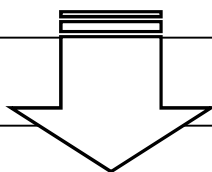
利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

重要度は前回の 10 位から 11 位となり、10 代から 30 代までは「重要である」と回答した割合が多いですが、40 代以上は「ふつう」との回答が多くなっています。満足度は前回の 11 位から 8 位と上がっておりますが、全ての年代で「ふつう」との回答が最も多く、全体では「無回答」が 3 分の 1 弱を占めていることが目立ちます。これは、利用頻度が全ての年代で「利用したことがない」が最も多く、評価できないためと思われます。

○課 題

保健センターでは乳幼児及び成人の健診や相談、健康づくり講座等を行っており、これまで多くのかたが利用したことがあると思われます。しかし、建築後 43 年を経過し、建物の老朽化が進行しているため、大幅な改修が必要となっています。



○課題解決への取組み

- ・施設の改修は年度計画を立てて行っていく。
- ・当面は施設内をこまめに点検して、小破修繕を行い、利用者の安全面に配慮していく。

●総合分析

保健センターは市民の健康づくりの拠点として、昭和 56 年に設置され、現在は多くのかたに利用いただいています。設置当時は、保健センター機能として十分でしたが、時代とともに老朽化が目立ってきており、設備や備品の更新が必要となっています。さらに利用者からは施設のバリアフリー化や駐車場の整備などが求められています。しかし、早急の大規模改修は難しいことから、今後も公共施設等総合管理計画に基づき、施設の適正な管理を行うとともに、ソフト面での工夫や事業の充実などを図り、利便性を高めていきます。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	総合病院
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7－7 医療関連施設

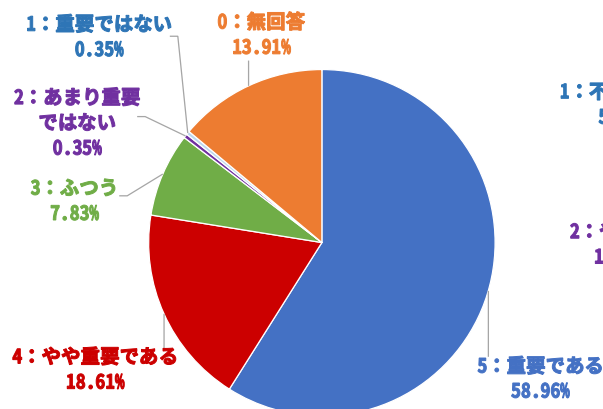
1. 施策の平均及び順位

7－7	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
医療関連施設	4.50	1	4.57	1	－	0.08	3.30	6	3.22	12	↓	-0.08
施設別平均	3.63		3.69			0.06	3.16		3.20			0.04

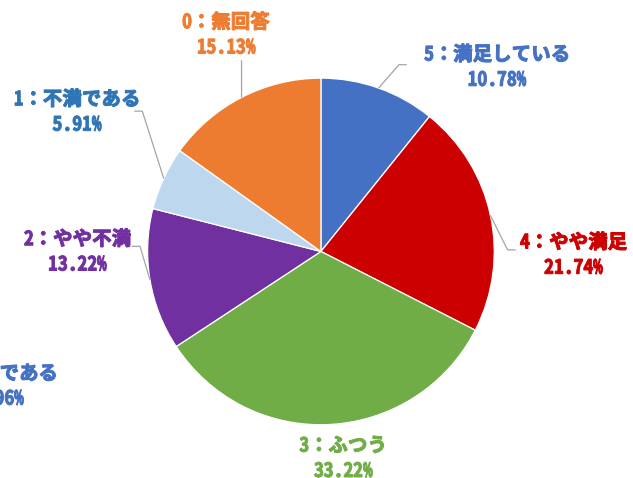
※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

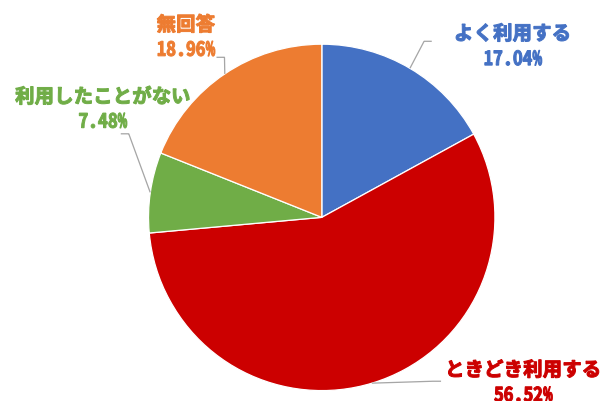
重要度（全年代）



満足度（全年代）



利用頻度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	17	3	2	0	0	1	6	7	4	3	1	2	3	16	3	1
20代	31	7	0	1	0	1	7	9	10	4	7	3	6	27	4	3
30代	34	6	3	0	0	1	5	8	12	13	5	1	9	33	0	2
40代	40	13	8	0	2	4	6	15	24	10	5	7	14	39	5	9
50代	54	23	8	0	0	7	5	14	41	16	9	7	14	59	6	13
60代	66	28	7	1	0	19	8	33	46	14	1	19	21	72	8	20
70代以上	90	26	14	0	0	33	24	33	51	15	6	34	28	72	17	46
不詳（無回答）	7	1	3	0	0	14	1	6	3	1	0	14	3	7	0	15

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

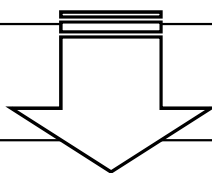
4. 分析

重要度は施設別平均を上回り、前回と同じく順位は1位でした。回答分布においても「重要である」が半数を超えています。

一方、満足度は回答分布では「不満」「やや不満」を併せて約3割を占めることから、改善要望が高いことが分かります。

○課 題

- ・病院機能の強化についてのご意見をいただいております。



○課題解決への取組み

- ・総合病院では、令和3年度に循環器内科医師の増員や医療従事者の待機体制を整え、心臓カテーテル手術を24時間体制で対応しています。また、令和6年4月に「地域救命救急センター」を整備し、救急処置室や感染症対応診察室の増設など、重篤な救急患者の受け入れや新興感染症の感染拡大に対応する医療機能の強化を図っています。
- ・地域に不足する在宅医療を担うため、総合病院内に訪問看護ステーションを開設し、訪問看護師が介護・福祉などの多職種と連携し、在宅医療を支えてまいります。

●総合分析

第18回大館市世論調査の結果につきましては、貴重なご意見として院内の各部署で共有し、今後も総合病院の理念である「患者さんが安心と満足を得られる医療」を展開し、扇田病院の理念である「地域の皆様の心の支えとなる病院」づくりに生かしてまいります。

施設設備の保全を行い、引き続き安心・安全な医療を提供できる病院づくりを進めてまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	市民課
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7－8 斎場関連施設

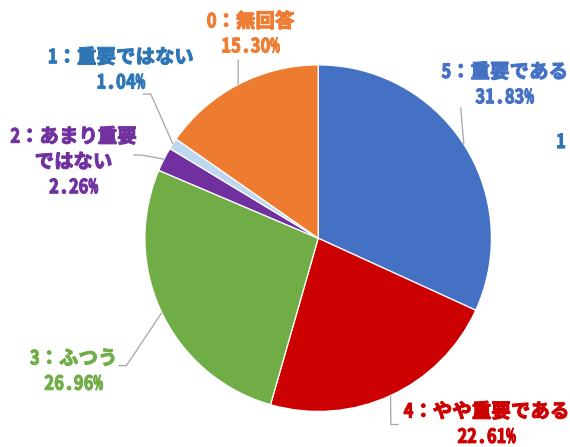
1. 施策の平均及び順位

7－8	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
斎場関連施設	3.96	6	3.97	6	－	0.01	3.49	3	3.43	4	↓	-0.06
施設別平均	3.63		3.69			0.06	3.16		3.20			0.04

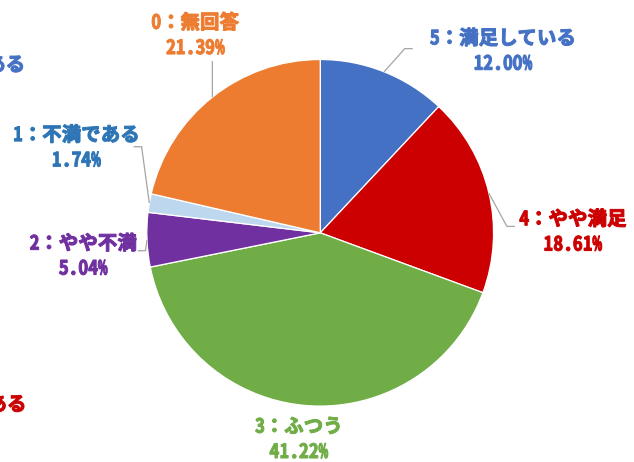
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

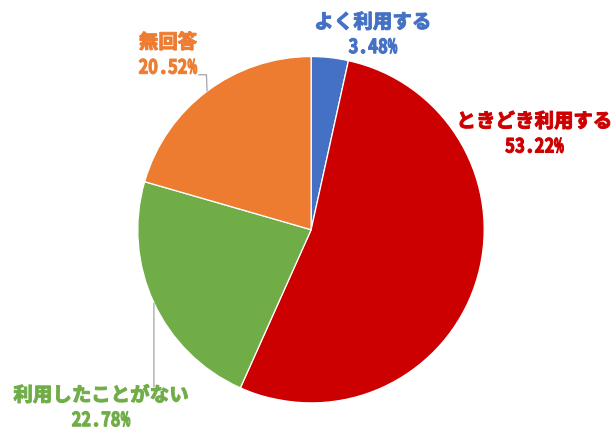
重要度（全年代）



満足度（全年代）



利用頻度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	9	6	6	0	0	2	8	3	4	1	0	7	0	12	10	1
20代	15	13	9	1	1	1	6	7	18	2	0	7	0	20	17	3
30代	12	6	19	4	1	2	3	5	16	6	3	11	1	25	14	4
40代	23	11	23	1	2	7	12	10	29	3	2	11	2	35	21	9
50代	31	28	22	2	1	8	9	16	46	5	3	13	4	52	23	13
60代	37	30	36	0	0	18	7	31	58	3	0	22	8	76	16	21
70代以上	52	34	35	5	1	36	22	31	62	9	2	37	5	79	28	51
不詳（無回答）	4	2	5	0	0	14	2	4	4	0	0	15	0	7	2	16

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

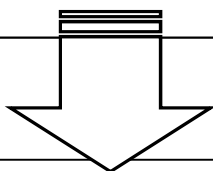
前回調査同様、重要度・満足度ともに平均を上回り、満足度の順位も4位という結果から、安定したサービスが提供できているものと分析されます。

○課 題

老朽化が進んだ現斎場において、安定した運営を継続していくため火葬炉設備や施設の使用状況を的確に把握し、適切な維持管理を行っていく必要があります。

新斎場については、令和7年度の完成を目指し、遺族・会葬者のプライバシーや安全の確保及び周辺環境に配慮した施設整備を着実に進める必要があります。

各墓地公園については、恒久的に使用していく施設であるため、計画的に維持管理を行っていく必要があります。



○課題解決への取組み

- ・ 現斎場は、火葬炉設備や施設の適切な維持管理を継続していく。
- ・ 新斎場の建設を円滑に進め、予定どおり令和7年度に完成させる。
- ・ 各墓地公園の維持管理を計画的に実施していく。

●総合分析

新斎場については、令和8年度供用開始に向けた整備を着実に実施し、プライバシーの確保やバリアフリーに配慮した、満足度の高い斎場を目指します。

なお、令和7年度までは現斎場で安定した運営を行う必要があるため、適切な維持管理に努めていきます。

各墓地公園については、限られた財源のなかで計画的な維持管理が必要とされるため、定期的な施設巡回を実施し、状況の把握に努めます。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	環境課
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7－9 衛生処理関連施設

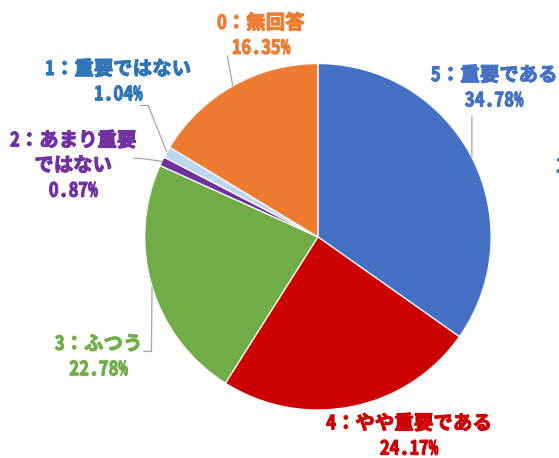
1. 施策の平均及び順位

7－9	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
衛生処理 関連施設	4.10	2	4.09	3	↓	-0.01	3.57	1	3.54	1	－	-0.03
施設別平均	3.63		3.69			0.06	3.16		3.20			0.04

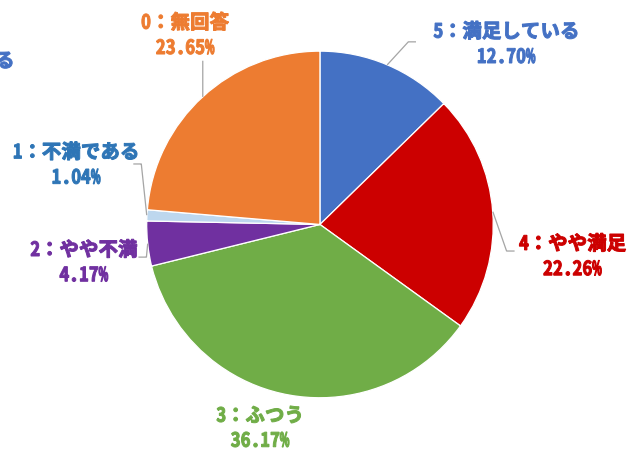
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

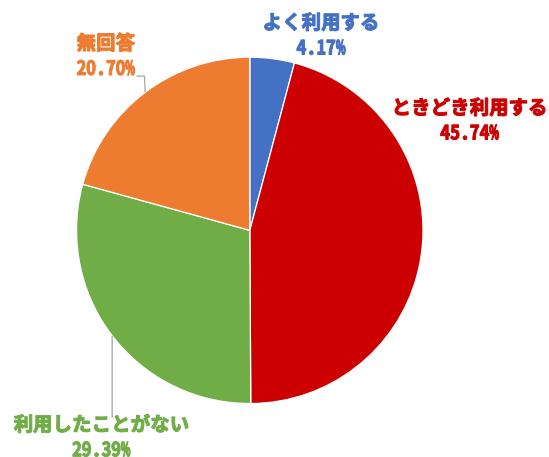
重要度（全年代）



満足度（全年代）



利用頻度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	12	5	4	0	0	2	7	4	2	1	0	9	0	7	15	1
20代	19	8	11	1	0	1	5	10	18	1	0	6	1	18	17	4
30代	16	8	17	0	1	2	10	7	15	2	1	9	4	24	13	3
40代	28	14	17	0	2	6	12	16	23	3	2	11	5	32	21	9
50代	38	24	19	2	1	8	10	18	43	6	1	14	4	48	25	15
60代	34	44	25	0	0	18	10	36	51	2	0	22	4	72	24	21
70代以上	50	34	32	2	2	43	17	34	51	9	2	50	5	57	51	50
不詳（無回答）	3	2	6	0	0	14	2	3	5	0	0	15	1	5	3	16

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

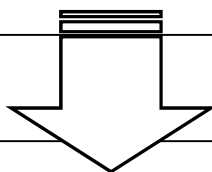
重要度・満足度ともに平均を上回る結果になっております。

重要度では「重要である」「やや重要である」を合わせると約6割であり、利用頻度についても「よく利用する」「ときどき利用」を合わせると約5割となることから、市民生活に密着した重要な施設であることが伺えます。

満足度では「公共施設の利活用」の中で1位となっております。

○課 題

- ・ 廃棄物処理施設は市民生活に必要不可欠であることから、継続的かつ安定的に処理するために、施設の老朽化対策と維持管理が課題となります。
- ・ ごみの資源化や急速に進む人口減少によるごみの減少下にあって、効率的で持続可能なごみの適正処理体制を確保する。



○課題解決への取組み

- ・ ごみ焼却施設はPFI方式により運営しており、令和13年度まで確実に運営するため基幹的設備改良工事を実施しています。今後、効率的で持続可能なごみの適正処理のため「秋田県ごみ処理広域化計画」に基づき近隣市町と協議を開始しています。
- ・ し尿処理場は令和6年度をもって廃止します。今後、市のし尿は川口地内に設置した「し尿受入施設」を介し公共下水道と共同処理し、汚泥を再資源化することとしています。
- ・ 粗大ごみ処理場及び最終処分場は稼働から44年が経過し老朽化していることから、計画的に大規模な修繕を実施しております。また、適正処理と不適物の搬入対策として、搬入ごみの監視を定期的 to 実施しております。

●総合分析

廃棄物処理施設は、市民生活に必要不可欠な施設です。そのため、継続的かつ安定的な事業の実施が要求されます。

このことから、様々な緊急事態への対応を考慮するとともに、計画的な修繕を実施し、市民生活に支障をきたすことがないよう適正な維持管理に努めてまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	商工課
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7－10 雇用対策関連施設

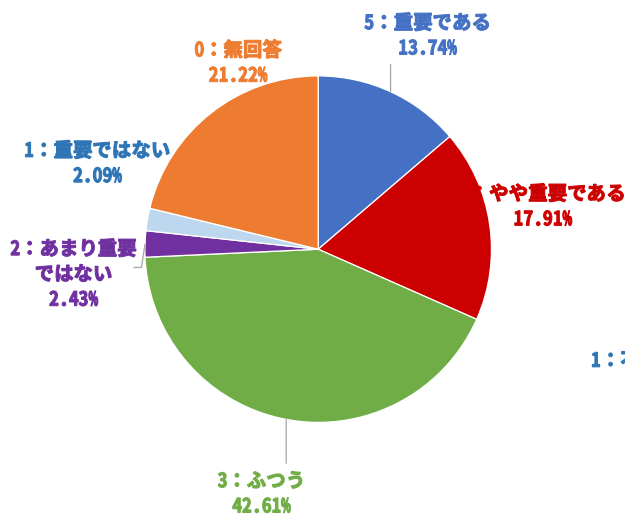
1. 施策の平均及び順位

7－10	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
雇用対策 関連施設	3.47	19	3.49	18	↑	0.02	3.02	22	2.99	22	－	-0.03
施設別平均	3.63		3.69			0.06	3.16		3.20			0.04

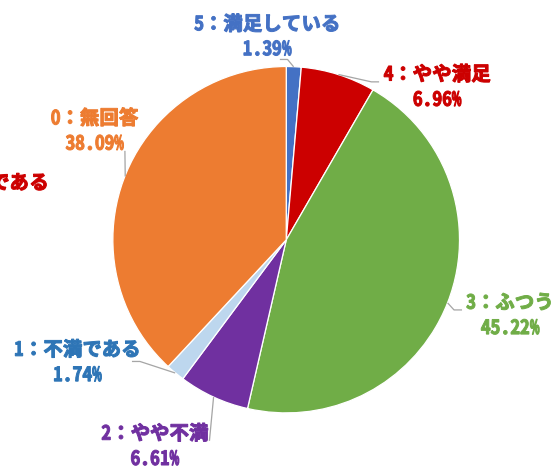
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

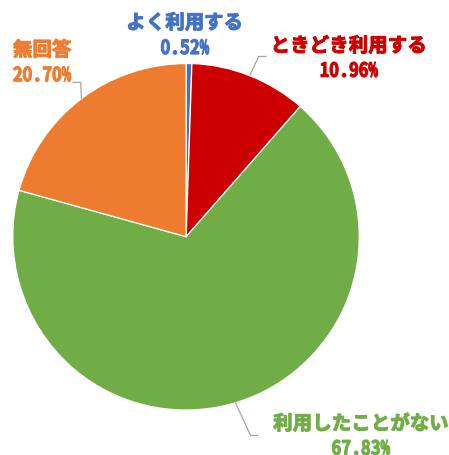
重要度（全年代）



満足度（全年代）



利用頻度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	9	4	8	0	0	2	3	2	2	1	0	15	0	0	22	1
20代	10	9	18	1	0	2	1	4	20	2	0	13	0	5	32	3
30代	7	7	18	1	5	6	0	2	17	0	6	19	0	5	34	5
40代	6	15	32	3	3	8	1	3	29	4	2	28	0	9	50	8
50代	13	20	50	1	0	8	0	4	52	10	1	25	0	14	64	14
60代	14	15	63	1	3	25	1	7	73	3	0	37	1	11	86	23
70代以上	19	30	50	7	1	56	2	16	60	17	1	67	2	16	96	49
不詳（無回答）	1	3	6	0	0	15	0	2	7	1	0	15	0	3	6	16

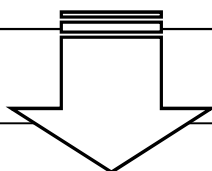
利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

重要度・満足度は、前回調査時とほぼ変わらず、施策全体の平均を下回る結果となり、年代別にみても「ふつう」、「無回答」が多くを占めています。また、利用頻度では、「利用したことがない」、「無回答」が9割近くを占めています。

○課 題

雇用対策関連施設（大館労働福祉会館、大館総合技能センターなど）へ寄せられた意見は特になく、施設の存在意義に関する認知度が低いと考えられます。



○課題解決への取組み

- ・ 市民への周知と啓発活動の充実
- ・ 施設を管理運営する指定管理者の資質の向上
- ・ 職業能力開発短期大学校や職業訓練協会など、関係機関との関係の強化

●総合分析

職業訓練や労働者の福利厚生に関する施設という特性上、利用者層が限定的であるため、前回と同じく重要度・満足度ともに施設別平均を下回る結果となっています。

しかし、深刻な人手不足の解消は喫緊の課題であることから、雇用対策関連施設が有する機能の充実と適切な施設運営に努めながら、施設の意義等についても周知を図ります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	都市計画課
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7－1 1 交流施設

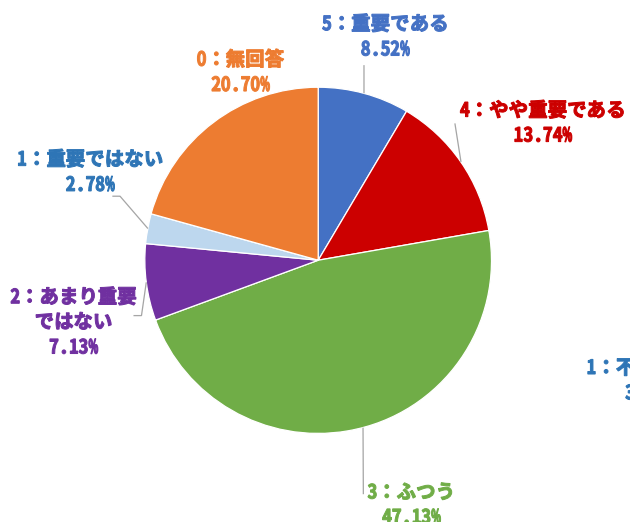
1. 施策の平均及び順位

7－1 1	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
交流施設	—	—	3.23	24	—	—	—	—	2.95	24	—	—
施設別平均	3.63		3.69			0.06	3.16		3.20			0.04

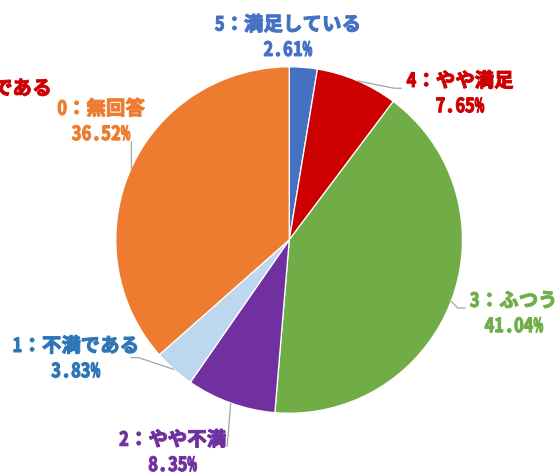
※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

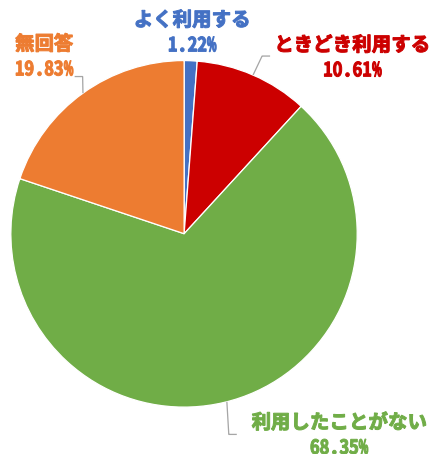
重要度（全年代）



満足度（全年代）



利用頻度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	7	5	8	1	0	2	5	3	6	0	0	9	2	5	15	1
20代	6	6	23	4	0	1	2	4	18	6	0	10	1	9	27	3
30代	5	3	25	2	5	4	0	1	16	3	6	18	0	6	34	4
40代	4	8	36	7	4	8	5	2	19	6	4	31	0	3	57	7
50代	7	16	48	9	3	9	0	5	43	11	8	25	1	10	67	14
60代	10	15	61	7	3	25	0	9	65	9	0	38	2	15	80	24
70代以上	9	25	64	9	1	55	3	17	65	11	4	63	1	10	107	45
不詳（無回答）	1	1	6	2	0	15	0	3	4	2	0	16	0	3	6	16

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

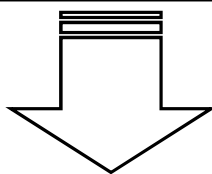
4. 分析

重要度・満足度ともに平均を下回る結果となっています。重要度では「重要である」「やや重要である」が約2割、満足度では「満足している」「やや満足している」が約1割に留まっており、十分な満足度を得られていない状況であると考えられます。また、利用頻度も「利用したことがない」が7割近くになっております。

○課 題

満足度における「無回答」の割合が高いことから、市民への周知が不十分であることが推察されます。

昨年度オープンした施設ですが、大館駅を利用しない市民の関心が低い施設と評価されたと分析されます。



○課題解決への取組み

市広報やホームページ、SNS等を活用した情報発信による周知及び利用促進に努めます。

●総合分析

大館駅合築駅舎内の施設という特性上、大館駅を利用しない市民にはなじみの薄い施設であると考えられます。

今後は、市広報紙やSNS等を活用した情報発信を通じて、施設の周知及び利用促進に取り組んでまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」分析結果報告書

分析担当課	観光課
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7－12 宿泊・温泉関連施設

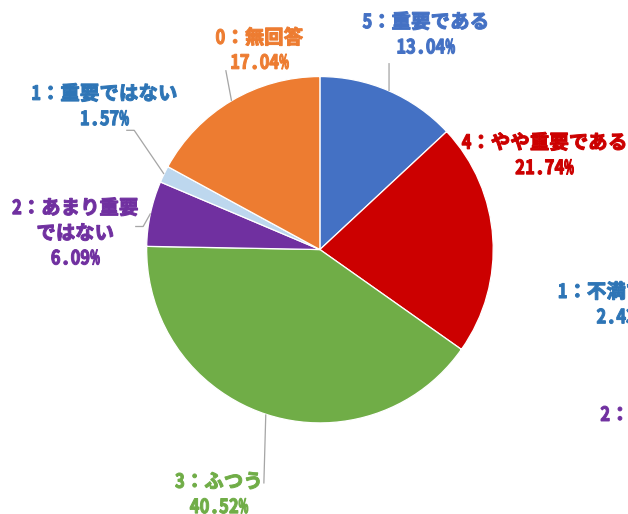
1. 施策の平均及び順位

7－12	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
宿泊・温泉 関連施設	3.48	18	3.47	20	↓	-0.01	3.20	13	3.23	10	↑	0.03
施設別平均	3.63		3.69			0.06	3.16		3.20			0.04

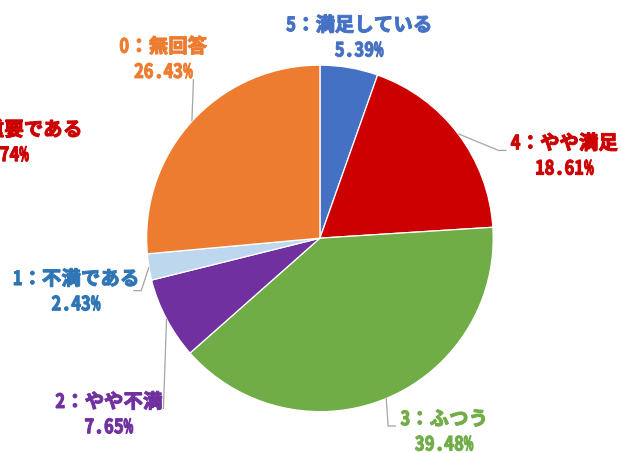
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

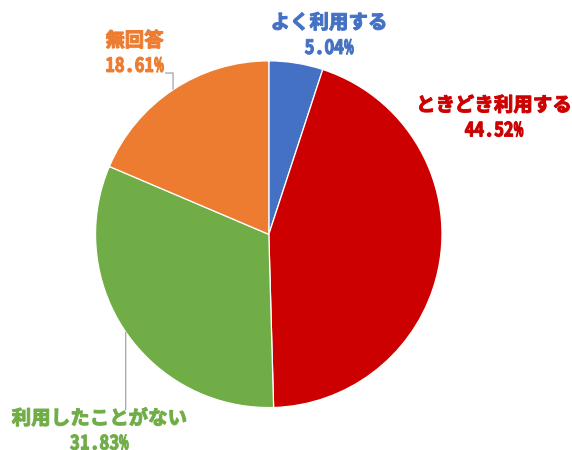
重要度（全年代）



満足度（全年代）



利用頻度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	8	3	10	0	0	2	8	5	2	1	0	7	0	12	10	1
20代	11	9	17	2	0	1	3	11	13	4	1	8	5	20	12	3
30代	9	8	15	8	2	2	4	9	11	6	2	12	3	20	18	3
40代	7	13	30	7	2	8	2	19	18	4	3	21	1	30	28	8
50代	13	19	43	5	3	9	1	15	47	7	3	19	4	40	36	12
60代	7	31	55	6	1	21	1	21	62	10	0	27	8	57	36	20
70代以上	18	38	59	7	1	40	10	23	71	11	5	43	8	68	43	44
不詳（無回答）	2	4	4	0	0	15	2	4	3	1	0	15	0	9	0	16

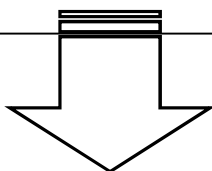
利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

重要度については、平均・前年度比較ともに下回ったものの、満足度については、平均・前年度比較ともに微増となっています。しかしながら、いずれも高評価については過半数以下のままであることから、施策の周知・認知不足と考えられます。

○課 題

- ・施設の魅力をさらにPRして誘客に努める。
- ・施設の老朽化が進み、維持管理に要する費用が高額となっている。



○課題解決への取組み

- ・市広報やホームページを利用した情報発信
- ・各施設でのイベント等の実施、積極的なPR
- ・市内が豊富な温泉地であることを各種イベント等でのPR
- ・関係団体と連携し、広報活動・啓発活動の継続
- ・計画的な施設改修

●総合分析

インバウンド対策も含め滞在型観光を今後より一層推進していく必要があることから、民間との協働による観光施策を更に推進していく必要があります。

豊富な温泉を有する大館市ならではのイベントの開催など、滞在型観光に繋げるような取り組みを行っていくことが重要と考えます。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	観光課
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7－13 観光、物産振興施設

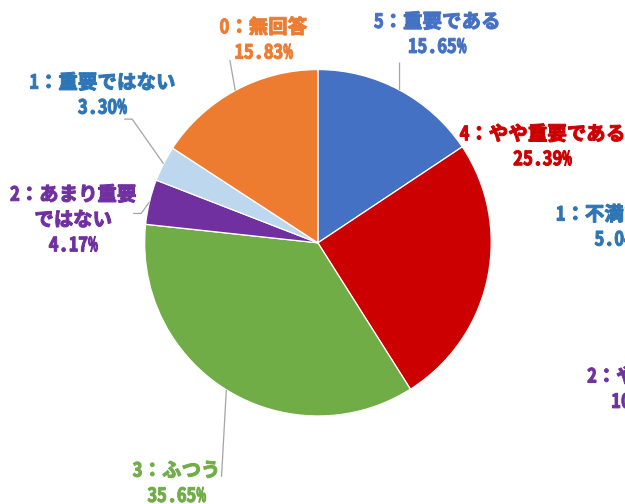
1. 施策の平均及び順位

7－13	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
観光・物産 振興施設	3.49	16	3.55	15	↑	0.05	3.03	21	3.08	21	－	0.05
施設別平均	3.63		3.69			0.06	3.16		3.20			0.04

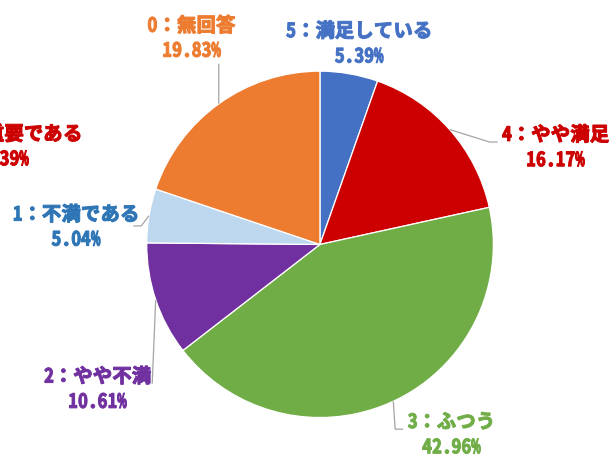
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

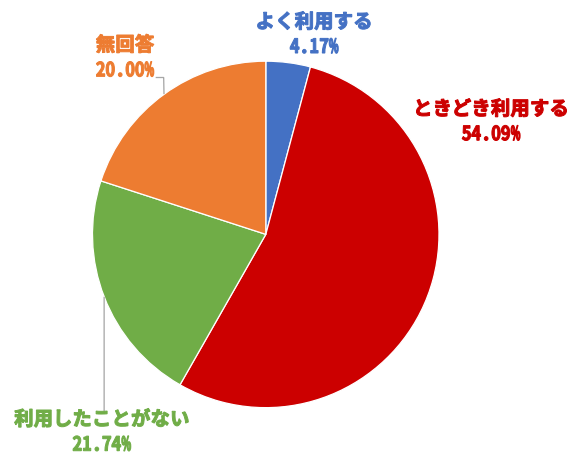
重要度（全年代）



満足度（全年代）



利用頻度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	7	7	8	0	0	1	5	4	8	1	0	5	0	15	7	1
20代	8	13	14	3	0	2	3	6	18	8	2	3	1	30	6	3
30代	9	14	11	2	7	1	2	10	11	7	9	5	3	25	12	4
40代	13	15	26	4	4	5	8	11	28	4	4	12	3	37	18	9
50代	15	21	37	5	5	9	1	16	45	11	6	13	5	52	23	12
60代	12	38	49	3	1	18	4	19	62	15	1	20	7	71	21	22
70代以上	23	34	57	6	2	41	8	23	70	14	6	42	3	75	37	48
不詳（無回答）	3	4	3	1	0	14	0	4	5	1	1	14	2	6	1	16

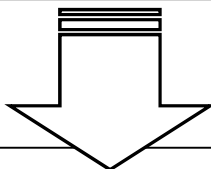
利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

重要度・満足度ともに平均を下回る結果となったものの、前年度比較においては微増しています。利用頻度を見ると「利用したことがない」が前年度比でわずかながら改善しているものの、更なる利用を促進するためには、満足度の向上を得られる施設となるような運営を検討していく必要があると考えられます。

○課 題

- ・重要度、満足度ともに平均より低い結果であったことから、魅力や期待を持てるような施設維持、運営に取り組んでいく必要性がある。



○課題解決への取組み

- ・魅力ある施設の維持・運営方法、複数の施設等を活用した周遊ルートを確立し情報発信に努める。
- ・利用者ニーズの把握

●総合分析

「観光交流施設秋田犬の里」や「石田ローズガーデン」などは、当市の観光施設として広く認知されてきており国内外から多くの観光客が訪れているものの、様々なニーズを把握しながら更に魅力ある施設に磨き上げていくことで、満足度の向上に繋がり、市民の利用拡大にも繋がるものと考えられるため、施設管理者との協議を重ねながら取り組んでいきます。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	都市計画課
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7－14 自然公園、公園施設

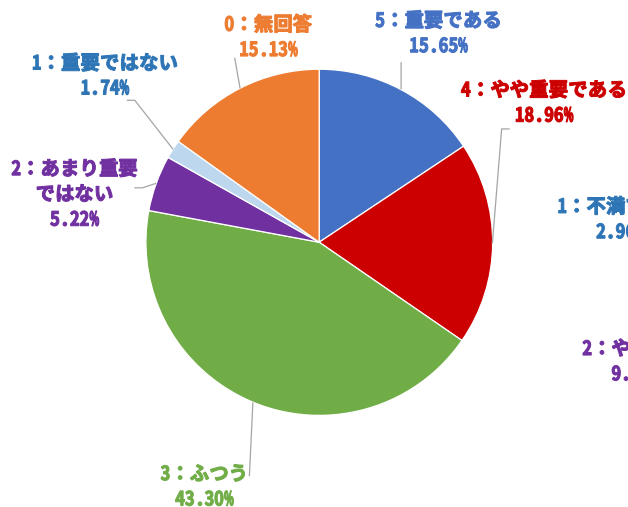
1. 施策の平均及び順位

7－14	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
自然公園、公園施設	3.54	14	3.49	19	↓	-0.05	3.12	17	3.12	20	↓	0.01
施設別平均	3.63		3.69			0.06	3.16		3.20			0.04

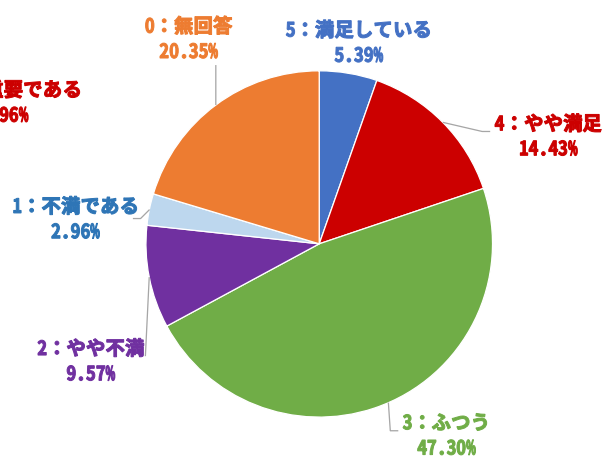
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

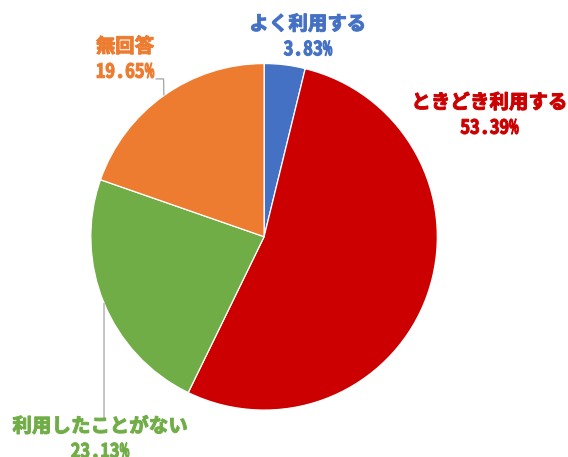
重要度（全年代）



満足度（全年代）



利用頻度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	8	3	10	0	0	2	5	5	9	0	0	4	0	16	6	1
20代	12	6	19	2	0	1	6	10	14	7	0	3	2	26	8	4
30代	11	9	16	2	3	3	4	9	14	3	5	9	3	24	14	3
40代	13	14	28	3	4	5	2	10	30	9	6	10	3	39	16	9
50代	14	13	48	7	2	8	3	11	52	8	3	15	1	53	26	12
60代	12	30	57	3	1	18	3	13	69	12	1	23	5	73	22	21
70代以上	18	32	65	12	0	36	7	21	79	15	2	39	6	71	39	47
不詳（無回答）	2	2	6	1	0	14	1	4	5	1	0	14	2	5	2	16

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

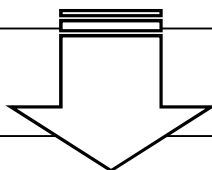
4. 分析

重要度・満足度ともに平均を下回る結果となっています。回答分布をみると、重要度では「重要である」または「やや重要である」が約4割を占め、満足度では、「ふつう」が約半数を占めております。施設に対して十分な満足度を得ていない状況であると考えられます。

○課 題

遊具の増設や公園の整備、公園施設の維持管理に関する意見をいただいています。その結果、施策の重要度、満足度ともに平均値以下になっていると分析されます。

老朽化した遊具については、「大館市公園遊具長寿命化計画」に基づき順次更新しております。また、公園施設の維持管理については、関係団体と連携し使用状況に合わせて清掃や草刈り等を実施しておりますが、頻度が少ないと感じられていることから、今後は実施時期、実施回数について検討する必要があります。



○課題解決への取組み

- ・「地域インフラ群再生戦略マネジメント」に基づく効率的な公園の維持管理
- ・公園、緑地の草刈りの継続
- ・環境美化団体に対する支援継続と団体数の増加

●総合分析

「地域インフラ群再生戦略マネジメント」に基づく、道路や下水道等の多分野と一体となった包括的な管理業務に取り組むことで、効率的な公園の維持管理に取り組んでまいります。

遊具の増設や公園の整備については、活用可能な補助事業の情報収集を行いながら実現可能性について検討してまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	中央公民館
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7－15 教養施設、コミュニティ関連施設

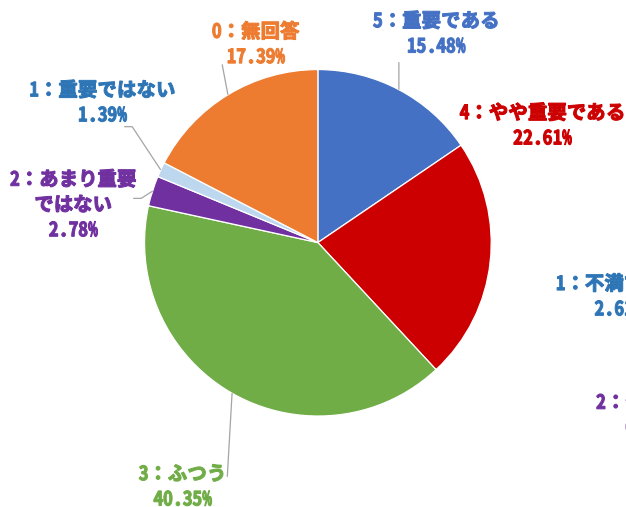
1. 施策の平均及び順位

7－15	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
教養施設、 コミュニティ関連施設	3.43	21	3.58	14	↑	0.16	3.20	14	3.18	14	－	-0.02
施設別平均	3.63		3.69			0.06	3.16		3.20			0.04

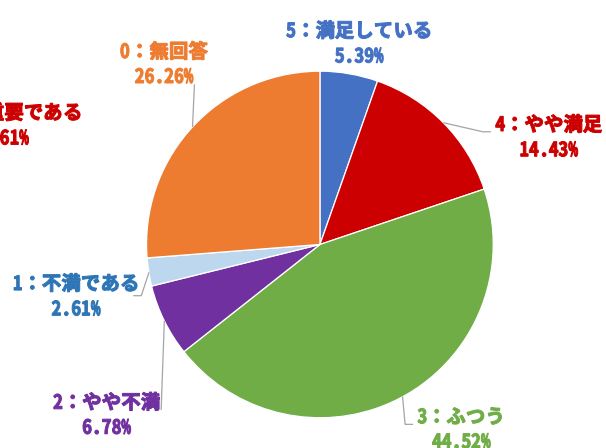
※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

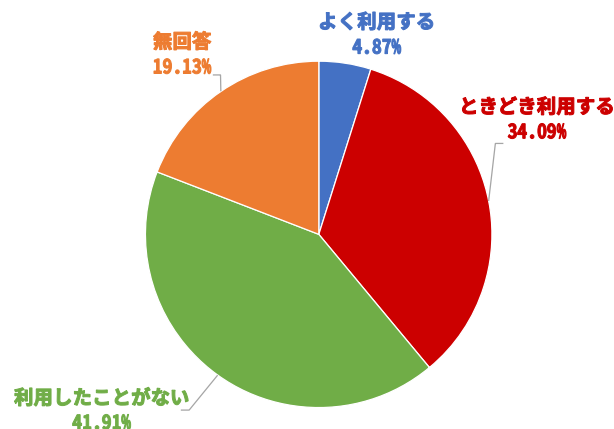
重要度（全年代）



満足度（全年代）



利用頻度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	8	7	6	0	0	2	6	5	7	0	0	5	1	12	9	1
20代	7	13	18	1	0	1	2	7	16	5	2	8	2	14	21	3
30代	8	14	15	2	2	3	3	7	15	2	4	13	4	16	21	3
40代	11	19	28	1	2	6	5	14	23	6	5	14	3	25	29	10
50代	13	18	44	7	2	8	2	9	51	10	3	17	1	37	43	11
60代	13	26	60	1	1	20	2	14	68	6	0	31	4	44	52	21
70代以上	27	32	54	3	1	46	10	25	70	9	1	48	12	45	61	45
不詳（無回答）	2	1	7	1	0	14	1	2	6	1	0	15	1	3	5	16

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

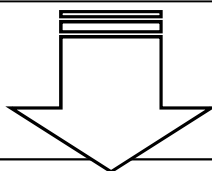
4. 分析

順位を見ると重要度は14位と前回の21位を上回り、満足度は前回と変わらず14位となりましたが、重要度、満足度ともに平均を下回る結果となっています。

回答分布を見ると重要度は「重要ではない・あまり重要ではない」が4.17%と前回から2.14ポイント減少し、「重要・やや重要」が38.09%と前回から4.56ポイント増加。満足度は「満足・やや満足」が前回から2.86ポイント減少し、「不満・やや不満」が0.78ポイント増加となっています。利用頻度は、ほぼ全年代が「利用したことがない」が「よく利用・ときどき利用」を上回っており、利用者数の低下が分析できます。

○課 題

- ・公民館等の生涯学習施設は、生涯学習や地域活動においては無料で使用でき、地域コミュニティ活動やサークル活動などの拠点として、様々な用途に利用いただいております。しかしながら、利用者の高齢化や利用頻度ならびに満足度の低下などの問題があります。
- ・所管施設は30施設を超えますが、年々老朽化していることから、利用者に安全安心に使用していただくためには、施設の計画的な修繕が必要です。



○課題解決への取組み

- ・市広報や公民館報を活用し、幅広い年齢層に公民館の利用促進に向けた情報の発信
- ・幅広い年齢層に対応した各種主催事業の開催及び内容の充実
- ・市公共施設等総合管理計画に基づいた施設・設備の計画的な改修・修繕

●総合分析

市の教養施設・コミュニティ関連施設は、地域のコミュニティ活動や生涯学習活動の場として、利用頻度や満足度の高い施設とはなっていないようですが、避難所としての機能もあることから、市民の皆さまにとって重要な施設であり、利用者のニーズに対応した施設運営が必要と考えております。

人口減少に伴う利用者の減少や、施設・設備の老朽化に伴う改修・修繕については、引き続きの課題となりますが、市公共施設等総合管理計画に基づき、限られた財源の中で優先順位を見極めながら機能維持に努め、利用者の皆さまが安心して継続的にご利用いただけるよう努めてまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	生涯学習課
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7－16 図書館

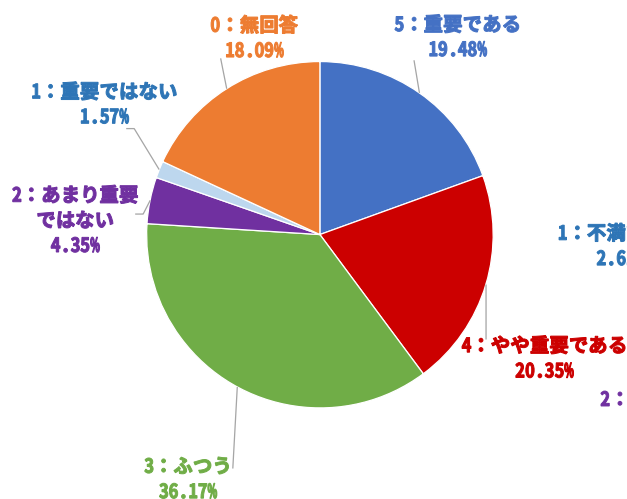
1. 施策の平均及び順位

7－16	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
図書館	3.63	13	3.63	13	—	-0.00	3.24	10	3.33	6	↑	0.08
施設別平均	3.63		3.69			0.06	3.16		3.20			0.04

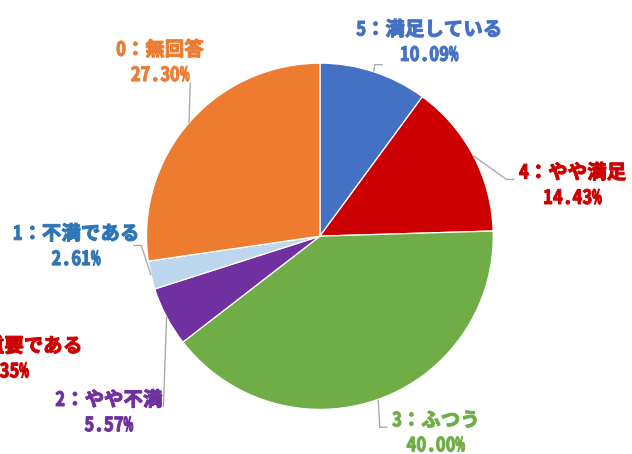
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

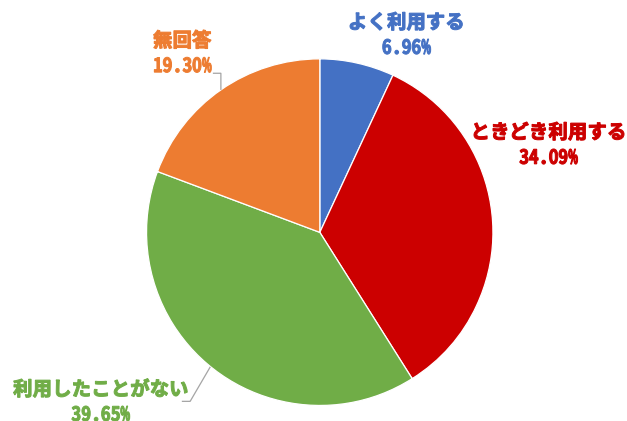
重要度（全年代）



満足度（全年代）



利用頻度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	8	6	6	1	0	2	9	3	4	1	0	6	3	10	9	1
20代	10	6	17	5	1	1	6	2	18	4	1	9	2	16	19	3
30代	7	7	17	4	5	4	4	7	16	1	4	12	3	16	22	3
40代	18	13	24	3	1	8	13	9	18	6	3	18	6	24	29	8
50代	14	17	46	7	0	8	3	12	51	4	4	18	4	37	41	10
60代	17	38	44	1	1	20	3	24	57	6	1	30	10	41	49	21
70代以上	34	28	50	4	1	46	18	24	60	10	2	49	9	49	56	49
不詳（無回答）	4	2	4	0	0	15	2	2	6	0	0	15	3	3	3	16

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

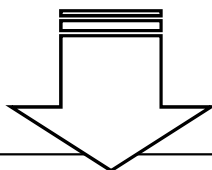
4. 分析

重要度はほぼ平均で順位は前回と変わらず、全 26 施設中 13 位となっています。満足度は前回は上回り 6 位となっています。

回答分布での重要度は、「重要である」「やや重要である」の回答が 39.83%、満足度では「満足している」「やや満足」が 24.52%と、どちらも 5 割を下回っています。しかし、今回の回答者の利用頻度を見ると、「利用したことがない」「無回答」合わせて 58.95%となっており、重要度や満足度が実際の利用者だけの数字ではないことも伺えます。

○課 題

- ・ 栗盛記念図書館の駐車場の増設、図書館の移転に関するご要望や、机と椅子の増設、開館時間の延長など、学生がより勉強しやすい環境を求める声があります。図書館に関連し、高校生が放課後に勉強できるよう公民館等の開放を求める意見もあったことから、地域の中で児童・生徒の居場所（勉強場所）の確保がニーズとしてあらわれています。



○課題解決への取組み

- ・ 利用者にとっての最適な環境づくりについて、施設管理者と協議しながら検討していきます。
- ・ 継続した図書購入を行うと共に、新着図書の情報や読み聞かせの事業などについて、積極的な情報発信に努めます。

●総合分析

市立図書館4館は、平成25年度に指定管理者制度を導入し、現在2期目の2年目となっています。この間、多目的室・ラウンジの増築や駐車場の整備、松下村塾（模築）の移設などを経て、より多くの市民が図書館を利用し、読書に親しむ環境づくりに取り組んできております。

今後も様々な講座やイベントを企画し、図書館後援会やボランティア団体と連携しながら魅力ある図書館を目指します。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	歴史文化課
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7－17 文化伝統関連施設

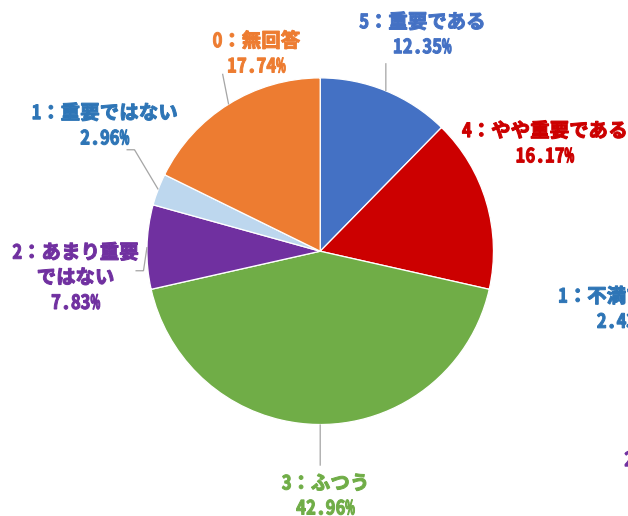
1. 施策の平均及び順位

7－17	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
文化伝統 関連施設	3.29	22	3.33	22	—	0.04	3.07	20	3.12	19	↑	0.05
施設別平均	3.63		3.69			0.06	3.16		3.20			0.04

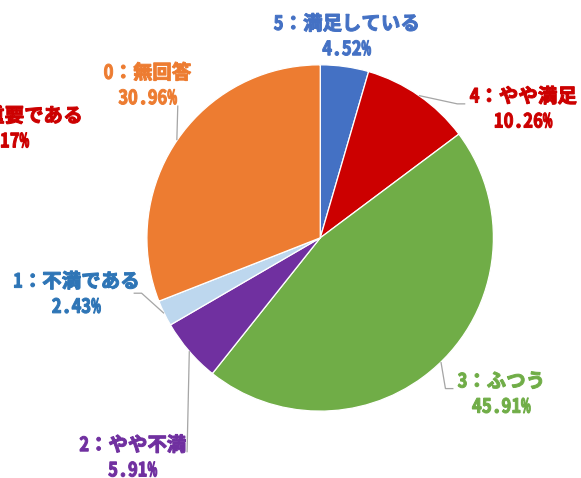
※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

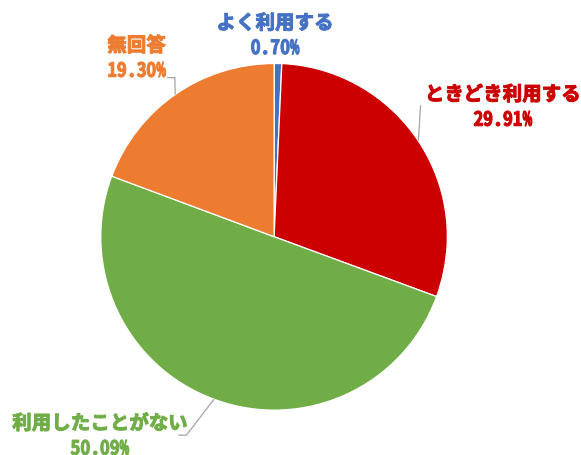
重要度（全年代）



満足度（全年代）



利用頻度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	5	7	8	1	0	2	4	6	2	1	0	10	0	8	14	1
20代	11	7	15	6	0	1	4	5	15	6	0	10	0	9	28	3
30代	2	7	16	8	7	4	1	2	18	2	5	16	2	11	27	4
40代	8	10	30	6	5	8	2	5	22	4	4	30	0	12	47	8
50代	13	11	50	8	2	8	3	8	57	3	2	19	1	28	51	12
60代	12	17	66	5	2	19	2	12	71	6	2	28	1	46	52	22
70代以上	19	31	57	10	1	45	9	21	73	10	1	49	0	54	64	45
不詳（無回答）	1	3	5	1	0	15	1	0	6	2	0	16	0	4	5	16

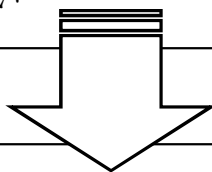
利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

重要度・満足度の平均値は10代で高い一方、30代・40代で低い傾向です。学校教育におけるふるさとキャリア教育（地域の宝を理解するための学習や校外学習など）、および大館郷土博物館主催の発明クラブやこども科学教室の開催により10代での評価に繋がっていると考えられるが、その親世代には魅力が届いていないと考える。親世代にいかに関心や魅力を届けるかについて検討する必要がある。

○課 題

- ・ 宣伝が足りない。
- ・ 場所が分からない、行ったことない



○課題解決への取組み

- ・ FBやX(Twitter)などSNSを通じた情報発信と共に、オールドメディアでの周知を強化する。
- ・ 郷土の自然・文化・歴史などへの関心を高めるために各種講座等を開催するなどしてアウトリーチ活動の強化を検討する。
- ・ 今まで実施してこなかった企画（謎解きなど）の開催を検討し、まずは足を運んでもらえる環境づくりを目指す。

●総合分析

「郷土博物館、鳥潟会館等の文化伝統関連施設を訪れたことがない」といった意見が少なからずあります。個々人の趣味・関心はそれぞれ違うが、何らかのきっかけで入館してみると満足していただけることが多いです。ソーシャルメディア・オールドメディアを積極的に活用するなどして教育普及活動や広報活動を地道に継続してまいります。10代の関心が高いことに明るさを感じます。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	スポーツ振興課
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7－18 体育館

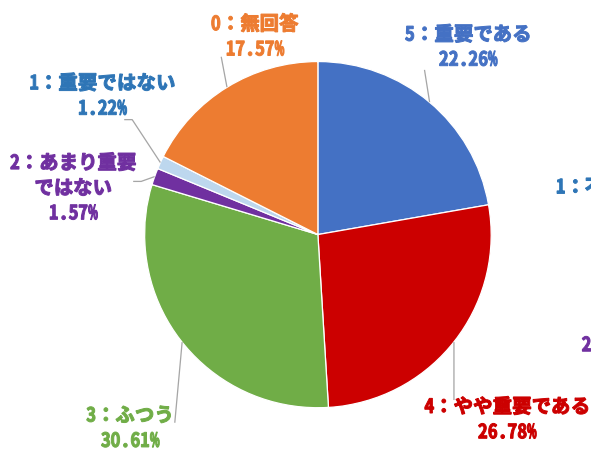
1. 施策の平均及び順位

7－18	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
体育館	3.76	12	3.82	12	—	0.06	3.42	4	3.45	3	↑	0.03
施設別平均	3.63		3.69			0.06	3.16		3.20			0.04

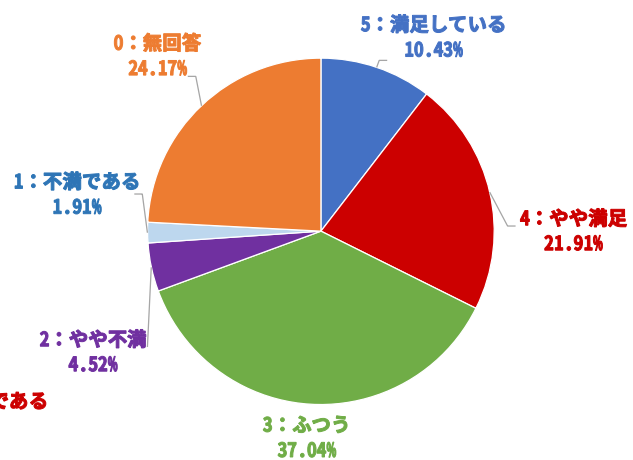
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

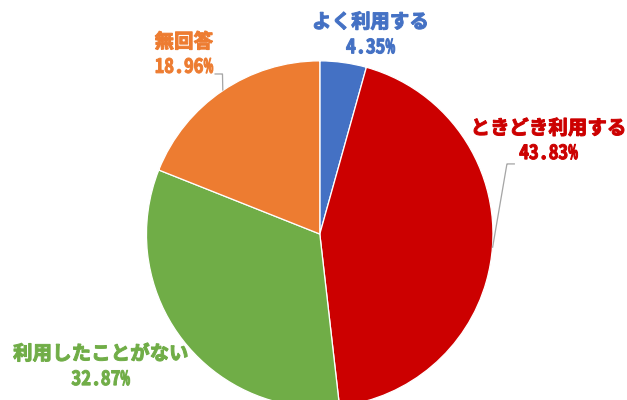
重要度（全年代）



満足度（全年代）



利用頻度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	11	6	5	0	0	1	11	7	1	1	0	3	2	15	5	1
20代	14	13	10	1	0	2	9	10	13	1	1	6	1	27	8	4
30代	13	14	13	3	0	1	8	8	16	5	2	5	4	27	9	4
40代	20	24	14	1	3	5	7	21	17	2	4	16	5	29	25	8
50代	21	28	32	1	1	9	4	22	42	8	0	16	4	50	27	11
60代	18	28	51	1	1	22	2	27	61	1	1	29	3	51	47	20
70代以上	29	35	48	2	2	47	17	26	62	7	2	49	3	49	66	45
不詳（無回答）	2	6	3	0	0	14	2	5	1	1	1	15	3	4	2	16

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

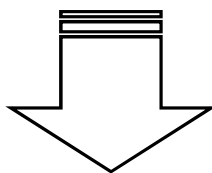
4. 分析

利用頻度は48%が「よく利用する」「ときどき利用する」との回答ですが、前回の55%から7ポイント低下しています。満足度の順位は全26施設中3位と、市の施設の中でも高い点数ですが、回答分布から見ると「満足」「やや満足」は32%で、利用頻度と比較すると低く、利用者が必ずしも満足していないことがうかがえ、改善の余地があると言えます。

年代ごとに見ると、10代から50代は「重要である」「やや重要である」を選択した人が全体の半数を超えるが、60代以降は「ふつう」「無回答」の割合が高まり、年代が上がるほど関心が低下する傾向が見られ、利用頻度も減少する傾向にあります。

○課 題

- ・体育館の予約が取りにくい、取り合いになるといった意見があり、公民館等他の施設でも同様の意見が出ていることから、屋内施設全般で予約が取りにくい状況です。
- ・特定の施設への意見ではないが、オンライン予約の対応について意見がありました。
- ・老朽化した施設の修繕・改修を望む声がありました。
- ・利用料金が高いという意見がありました。



○課題解決への取組み

- ・予約や利用申込の利便性を向上させるため、オンライン予約システムの導入を検討する。
- ・大館市スポーツ施設長寿命化計画に基づいた、計画的な修繕を行う。
- ・利用料の使途を明確にして、応益負担について利用者の理解を得る。

●総合分析

花岡体育館が閉館したことにより利用可能施設が減り、予約がとりにくくなっている傾向が見られます。予約システムの導入等も含め、利用手続きの利便性向上等を検討してまいります。

また、施設の老朽化が進んでいるため、計画的な修繕改修を実施するとともに、利用者に応益負担への理解得て、持続可能な施設運営を目指してまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	スポーツ振興課
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7－19 武道館

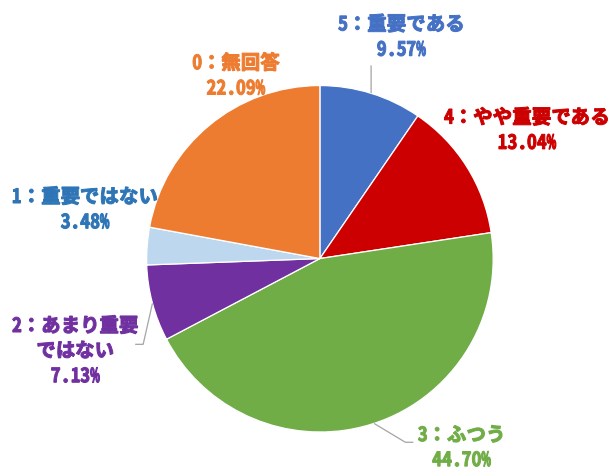
1. 施策の平均及び順位

7－19	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
武道館	3.22	23	3.23	23	－	0.02	2.93	23	2.95	23	－	0.02
施設別平均	3.63		3.69			0.06	3.16		3.20			0.04

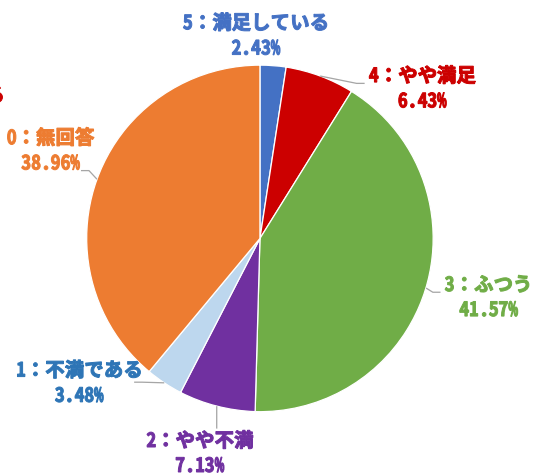
※小数点以下第 3 位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

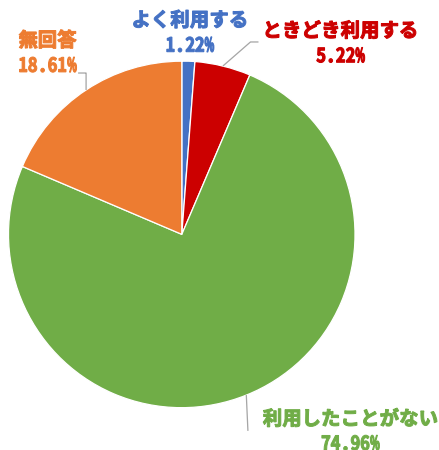
重要度（全年代）



満足度（全年代）



利用頻度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	5	9	7	0	0	2	3	5	2	1	0	12	0	2	20	1
20代	6	5	21	6	1	1	0	4	17	6	0	13	1	4	32	3
30代	7	5	17	5	6	4	1	3	14	1	6	19	1	4	36	3
40代	7	11	34	5	3	7	2	6	25	3	3	28	2	5	52	8
50代	7	11	48	7	6	13	0	3	50	6	7	26	1	10	72	9
60代	9	12	65	6	2	27	1	6	67	6	1	40	1	2	94	24
70代以上	13	21	58	12	2	57	6	10	58	17	3	69	0	3	117	43
不詳（無回答）	1	1	7	0	0	16	1	0	6	1	0	17	1	0	8	16

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

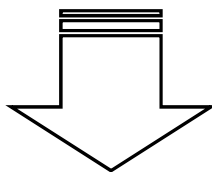
4. 分析

「重要である」「やや重要である」は22%、「よく利用する」「ときどき利用する」は6%で、前回からの変動は僅少です。しかし「満足している」「やや満足」は約8%で、前回と比較し2ポイント下がっています。

利用頻度については「利用したことがない」が74%で半数以上を占めるほか、いずれの項目でも「無回答」が前回よりも増加しています。

○課 題

- ・花岡総合スポーツ公園内への意見として、市の中心から遠いという意見があり、本施設も同様に見られていると思われます。
- ・施設の満足度が低下しています。
- ・施設の存在が市民に認知されていないため、利用に繋がっていないと考えられます。



○課題解決への取組み

- ・SNS等を活用し、施設の情報発信を行う。
- ・体操やヨガ等、武道以外の活用方法の周知。
- ・モビリティサービス「mobi」等、様々な交通手段と連携し、施設へアクセスしやすくなる方法を検討する。

●総合分析

旧武道館の解体後、市有スポーツ施設の武道場は花岡総合スポーツ公園のみとなっています。利用率は前回から横ばいで、平成 29 年のオープン以降、利用者の変動がない状態です。他方で、満足度は低下しており、市中心部からのアクセスの悪さが影響していると思われます。交通手段が少ないため、モビリティサービス「mobi」等の新たな交通サービスとの連携を検討し、アクセスのしやすさを模索していきます。

近年は体操やヨガ等、武道以外での利用者も見られることから、多様な利用方法を周知する等、利用率向上に向けた情報発信を行ってまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	スポーツ振興課
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7－20 野球場

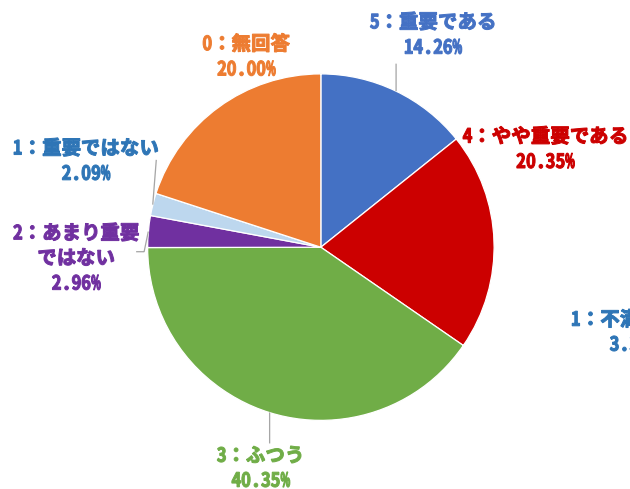
1. 施策の平均及び順位

7－20	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
野球場	3.48	17	3.52	17	—	0.04	3.09	19	3.17	17	↑	0.08
施設別平均	3.63		3.69			0.06	3.16		3.20			0.04

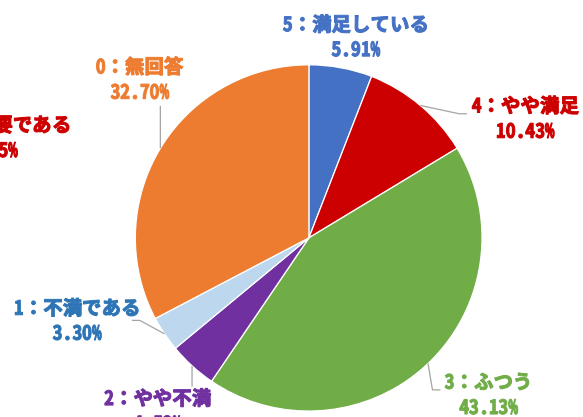
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

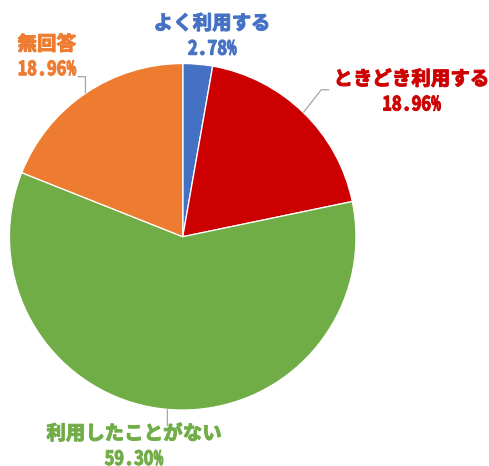
重要度（全年代）



満足度（全年代）



利用頻度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	7	8	7	0	0	1	5	5	3	1	0	9	0	9	13	1
20代	9	9	18	2	1	1	3	3	20	4	0	10	1	9	27	3
30代	10	4	20	2	5	3	3	2	17	2	6	14	2	8	30	4
40代	14	17	25	1	3	7	9	9	22	2	2	23	5	14	40	8
50代	10	25	43	4	1	9	1	8	51	6	7	19	1	25	55	11
60代	12	23	60	2	0	24	1	13	69	3	2	33	3	20	74	24
70代以上	18	27	55	6	2	55	10	17	63	7	2	64	2	21	98	42
不詳（無回答）	2	4	4	0	0	15	2	3	3	1	0	16	2	3	4	16

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

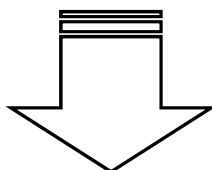
4. 分析

重要度、満足度ともに平均を下回りましたが、満足度の順位は前回調査時よりも上昇しています。「重要である」「やや重要」が34%であるのに対し、「満足している」「やや満足」は16%であり、重要度を認識されつつも満足度は低い状況です。また、満足度の「無回答」は32%で、前回から12ポイント増加し、関心が低下していると言えます。

「よく利用する」「ときどき利用する」が21%であり、前回22%から概ね変動が無く、以前から利用している人が引き続き利用している傾向がうかがえます。

○課 題

- ・有料野球場の利用料金の値下げや割引制度の導入について意見がありました。
- ・屋外施設全般についてですが、開場期間を降雪状況に応じて臨機応変に対応してほしいとの声がありました。
- ・ナイター設備の導入について意見がありました。



○課題解決への取組み

- ・利用料の使途を明確にして、応益負担について利用者の理解を得る。
- ・開場期間の変更、延長に柔軟に対応していく。
- ・大館市スポーツ施設長寿命化計画に基づき、設備改修を検討する。

●総合分析

市施設中での満足度の順位は前回から上昇しており、開場期間や開場時間の延長を希望する意見があることから、需要があることが見受けられます。気象条件を見ながら、開場期間を臨機応変に検討してまいります。設備面についても、スポーツ施設長寿命化計画を基に、稼働率等も考慮し、計画的な施設改修を行います。

また、それに合わせ持続可能な施設運営に向け、利用者から応益負担についての理解を得られるよう、努めてまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	スポーツ振興課
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7-21 競技場・グラウンド

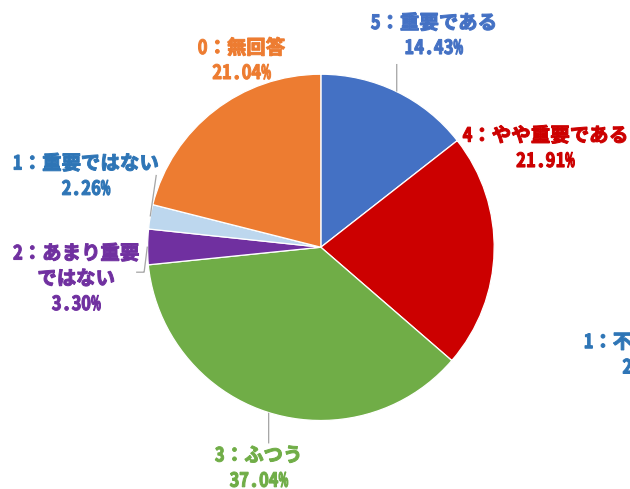
1. 施策の平均及び順位

7-21	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
競技場・グラウンド	3.50	15	3.54	16	↓	0.04	3.14	15	3.17	15	—	0.03
施設別平均	3.63		3.69			0.06	3.16		3.20			0.04

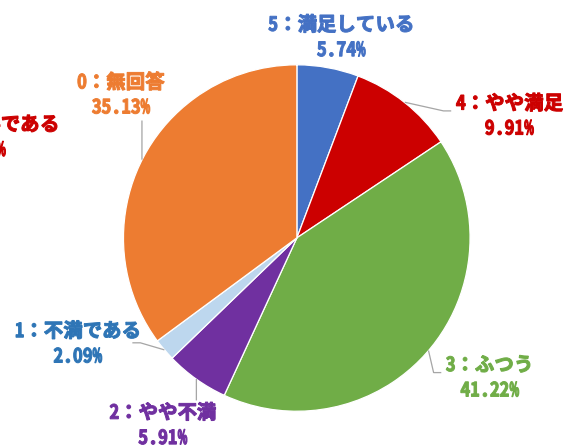
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

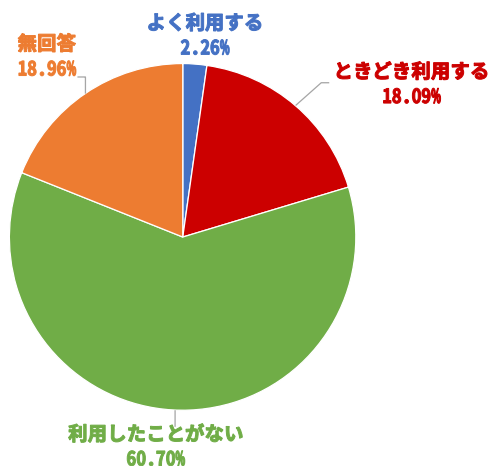
重要度（全年代）



満足度（全年代）



利用頻度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	8	7	5	1	0	2	8	5	0	1	0	9	1	8	13	1
20代	9	7	19	3	1	1	4	3	17	3	0	13	1	9	27	3
30代	9	11	18	0	3	3	3	3	16	5	2	15	2	11	26	5
40代	10	18	26	1	4	8	3	8	26	1	5	24	2	13	44	8
50代	13	25	37	5	2	10	2	7	49	9	2	23	0	22	59	11
60代	12	27	55	2	1	24	1	15	63	5	1	36	2	27	71	21
70代以上	21	28	47	7	2	58	11	14	61	9	2	66	4	10	105	44
不詳（無回答）	1	3	6	0	0	15	1	2	5	1	0	16	1	4	4	16

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

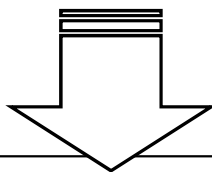
4. 分析

重要度及び満足度は、平均を下回ったものの、順位は前回とほぼ変わらないものとなっています。「重要である」「やや重要である」が36%と重要な施設であると考えられているものの、満足度は低く「満足している」「やや満足」が15%となっています。

また、利用者は各年代に広く分布されているものの、「利用したことがない」が60%と多数を占める結果となっています。

○課 題

- ・満足度、利用率の増加に向けた施策の展開
- ・「天候（積雪等）の状況によって、開場期間を臨機応変に変えてほしい」という声があることから、利用者数の増加に結びつくものとなりますが、年度をまたぐことや管理経費などでの課題の解消に努めていく必要があります。



○課題解決への取組み

- ・市民ニーズに応じた施設整備
- ・広報、ホームページなどでの情報発信の強化
- ・管理業務等の見直しの検討

●総合分析

重要度はかなり認識されているものの、満足度や利用率の向上を図るため、市民のニーズに応じた施設の整備や管理等についての的確な方策を進めてまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	スポーツ振興課
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7-22 テニスコート

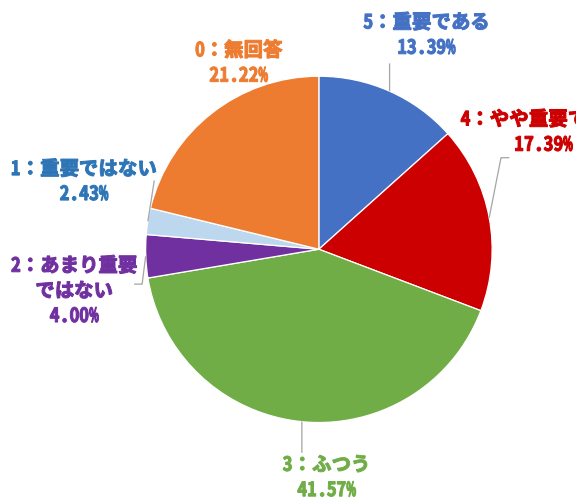
1. 施策の平均及び順位

7-22	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
テニスコート	3.44	20	3.45	21	↓	0.01	3.12	16	3.23	11	↑	0.11
施設別平均	3.63		3.69			0.06	3.16		3.20			0.04

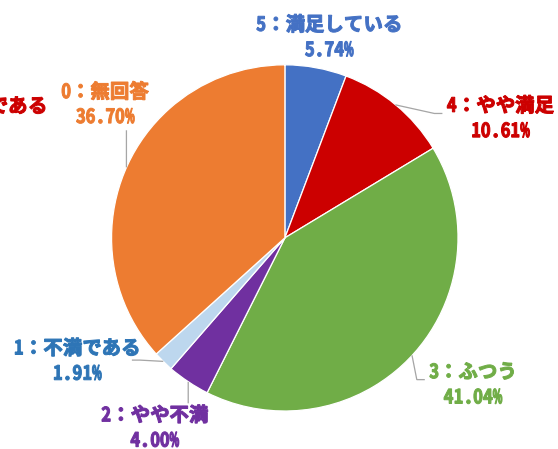
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

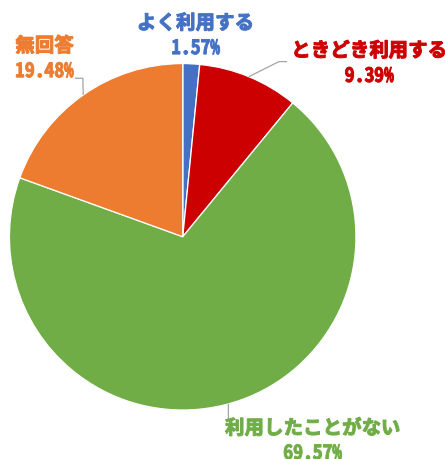
重要度（全年代）



満足度（全年代）



利用頻度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	8	8	4	1	0	2	5	6	2	0	0	10	2	4	16	1
20代	10	5	21	2	1	1	6	2	18	2	0	12	2	8	27	3
30代	10	4	22	1	4	3	4	3	16	1	3	17	1	5	32	6
40代	10	13	33	1	3	7	4	11	18	1	3	30	1	8	50	8
50代	11	18	44	5	3	11	1	10	48	7	2	24	1	15	66	10
60代	11	20	61	4	1	24	2	14	66	3	0	36	1	9	89	22
70代以上	16	29	49	8	2	59	10	13	64	7	3	66	0	3	114	46
不詳（無回答）	1	3	5	1	0	15	1	2	4	2	0	16	1	2	6	16

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

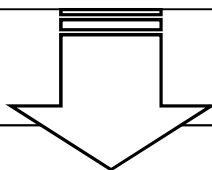
4. 分析

重要度の「重要である」「やや重要である」は30%であり、点数も平均を下回り、順位も前回のほぼ横ばいとなっています。満足度は「満足している」「やや満足」が16%で、平均及び順位ともに前回から上昇しています。満足度の上昇は、高館テニスコートの人工芝全面張替えや照明灯の交換など利用者が身近に感じる設備の改修を行ったことによるものと思われます。

利用頻度については「利用したことがない」が69%となっており、部活動やテニス愛好家など定期利用に偏っているものではないかと考えられます。

○課 題

- ・満足度が高いのに比べ、利用頻度が低いことから、使用していた人には満足していたが、利用者の増加に繋がっていません。
- ・高館テニスコート以外のテニスコート施設の改修



○課題解決への取組み

- ・広報、ホームページなどでの情報発信の強化
- ・イベントやテニス教室の開催による新規利用者の獲得
- ・施設に応じた設備改修の計画的な実施

●総合分析

大規模改修を実施した高館テニスコートに限らず、長根山・二ツ山・田代・扇田ふれあい公園の各テニスコートの利用状況を検証し、計画的な設備改修を実施していくとともに、利用者の拡大を図るための様々な方策を講じてまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	スポーツ振興課
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7－23 スキー場

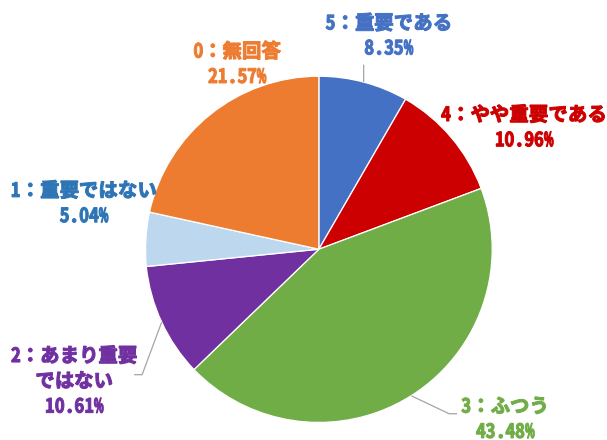
1. 施策の平均及び順位

7－23	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
スキー場	3.07	25	3.09	26	↓	0.02	2.76	25	2.81	26	↓	0.05
施設別平均	3.63		3.69			0.06	3.16		3.20			0.04

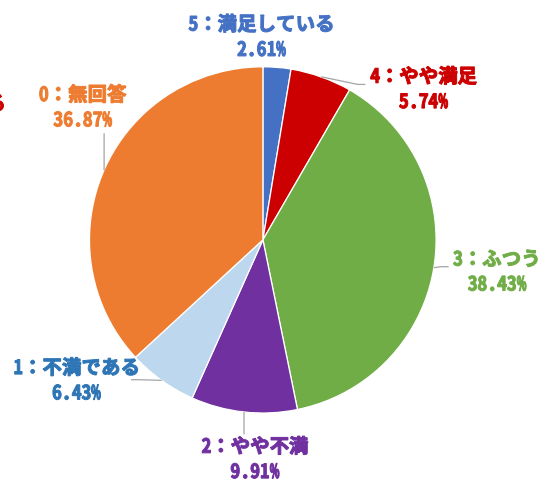
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

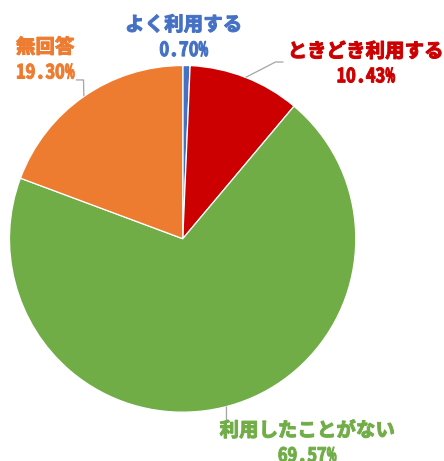
重要度（全年代）



満足度（全年代）



利用頻度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	4	7	9	1	0	2	3	4	3	1	1	11	0	5	17	1
20代	4	4	17	10	4	1	2	2	16	6	2	12	0	5	32	3
30代	7	3	18	6	5	5	2	1	13	6	5	17	0	8	32	4
40代	5	12	28	6	8	8	0	8	22	5	7	25	1	14	43	9
50代	4	8	54	10	5	11	0	3	43	9	11	26	0	16	65	11
60代	9	9	64	11	4	24	0	6	62	13	4	36	1	9	88	23
70代以上	14	19	54	15	3	58	7	8	57	15	7	69	1	2	116	44
不詳（無回答）	1	1	6	2	0	15	1	1	5	2	0	16	1	1	7	16

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

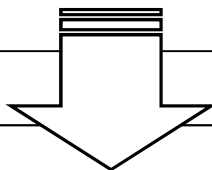
4. 分析

重要度、満足度とも前回より点数は上昇したものの、いずれも平均を下回ったほか、「ふつう」の回答率が重要度で43%、満足度で38%であり、施設への興味が薄れていることがうかがえます。年代別では50～70代以上の方の重要度が高くなっています。

利用頻度も「利用したことがない」が69%と最も高く、スキー人口の減少が如実に表れています。

○課 題

「スキー場を充実してほしい」との意見が一部あったものの、特にスキー場自体に関する意見はほとんどありませんでした。大型スキー場と比較し、規模も設備も乏しいスキー場であることは認識していますが、利用者増が見込めない中での設備投資は困難な状況にあります。



○課題解決への取組み

- ・現状設備の機能保持に努める。
- ・施設利用を促す情報発信

●総合分析

小さなスキー場で、設備の老朽化もあり、「スキー場を充実してほしい」との声は正直なものであると認識しております。施設の充実には多額の費用を要する大規模改修となり、スキー人口が減少している中では困難なものがありますが、雪国でしかできないスポーツでもあり、現状設備を活用してのイベントや施設運営に意を配し、利用者増に向けて取り組んでまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	スポーツ振興課
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7-24 プール

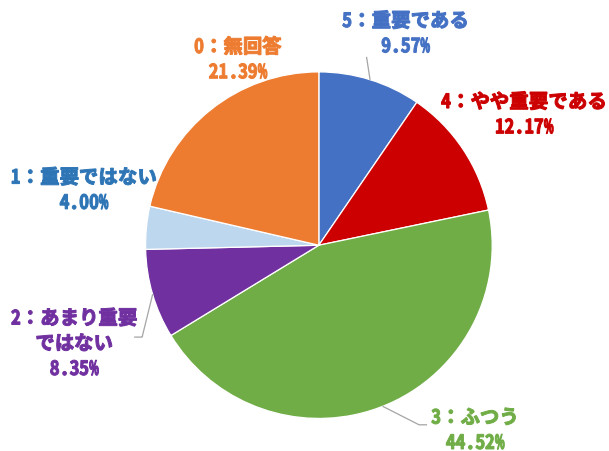
1. 施策の平均及び順位

7-24	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
プール	3.20	24	3.19	25	↓	-0.01	2.78	24	2.87	25	↓	0.09
施設別平均	3.63		3.69			0.06	3.16		3.20			0.04

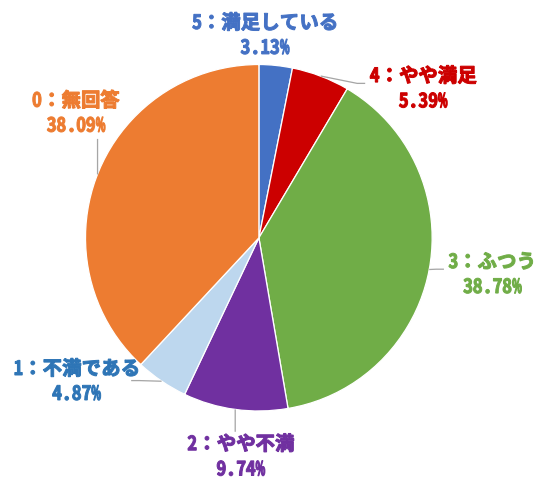
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

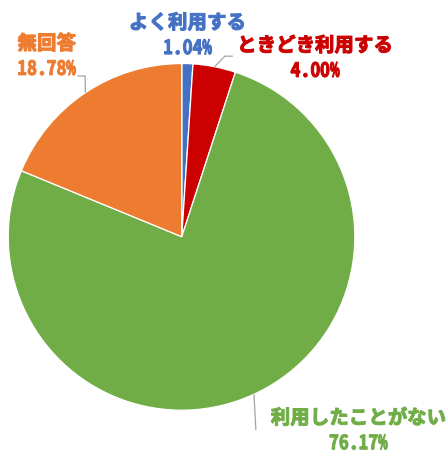
重要度（全年代）



満足度（全年代）



利用頻度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	3	7	10	1	0	2	2	5	3	1	0	12	0	2	20	1
20代	5	5	21	5	3	1	1	1	17	6	2	13	0	2	34	4
30代	9	4	21	1	5	4	4	1	14	3	4	18	0	5	35	4
40代	10	10	29	5	5	8	1	6	21	5	6	28	2	6	51	8
50代	4	9	55	10	3	11	1	2	44	13	4	28	1	2	80	9
60代	9	10	60	14	3	25	1	5	61	9	5	40	2	2	94	23
70代以上	14	24	52	12	4	57	7	11	56	18	7	64	0	3	117	43
不詳（無回答）	1	1	8	0	0	15	1	0	7	1	0	16	1	1	7	16

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

重要度、満足度ともに前回と同様に平均を下回り、下位にとどまっています。

重要度は「重要である」「やや重要」が21%で前回を下回り、「ふつう」「無回答」が65%で前回を上回っています。

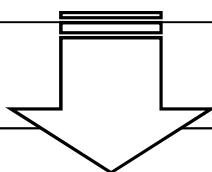
満足度は、「ふつう」が38%で前回を12ポイント下回った一方、「無回答」が38%で前回を16ポイント上回っています。

このことから、プールへの期待感の薄れが進んでいるものと分析します。

○課 題

前回に引き続き、「中心市街地から遠い」「屋内温水プールの建設」というご意見を多数いただいております。

現在のプールは、旧大館工業高校当時にインターハイ水球競技用として建設された施設で、閉校によって県から市へ譲渡されました。水球用のため深さが約1.9～2.1mあることから、競泳用プールよりも深く、一般のかたのニーズと異なる状況になっています。



○課題解決への取組み

- ・ SUPヨガ教室の開催等、プールの深さを生かした新たな視点での利活用提案
- ・ 市広報やホームページを活用した情報発信

●総合分析

人口減少社会の中、プールに限らず市単独で大型施設を建設して維持するのは、困難な状況になりつつあります。近隣市町村に類似施設がある場合、その施設を広域で有効活用することを検討しながら、花岡総合スポーツ公園多目的プール活用を進めてまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	生涯学習課
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7－25 文化会館

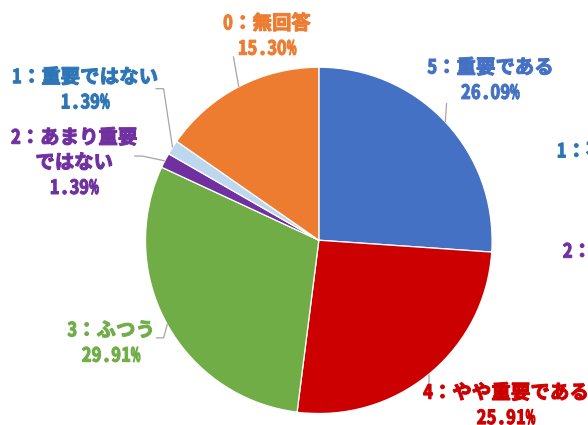
1. 施策の平均及び順位

7－25	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
文化会館	3.79	11	3.87	10	↑	0.08	3.37	5	3.43	5	－	0.06
施設別平均	3.63		3.69			0.06	3.16		3.20			0.04

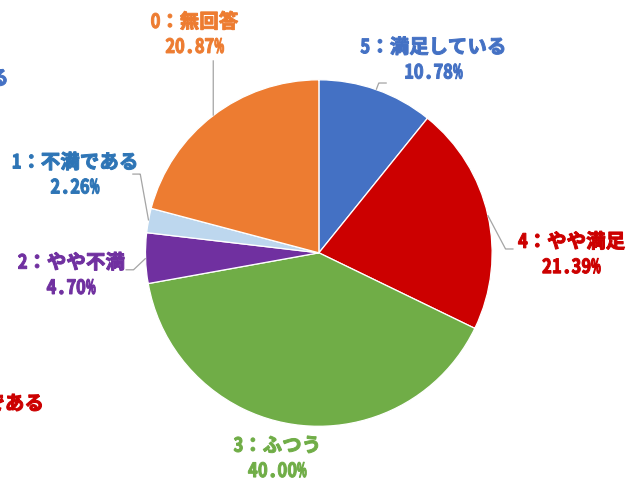
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

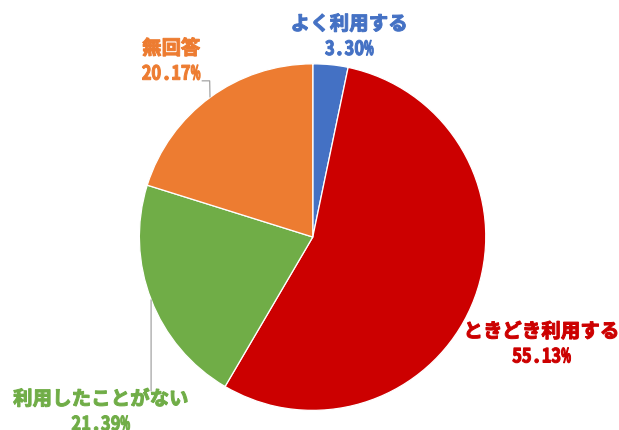
重要度（全年代）



満足度（全年代）



利用頻度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	14	5	3	0	0	1	9	7	2	2	0	3	1	16	5	1
20代	11	13	14	1	0	1	4	15	14	3	0	4	2	23	12	3
30代	12	8	19	0	3	2	4	8	19	0	3	10	3	26	12	3
40代	22	15	20	0	3	7	9	12	25	3	4	14	3	36	17	11
50代	21	27	32	3	1	8	7	15	47	5	4	14	3	52	24	13
60代	23	40	40	1	0	17	5	26	63	3	1	23	4	72	23	22
70代以上	41	39	41	3	1	38	20	38	58	9	1	37	1	86	29	47
不詳（無回答）	6	2	3	0	0	14	4	2	2	2	0	15	2	6	1	16

利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

重要度・満足度ともに平均を上回る結果となっています。前回に比べどちらもポイントが上がっています。回答分布を見ると重要度は約5割が「重要」、満足度は約3割が「満足」との回答となり、芸術文化の拠点としての重要性は認識されているものの、あまり満足度を感じられていない状況が続いていると考えられます。重要度については「利用したことがない」割合が増加していることから、「利用しないから重要と感じない」という理由が多く含まれるのではないかと考えます。

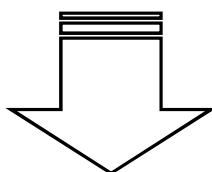
年代別の傾向を見ると、全体的に評価は高まっていますが特に高齢層（70代以上）から施設の利用、施設に対する重要度・満足度の評価が高いと考えられます。

○課 題

文化会館について「ライブ・コンサートを増やしてほしい」という提案の他、「駐車場の整備をしてほしい」、「ホール客席椅子の改修が必要だと思う」、「会場利用料金を安くしてほしい」という改善要望をいただきました。

SNS等の多種多様な媒体から情報を得ている若年から中年層のニーズは多様化・複雑化していることから、そのニーズを的確に把握し今後の事業に反映させていく必要があります。

また、施設のハード面についての改修・要望については、まずは利用者の安全・安心を心がけ、状況の把握と対策に努める必要があります。さらに、スタッフの対応については「満足度」に直結する重要なポイントと考えています。



○課題解決への取組み

- ・文化会館自主事業時や貸館時に聞き取りやアンケート実施・分析を行い、事業立案に役立てる。
- ・施設設備に対する要望の把握と情報共有を行い、対策に努める。

●総合分析

市民への質の高い芸術・文化に触れる機会と、文化芸術活動の場を提供している大館市民文化会館は、「重要度」で8割、「満足度」で7割以上が3点以上の評価をしていることから、市民にとって必要な施設と認識されているものと分析されます。ただし、前回に比べて「満足度」は1割減少しており、ソフト・ハード面それぞれに対する要望に加え「利用したことがない」＝「重要ではない」につながっている可能性も、少なからずあると考えます。新規の利用者を増やすことも重要な課題と捉え、時代に沿った方法を模索しながら、引き続きSNSやホームページの活用等により、より身近に感じられる施設の情報発信を行ってまいります。

第 18 回大館市世論調査
「あなたが採点する行政の通信簿」 分析結果報告書

分析担当課	スポーツ振興課
目 標 名	公共施設の利活用
施 策 名	7－26 樹海公園

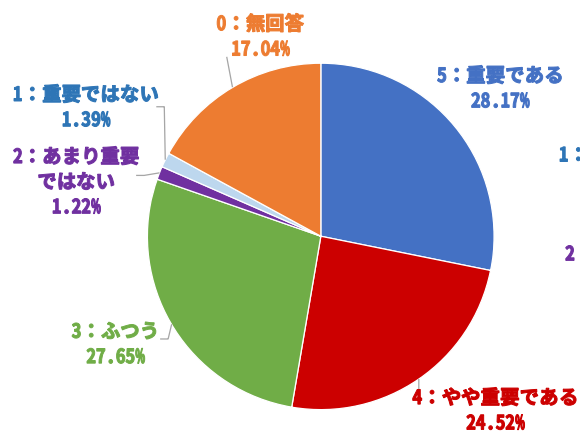
1. 施策の平均及び順位

7－26	重 要 度						満 足 度					
	第 17 回		第 18 回		増 減		第 17 回		第 18 回		増 減	
樹海公園	3.91	7	3.93	7	－	0.01	3.51	2	3.51	2	－	-0.00
施設別平均	3.63		3.69			0.06	3.16		3.20			0.04

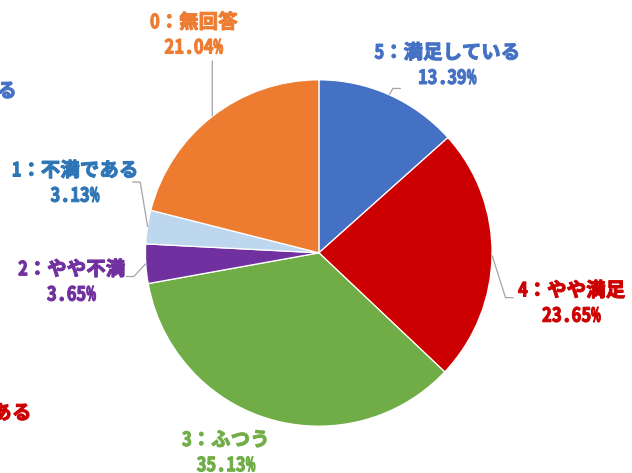
※小数点以下第3位を四捨五入し表示しています。このため、増減値は実数とならないことがあります。

2. 回答分布 (%)

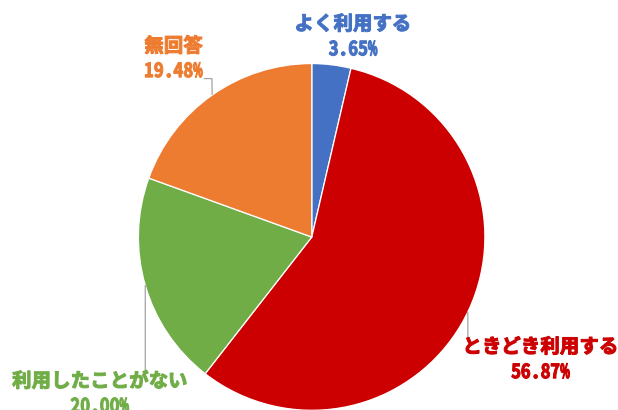
重要度（全年代）



満足度（全年代）



利用頻度（全年代）



3. 年代別の回答傾向

個 数	重要度（年代別）						満足度（年代別）						利用頻度（年代別）			
	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	3	2	1	0
10代	12	6	4	0	0	1	11	6	2	1	0	3	2	16	4	1
20代	18	13	8	0	0	1	9	11	12	3	1	4	2	28	6	4
30代	15	11	13	1	2	2	5	10	15	2	4	8	3	30	8	3
40代	24	16	18	0	3	6	10	18	21	1	3	14	6	34	18	9
50代	27	27	27	2	0	9	6	26	40	4	5	11	4	61	15	12
60代	25	34	42	0	1	19	8	32	53	3	1	24	2	77	21	21
70代以上	35	31	45	4	2	46	24	30	57	5	4	43	0	74	43	46
不詳（無回答）	6	3	2	0	0	14	4	3	2	2	0	14	2	7	0	16

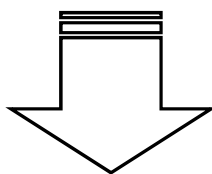
利用頻度：3 よく利用する、2 ときどき利用する、1 利用したことがない、0 無回答

4. 分析

重要度は52%が「重要である」「やや重要である」、満足度は37%が「満足している」「やや満足」となり、全体の割合としては一番大きいものの、どちらも前回調査から比率が若干下がっています。大館樹海ドームと樹海体育館へのスポーツAIカメラ設置による魅力度向上を図りましたが、活かしきれていないものと考えられます。

○課 題

- ・コンサートや大型スポーツイベントの開催について、前回に引き続き多くの意見をいただいております。
- ・大館樹海ドームのスコアボードが、経年劣化により使用不能になっており、主に野球での使用に支障をきたしていることから、利用者の減少が危惧されています。
- ・樹海体育館の移動観覧席が、経年劣化による車輪の割れのため移動不能になっており、大型イベントの際の観覧席が確保できない可能性が発生しています。



○課題解決への取組み

- ・大館樹海ドームや樹海体育館でのプロスポーツイベントの誘致・開催
- ・大型イベント時の駐車場確保策としてのシャトルバス利用の促進
- ・大館樹海ドーム所有者である秋田県へのスコアボードほか施設設備修繕要望や、スコアボードのデジタルサイネージ化の提案

●総合分析

スポーツA I カメラを設置しましたが、撮影画像を使用した戦術分析等の利用に結びついていないものと思われます。A I カメラがあるから来たい、と思ってもらえるP R方法を検討する必要があります。

また、当施設は新型コロナウイルスワクチン集団接種会場としても使用された他、きりたんぼまつり、大館圏域産業祭では毎年利用されています。今後も、全国育樹祭や全国高等学校総合文化祭での利用も予定されており、引き続き、スポーツだけではなく利用方法も提案してまいります。